
ペットに関する市民意識調査

報 告 書

令和3年7月

福岡市保健福祉局

目 次

第1章 調査の概要

1. 調査の目的と調査項目	1
2. 調査の設計.....	1
(1) 調査の対象と標本の抽出方法	1
(2) 調査の方法と調査時期	1
(3) 調査票の回収結果	1
3. 調査機関	1
4. 調査結果利用上の注意	2

第2章 標本の特性

1. 性別、年齢.....	3
2. 職業.....	4
3. 家族構成	4
4. 居住年数	5
5. 住宅の所有形式	5

第3章 調査の結果

1. ペットの飼養状況.....	7
(1) 飼っているペットの有無と種類.....	7
(2) 飼っている犬、猫の頭数	9
(3) 犬や猫を飼い始める時の入手先など	10
①犬や猫を飼い始める時の入手先	10
②入手先に動物愛護センターを選ばなかった理由	12
③「わんにゃんよかネット」のホームページの閲覧の有無	14
2. 飼っている犬や猫について	15
(1) マイクロチップの認知状況.....	15
(2) 犬猫のマイクロチップの装着状況.....	16
①犬猫にマイクロチップの装着の有無	16
②犬猫にマイクロチップを装着していない理由	17
(3) 災害時について	18
①避難が必要になった場合の対処方法	18
②動物との同行避難原則の認知状況.....	19
③災害時に備えたペットのための防災対策.....	20
④災害時にペットを連れて避難した経験	21
⑤避難している間のペットの飼育場所	21
⑥避難している間、ペットのことで困ったこと	21
(4) 犬の飼養について	22

①犬の飼育場所	22
②2頭以上の犬の飼育の有無	23
③犬を2頭以上飼育する理由	24
④犬の出産回数・頭数の認知状況	25
⑤犬の去勢や不妊手術の実施状況	26
⑥犬のかかりつけ動物病院の有無	27
(5) 飼い犬の登録	28
①福岡市への登録状況	28
②登録していない理由	29
③登録が法律義務の認知状況	30
④鑑札の装着状況	31
⑤鑑札を装着しない理由	32
⑥鑑札装着の法律義務の認知状況	33
(6) 飼い主の狂犬病予防注射	34
①狂犬病予防注射の実施状況	34
②狂犬病予防注射の接種場所	35
③狂犬病予防注射の接種場所を選ぶ理由	36
④狂犬病予防注射をしていない理由	38
⑤狂犬病予防注射の接種義務の認知状況	40
⑥狂犬病注射済票の装着状況	42
⑦狂犬病注射済票を装着しない理由	44
⑧狂犬病予防注射済票の装着義務の認知状況	46
(7) 犬を最期まで飼うために不安なこと	48
(8) 猫の飼養について	49
①2頭以上の猫の飼育の有無	49
②猫を2頭以上飼育する理由	50
③1頭の猫から産まれる頭数の認知状況	51
④猫の去勢や不妊手術の実施状況	52
⑤猫のかかりつけ動物病院の有無	53
(9) 猫の迷子札等の装着状況	54
①猫の迷子札等の装着状況	54
②迷子札等を装着しない理由	55
(10) 猫の飼育状況	56
(11) 猫を最期まで飼うために不安なこと	57
3. 犬による被害等について	58
(1) 他人が飼っている犬による被害について	58
①他人が飼っている犬による被害経験	58
②被害の内容	60
③被害への対処方法	62
④被害が起きる原因	64
4. 猫による被害等について	67
(1) 野良猫や近所の猫による被害について	67

①野良猫や近所の猫による被害経験.....	67
②被害の内容	69
③被害への対処方法	72
④被害がなくなる原因	75
(2) まちの中に野良猫がいることについての意見.....	78
(3) 野良猫等による問題を解決するため有効と思う市の施策	81
5. 地域猫活動について	83
(1) 地域猫活動の認知状況	83
(2) 地域猫活動への参加意向	86
(3) 自分の住む地域での地域猫活動実施について.....	89
①自分の住む地域での地域猫活動実施についての意見	89
②地域猫活動実施に賛成の理由	92
③地域猫活動実施に反対の理由	95
6. 犬や猫の多頭飼育について	97
(1) 近隣での犬や猫の多頭飼育による被害経験	97
(2) 多頭飼育問題解決ため有効と思う市の支援	99
(3) 多頭飼育の届出制度の認知状況.....	100
7. 調査結果のまとめ.....	101
使用した調査票と全体結果.....	104

第1章 調査の概要

1. 調査の目的と調査項目

この調査は犬、猫などのペットに関して、福岡市民の飼養状況や考え方を把握し、今後の動物関係行政を推進するための基礎資料を得ることを目的としている。

調査項目は、主に6つの分野から構成されている。使用した調査票を巻末に収録しているので参照していただきたい。

- ① 調査対象者の属性に関する調査項目
- ② 犬、猫の飼養状況に関する調査項目
- ③ 犬に関する調査項目
- ④ 猫に関する調査項目
- ⑤ 地域猫活動に関する調査項目
- ⑥ 犬や猫の多頭飼育に関する調査項目

2. 調査の設計

（1）調査の対象と標本の抽出方法

福岡市に居住する20歳以上の男女を調査の対象とし、住民基本台帳から2,000人を無作為に抽出した。

（2）調査の方法と調査時期

調査票の配布、回収ともに郵送法とし、令和3年5月に調査を実施した。

（3）調査票の回収結果

配布数2,000票に対し、1,028票の有効回収票が得られ、回収率は54.6%となった。

配布数	回収数	有効回収数	有効回収率
2,000 件	1,028 件	1,028 件	51.4%

3. 調査機関

（株）サーベイリサーチセンター

4. 調査結果利用上の注意

- 数字は、百分比のポイント以下2位を四捨五入しているので、回答比率の合計は、必ずしも100%ちょうどになるとは限らない。
- 数表、図表、文中に占める「n」は、比率算出上の基数（標本数）である。
- 数表、図表に示す選択肢はスペースの関係で文言を省略している場合があるので、巻末の調査票を参照のこと。
- 福岡市では、平成7年11月と平成13年10月、平成20年2月、平成26年5月にも今回の調査と同じ調査概要で「ペットに関する市民意識調査」を実施しており、必要に応じて結果の比較を行った。

過去の調査の有効回収票と有効回収率は以下の通りである。

	配布数	有効回収数	有効回収率
平成26年度	2,000 件	1,091 件	54.6%
平成19年度	2,000 件	1,095 件	54.8%
平成13年度	2,000 件	1,074 件	53.7%
平成7年度	2,000 件	1,038 件	51.9%

第2章 標本の特徴

今回の調査で有効回収され、集計・分析の対象となった標本の構成（回答者のプロフィール）は次の通りである。

1. 性別、年齢

回答者の性別は、「男性」が38.4%、「女性」が60.9%となっており、住民基本台帳に比べ「女性」の割合が高くなっている。

年齢は、60歳以上の層で4割以上を占めており、年齢層が高くなるに従い、割合が高くなる傾向がみられる。住民基本台帳と比べると、20代、30代の割合が低く、60歳以上での割合が高くなっている。

このことから、今回の調査に関しては全体的に「女性」と高年齢層から多くの協力を得ているといえる。

図 2-1 性別

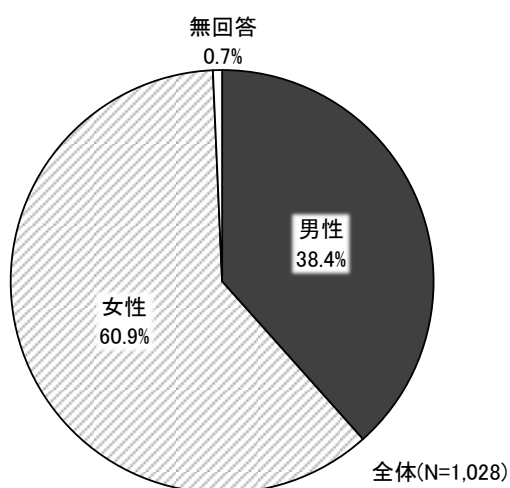


図 2-2 年齢

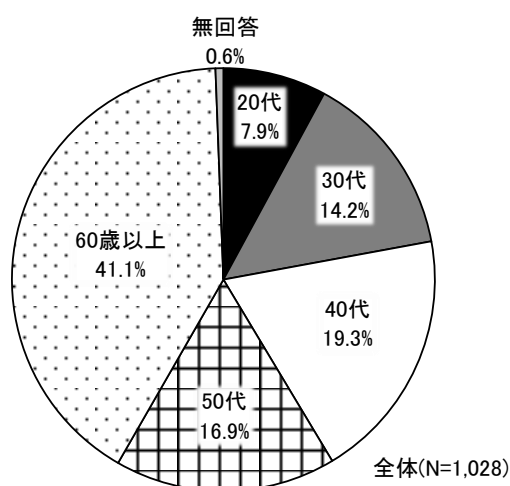


表 2-1 標本の特性（性別、年齢）

(単位: %)

	標本数	性別			年齢					
		男性	女性	無回答	20代	30代	40代	50代	60歳以上	無回答
全 体	1,028 100.0	395 38.4	626 60.9	7 0.7	81 7.9	146 14.2	198 19.3	174 16.9	423 41.1	6 0.6
住民基本台帳	1,287,566 100.0	599,389 46.6	688,177 53.4	—	202,590 15.7	213,774 16.6	243,164 18.9	200,588 15.6	427,450 33.2	—

注) 住民基本台帳による20歳以上の市民の人口、性別、年齢の構成比は令和3年4月末現在。

2. 職業

職業の有無は「職業あり」が53.5%と最も多く、次いで「主婦」が24.7%、「無職」が16.1%となっている。

性別にみると、男性は68.9%と過半数が「職業あり」であるが、女性は44.2%と過半数を下回っている。一方で、「無職」は女性が11.0%であるのに対し、男性は24.1%とかなり多くなっている。

年齢別では、20代は「職業あり」に次いで「学生」が多いが、30代から50代の層までは「職業あり」に次いで「主婦」が多く、60歳以上は「無職」に次いで「主婦」、そして「職業あり」の順となっている。（表2-2）

3. 家族構成

家族構成は「親と子供の世帯（二世帯）」が46.2%を占め、これに「夫婦のみの世帯」が26.8%、「単身世帯」が20.0%と続き、「三世帯以上の世帯」は4.0%と少ない。

性別では、男性で「夫婦のみの世帯」がやや多くなっている。

年齢別では、20代は「親と子供の世帯（二世帯）」が51.9%と最も多く、次いで「単身世帯」が35.8%となっている。30代から50代では「親と子供の世帯（二世帯）」が最も多く、次いで30代・40代では「単身世帯」、50代では「夫婦のみ」の世帯となっている。60歳以上では最も多いのが「夫婦のみの世帯」で42.8%、次いで「親と子供の世帯（二世帯）」で27.9%となっている。（表2-2）

表2-2 職業、家族構成（性別、年齢別）

（単位：％）

（単位：％）

		調 査 数	職 業						家 族 構 成					
			職 業 あ り	学 生	主 婦	無 職	そ の 他	無 回 答	単 身 世 帯	夫 婦 の み の 世 帯	代 親 と 子 供 の 世 帯 （ 二 世 帯	三 世 代 以 上 の 世 帯	そ の 他	無 回 答
全 体		1,028 100.0	550 53.5	19 1.8	254 24.7	165 16.1	26 2.5	14 1.4	206 20.0	276 26.8	475 46.2	41 4.0	18 1.8	12 1.2
性 別	男性	395	68.9	2.8	—	24.1	3.3	1.0	18.2	30.1	45.8	4.1	1.3	0.5
	女性	626	44.2	1.3	40.4	11.0	2.1	1.0	21.1	24.9	47.0	4.0	2.1	1.0
	無回答	7	14.3	—	14.3	14.3	—	57.1	28.6	14.3	—	—	—	57.1
年 齢 別	20代	81	69.1	19.8	4.9	4.9	1.2	—	35.8	8.6	51.9	1.2	1.2	1.2
	30代	146	76.7	0.7	15.8	4.8	1.4	0.7	23.3	13.7	58.9	2.7	0.7	0.7
	40代	198	69.7	1.0	24.7	1.5	1.5	1.5	15.2	13.1	65.7	4.0	1.5	0.5
	50代	174	75.3	—	21.3	1.1	1.7	0.6	13.2	23.6	56.3	6.3	0.6	—
	60歳以上	423	26.2	—	33.3	35.2	4.0	1.2	21.3	42.8	27.9	4.0	2.8	1.2
	無回答	6	33.3	—	—	—	—	66.7	—	16.7	16.7	—	—	66.7

4. 居住年数

居住年数は、「10～20 年未満」が 20.3%と最も多く、僅差で「30 年以上」が 19.8%、「5～10 年未満」が 17.0%、「3 年未満」が 16.3%、「20～30 年未満」が 15.3%、「3～5 年未満」が 6.2%となっている。

性別では、男性が「30 年以上」、女性は「10～20 年未満」の割合が最も高くなっている。

年齢別では、20 代・30 代で「3 年未満」、40 代では「5～10 年未満」、50 代では「10～20 年未満」、60 歳以上では「30 年以上」と回答する人が最も多くなっている。年齢層が高くなるにしたがい、居住年数も長くなっているが、60 歳以上でも「30 年以上」という人は約 4 割にとどまっている。

表 2-3 居住年数（性別、年齢別）

(単位: %)

		調査数	居住年数						無回答
			3 年未満	3 ～ 5 年未満	5 ～ 10 年未満	10 ～ 20 年未満	20 ～ 30 年未満	30 年以上	
全 体		1,028	168	64	175	209	157	204	51
		100.0	16.3	6.2	17.0	20.3	15.3	19.8	5.0
性別	男性	395	17.2	5.6	18.0	20.0	13.7	21.0	4.6
	女性	626	15.8	6.5	16.6	20.6	16.5	19.2	4.8
	無回答	7	14.3	14.3	—	14.3	—	14.3	42.9
年齢別	20代	81	49.4	4.9	11.1	22.2	9.9	—	2.5
	30代	146	40.4	11.6	20.5	6.8	8.2	6.2	6.2
	40代	198	15.7	7.6	32.8	30.8	5.6	4.0	3.5
	50代	174	12.6	4.0	16.7	34.5	20.1	8.6	3.4
	60歳以上	423	3.8	5.0	9.9	13.9	21.3	40.7	5.4
	無回答	6	—	—	—	16.7	16.7	—	66.7

5. 住宅の所有形式

住宅の所有形式は『持ち家』が「持ち家（一戸建て）」の 34.7%と「持ち家（マンションなどの共同住宅）」の 27.5%を合わせて 62.2%、『借家』が「民間の借家（アパート・マンション）」の 25.9%を筆頭に合わせて 35.8%となっている。所有形式にかかわらず、住宅の建て方でみると、『一戸建て』が 36.0%、『共同住宅』が 62.0%となっている。

性別では、ほとんど差はみられない。

年齢別では、20 代・30 代で「民間の借家（アパート・マンション）」とする人が最も多く、次いで 20 代では「持ち家（マンションなどの共同住宅）」、30 代では「持ち家（一戸建て）」となっている。40 代では「持ち家（マンションなどの共同住宅）」、50 代から 60 歳以上の年齢の高い層では「持ち家（一戸建て）」とする人が最も多い。

居住年数別では、10 年未満の層で「民間の借家（アパート・マンション）」が最も多く、10～20 年未満の層では「持ち家（マンションなどの共同住宅）」、20 年以上の層では「持ち家（一戸建て）」が最も多い。居住年数が長くなるにつれて「持ち家（一戸建て）」の割合が高くなる傾向があり、20～30 年未満では「持ち家（一戸建て）」が 4 割以上、30 年以上になると 7 割以上を占めている。

表 2-4 住宅の所有形式（性別、年齢別、居住年数別）

（単位：％）

（単位：％）

		調査数	住宅の所有形式										
			持ち家（一戸建て）	持ち家（マンションなど の共同住宅）	市営住宅	県営住宅	公団・公社の賃貸住宅	民間の借家（一戸建て）	民間の借家（アパート・マンション）	社宅・寮など（一戸建て）	社宅・寮など（アパート・マンション）	その他	無回答
全 体		1,028 100.0	357 34.7	283 27.5	29 2.8	8 0.8	28 2.7	10 1.0	266 25.9	3 0.3	24 2.3	14 1.4	6 0.6
性別	男性	395	36.5	26.1	2.3	0.3	3.0	1.3	25.8	0.8	2.5	1.3	0.3
	女性	626	33.9	28.8	3.0	1.1	2.4	0.8	26.2	－	2.2	1.3	0.3
	無回答	7	14.3	－	14.3	－	14.3	－	－	－	－	14.3	42.9
年齢別	20代	81	16.0	23.5	2.5	－	1.2	1.2	50.6	－	2.5	1.2	1.2
	30代	146	24.7	15.1	1.4	－	2.7	2.1	49.3	0.7	2.7	0.7	0.7
	40代	198	25.8	32.8	1.0	1.0	1.5	1.0	30.8	－	4.5	1.5	－
	50代	174	35.1	33.9	2.3	－	3.4	0.6	19.5	0.6	4.0	0.6	－
	60歳以上	423	46.3	27.2	4.5	1.4	3.3	0.7	13.7	0.2	0.5	1.9	0.2
	無回答	6	－	50.0	－	－	－	－	－	－	－	－	50.0
居住年数別	3年未満	168	12.5	18.5	3.0	0.6	1.8	1.2	56.0	0.6	4.2	0.6	1.2
	3～5年未満	64	14.1	21.9	1.6	1.6	3.1	－	51.6	－	3.1	3.1	－
	5～10年未満	175	21.7	30.9	2.9	－	4.6	1.1	32.0	0.6	4.6	1.7	－
	10～20年未満	209	29.7	36.8	2.9	1.0	2.4	1.0	23.0	0.5	2.4	0.5	－
	20～30年未満	157	42.7	36.3	1.3	1.9	1.9	0.6	11.5	－	1.3	2.5	－
	30年以上	204	71.6	16.7	4.9	0.5	2.0	1.5	2.9	－	－	－	－
	無回答	51	27.5	31.4	－	－	5.9	－	21.6	－	－	5.9	7.8

第3章 調査の結果

1. ペットの飼養状況

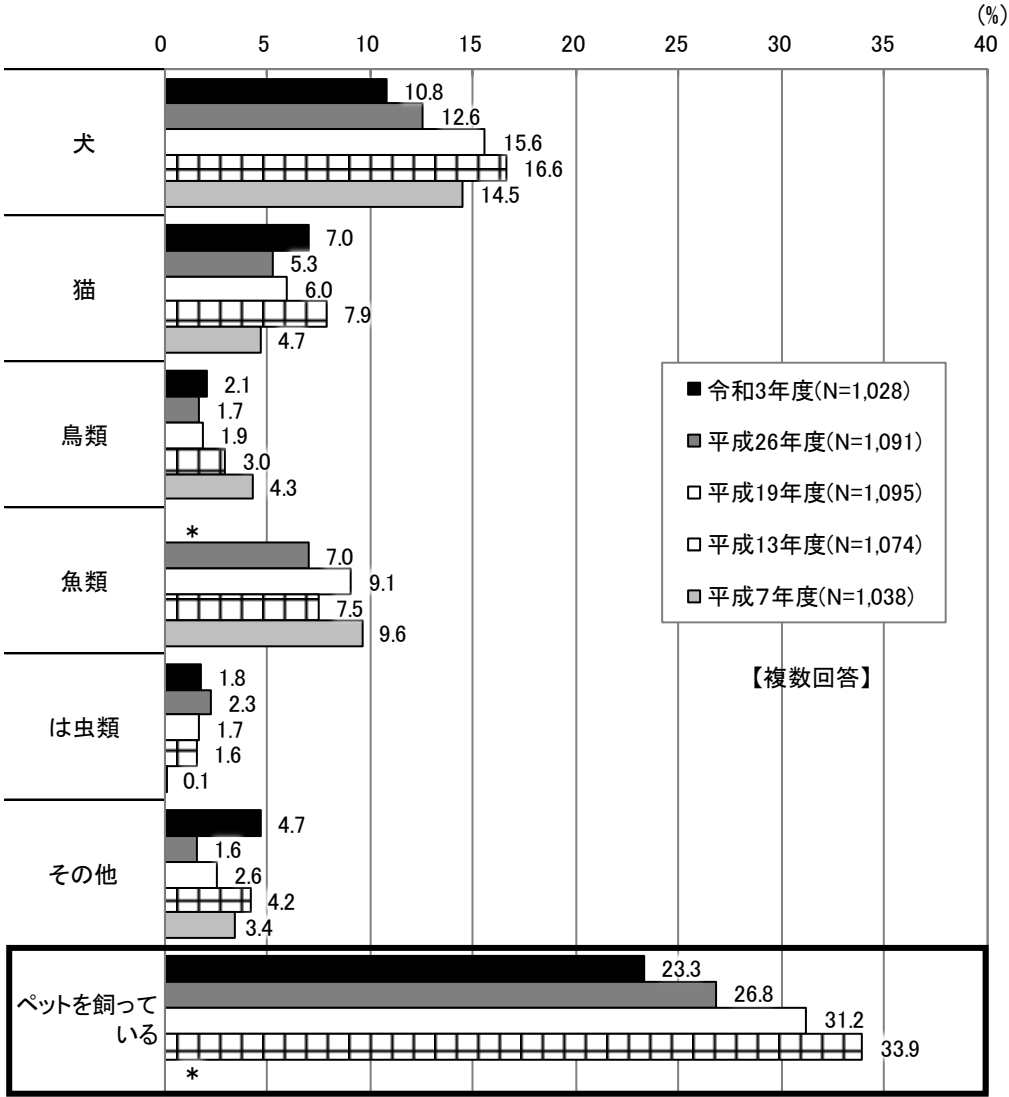
(1) 飼っているペットの有無と種類

問4【全員】あなたのご家庭では、何かペットを飼っていますか。飼っているものがあれば、いくつでも選び、合わせて飼っている動物の数（頭数，匹数，羽数）を記入して下さい。（○はいくつでも、○をつけた番号は数も記入）

家庭におけるペット飼育状況をみると、「飼っている」が 23.3%、「飼っていない」が 72.2%、「不明」が 4.5%となっている。なお、飼っているペットの種類は「犬」（10.8%）が最も多く、次いで「猫」（7.0%）、「その他」（4.7%）、「鳥類」（2.1%）、「は虫類」（1.8%）となっている。

時系列にみると、家庭におけるペットの飼育状況は平成 13 年度調査と比べ 10.6 ポイント低く、年々減少の傾向を示している。

図 3-1-1 飼っているペットの有無と種類（複数回答）



性別にみると、男女とも全体結果とほぼ同様の傾向を示している。

年齢別にみると、20代・40代・50代において「犬」を飼っている割合がやや高くなっている。

家族構成別にみると、多世代世帯になるほど「ペットを飼っている」という割合が高く、三世代以上の世帯は「犬」を飼っている人が多くなっている。

住宅の所有形式別にみると、借家一戸建てにおいて「ペットを飼っている」という割合が高く、持家一戸建てや借家一戸建てに住んでいる世帯は「犬」を飼っている人が多くなっている。

居住地区別にみると、「ペットを飼っている」という割合は南区、西区において高く、この両地区においては「犬」を飼っている人が多くなっている。

地域環境別にみると、「ペットを飼っている」という割合は一戸建てが多い住宅地で高く、この地区においては「犬」を飼っている人が多くなっている。それに対し、サンプル数が少ないため傾向値ではあるが、工場や倉庫が多い地域では「猫」を飼っている人が多くなっている。

表 3-1-1 飼っているペットの有無と種類

(性別、年齢別、家族構成別、住宅の所有形式別、居住地区別、地域環境別)

(単位: %)

		調査数	犬	猫	鳥類	は虫類	その他	いずれも飼っていない	無回答	ペットを飼っている
全 体		1,028	111	72	22	18	48	742	46	240
		100.0	10.8	7.0	2.1	1.8	4.7	72.2	4.5	23.3
性別	男性	395	10.6	7.1	2.5	1.0	3.3	73.9	3.8	22.3
	女性	626	10.9	7.0	1.9	2.2	5.6	71.1	4.8	24.1
	無回答	7	14.3	-	-	-	-	71.4	14.3	14.3
年齢別	20代	81	16.0	7.4	-	-	6.2	70.4	2.5	27.2
	30代	146	8.2	8.2	1.4	3.4	5.5	77.4	-	22.6
	40代	198	13.1	6.6	1.0	3.5	6.1	71.2	2.0	26.8
	50代	174	13.2	6.9	2.3	0.6	4.6	71.3	2.9	25.9
	60歳以上	423	8.5	6.6	3.3	1.2	3.5	71.9	8.0	20.1
	無回答	6	16.7	16.7	-	-	-	50.0	16.7	33.3
家族構成別	単身世帯	206	3.4	2.9	1.0	0.5	3.4	82.5	7.8	9.7
	夫婦のみの世帯	276	9.4	8.3	2.5	1.1	2.2	73.2	5.1	21.7
	親と子供の世帯(二世帯)	475	13.7	8.4	1.9	2.1	5.9	68.8	2.7	28.4
	三世代以上の世帯	41	26.8	2.4	7.3	9.8	12.2	53.7	-	46.3
	その他	18	5.6	11.1	5.6	-	5.6	66.7	11.1	22.2
	無回答	12	8.3	-	-	-	8.3	75.0	8.3	16.7
住宅の所有形式別	持ち家(一戸建て)	357	16.2	10.1	2.8	2.2	5.0	63.3	5.3	31.4
	持ち家(マンションなどの共同住宅)	283	10.2	6.4	2.5	1.1	3.9	73.5	3.9	22.6
	市営住宅	29	3.4	-	-	-	-	79.3	17.2	3.4
	県営住宅	8	-	-	-	12.5	12.5	87.5	-	12.5
	公団・公社の賃貸住宅	28	-	-	3.6	-	-	96.4	-	3.6
	民間の借家(一戸建て)	10	20.0	20.0	-	10.0	20.0	60.0	-	40.0
	民間の借家(アパート・マンション)	266	5.6	6.0	1.5	1.9	5.6	78.2	3.0	18.8
	社宅・寮など(一戸建て)	3	-	-	-	-	-	100.0	-	-
	社宅・寮など(アパート・マンション)	24	12.5	-	-	-	-	87.5	-	12.5
	その他	14	14.3	-	-	-	-	71.4	14.3	14.3
居住地区別	無回答	6	16.7	-	-	-	16.7	50.0	16.7	33.3
	東区	216	12.5	5.6	2.3	2.3	4.2	73.6	4.2	22.2
	博多区	162	8.0	7.4	1.2	1.2	4.3	75.3	5.6	19.1
	中央区	114	7.9	3.5	0.9	-	4.4	78.9	4.4	16.7
	南区	186	10.8	7.5	3.2	2.7	7.0	66.7	4.3	29.0
	城南区	79	7.6	11.4	1.3	1.3	2.5	73.4	5.1	21.5
	早良区	126	11.1	7.1	2.4	0.8	4.0	73.0	5.6	21.4
	西区	140	15.0	8.6	2.1	2.9	5.0	67.9	2.1	30.0
	無回答	5	20.0	-	20.0	-	-	40.0	20.0	40.0
	住宅地(集合住宅が多い)	522	7.1	5.7	1.5	0.8	3.6	78.2	4.2	17.6
地域環境別	住宅地(一戸建てが多い)	427	16.2	8.7	2.3	2.8	5.9	64.4	4.4	31.1
	商業地・繁華街	38	5.3	7.9	5.3	5.3	5.3	68.4	10.5	21.1
	工場や倉庫が多い地域	8	-	12.5	-	-	-	87.5	-	12.5
	緑が多い地域	24	4.2	4.2	8.3	-	8.3	83.3	-	16.7
	無回答	9	22.2	-	-	-	-	66.7	11.1	22.2

(2) 飼っている犬、猫の頭数

飼っている犬、猫の頭数をみると、いずれも「1頭」と回答する人が最も多いものの、猫の場合「2頭」(30.6%)、「3頭」(11.1%)、「4頭以上」(9.7%)と、複数頭飼育する世帯が51.4%を占めている。平均飼育頭数は、犬が1.26頭、猫が2.03頭となっている。

時系列にみると、犬の飼育頭数はほぼ同様であるが、猫の飼育頭数は平成19年度調査から平成26年度調査の間にかけて大きく増えている。

図 3-1-2 飼っている犬、猫の頭数（単数回答）

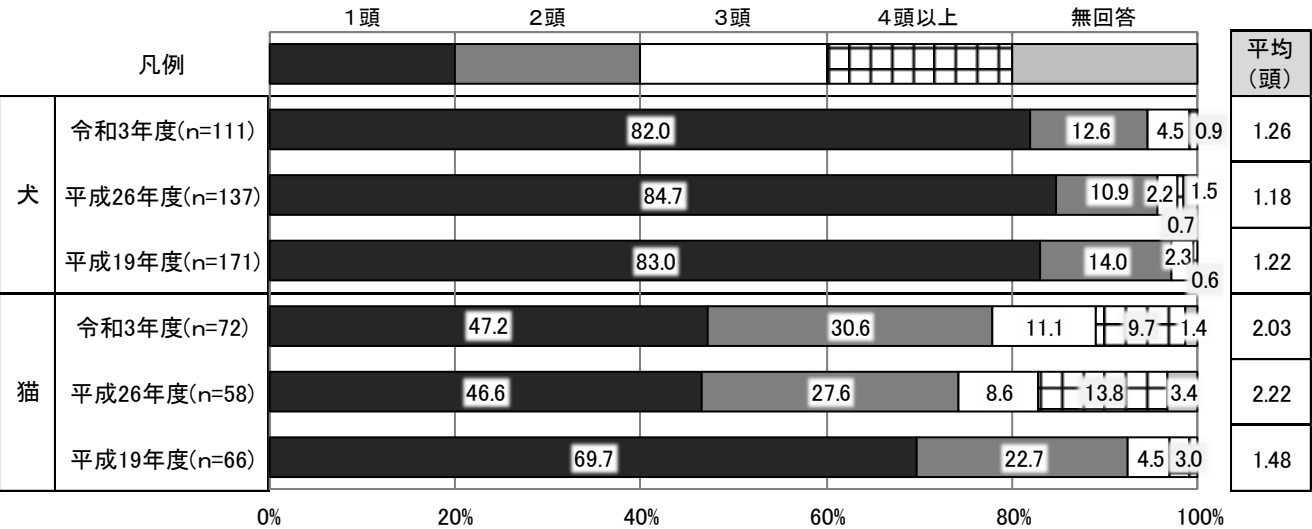


表 3-1-2 飼っている犬の頭数（犬の飼育場所別）
(単位: %)

		調査数	1頭	2頭	3頭	4頭以上	平均（頭）
全 体		111 100.0	91 82.0	14 12.6	5 4.5	1 0.9	1.26
犬の飼育場所別	屋外	4	100.0	-	-	-	1.00
	室内	97	80.4	13.4	5.2	1.0	1.29
	屋外と室内	6	100.0	-	-	-	1.00
	無回答	4	75.0	25.0	-	-	1.25

表 3-1-3 飼っている猫の頭数（猫の飼育場所別）

		(単位: %)						平均（頭）
		調査数	1頭	2頭	3頭	4頭以上	無回答	
全 体		72 100.0	34 47.2	22 30.6	8 11.1	7 9.7	1 1.4	2.03
猫の飼育場所別	屋外には一切出さず、屋内でも飼っている	54	50.0	29.6	11.1	7.4	1.9	1.94
	時々外に出ることがある	10	40.0	30.0	20.0	10.0	-	2.00
	猫が自由に屋内外を出入りできるようにしている	6	50.0	16.7	-	33.3	-	2.83
	屋内には一切入れず、屋外でのみ飼っている	-	-	-	-	-	-	-
	無回答	2	-	100.0	-	-	-	2.00

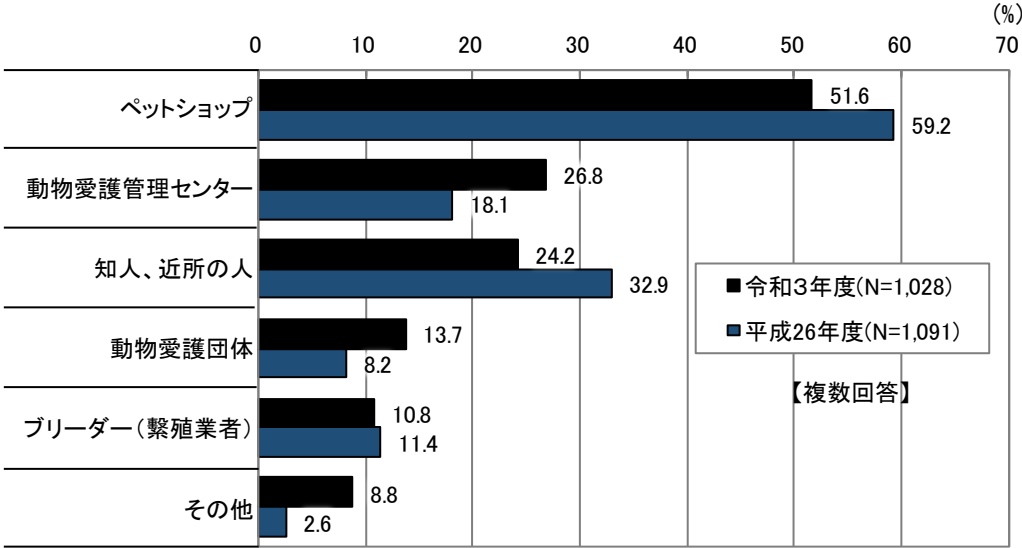
(3) 犬や猫を飼い始める時の入手先など

①犬や猫を飼い始める時の入手先

問2【全員】あなたがもし犬猫を飼いはじめる場合、どこから入手しますか。(〇はいくつでも)

犬や猫を飼い始める時の入手先を尋ねたところ、「ペットショップ」(51.6%)が最も多く、以下「動物愛護管理センター」(26.8%)、「知人、近所の人」(24.2%)、「動物愛護団体」(13.7%)、「ブリーダー(繁殖業者)」(10.8%)と続いている。前回調査より、「ペットショップ」、「知人、近所の人」、「ブリーダー(繁殖業者)」が減少傾向、「動物愛護管理センター」、「動物愛護団体」、「その他」が増加傾向にある。

図 3-1-3 犬や猫を飼い始める時の入手先(複数回答)



性別にみると、男女とも全体結果とほぼ同様の傾向を示している。

年齢別にみると、どの年代でも「ペットショップ」と回答する人が最も多く、20代～50代では次いで「動物愛護管理センター」、60歳以上では「知人、近所の人」と回答する人が多い。

表 3-1-4 犬や猫を飼い始める時の入手先（性別、年齢別）

(単位: %)

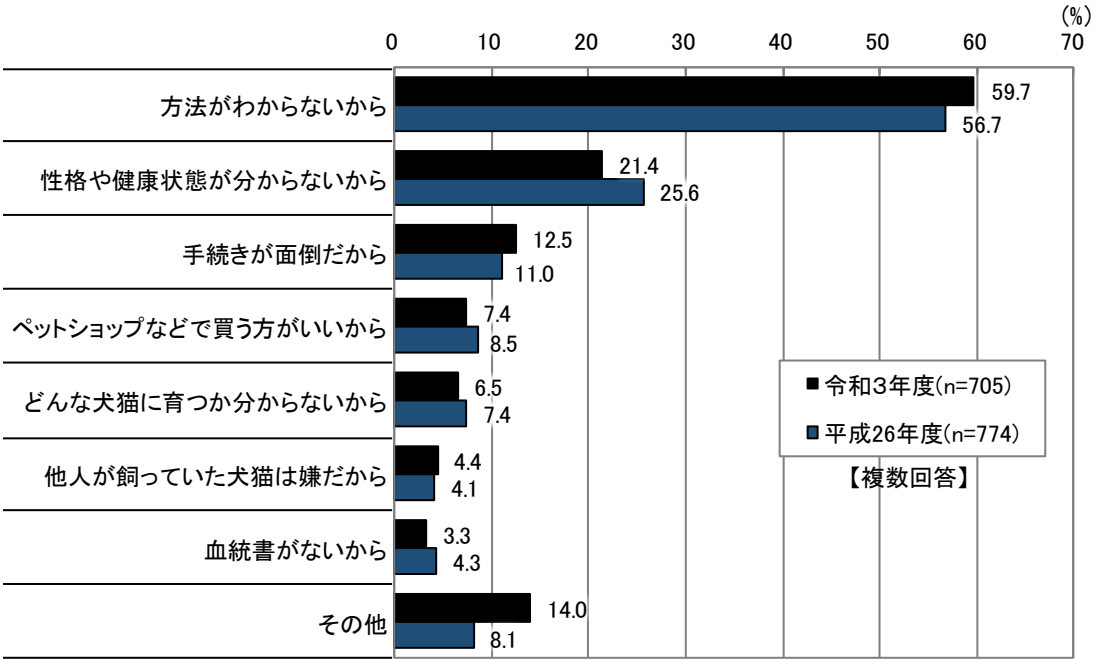
		調査数	ペットショップ	動物愛護管理センター	知人、近所の人	動物愛護団体	ブリーダー（繁殖業者）	その他	無回答
全 体		1,028	530	275	249	141	111	90	48
		100.0	51.6	26.8	24.2	13.7	10.8	8.8	4.7
性別	男性	395	52.7	24.3	24.3	12.9	11.9	7.6	3.5
	女性	626	51.0	28.4	24.4	14.4	10.2	9.4	5.0
	無回答	7	42.9	14.3	—	—	—	14.3	42.9
年齢別	20代	81	58.0	38.3	18.5	21.0	18.5	4.9	2.5
	30代	146	57.5	32.9	26.0	17.8	14.4	4.8	2.1
	40代	198	61.1	27.3	25.3	17.2	18.2	2.5	2.5
	50代	174	56.3	32.2	26.4	13.2	12.1	6.9	3.4
	60歳以上	423	41.8	19.9	23.6	9.5	4.3	14.7	7.3
	無回答	6	50.0	33.3	—	16.7	—	—	16.7

②入手先に動物愛護センターを選ばなかった理由

問2-1（問2で「1. 動物愛護管理センター」と回答されなかった方のみお答え下さい。）
動物愛護管理センターを選ばなかった理由として、あてはまるものをいくつでも選んで下さい。
（○はいくつでも）

入手先に動物愛護センターを選ばなかった理由を尋ねたところ、「方法がわからないから」と回答する人が59.7%と高くなっている。それ以外の理由としては、「性格や健康状態が分からないから」(21.4%)、「手続きが面倒だから」(12.5%) などが多くあがっている。前回調査とみ比べると、大きな差はみられない。

図 3-1-4 入手先に動物愛護センターを選ばなかった理由（複数回答）



性別にみると、男女とも「方法がわからないから」が中心的な回答であるが、女性は男性に比べ「性格や健康状態がわからないから」と回答する人がやや多くみられる。

年齢別にみると、すべての年代において「方法がわからないから」が中心的な回答であり、20代～40代の割合は7割以上を占める。

表 3-1-5 入手先に動物愛護センターを選ばなかった理由（性別、年齢別）

(単位: %)

	サンプル数	方法がわからないから	性格や健康状態がわからないから	手続きが面倒だから	ペットショップがいっぱいなど	どんな犬猫に育つか	他人が飼っていた犬猫は嫌だから	血統書がないから	その他	無回答
全 体	705 100.0	421 59.7	151 21.4	88 12.5	52 7.4	46 6.5	31 4.4	23 3.3	99 14.0	80 11.3
性別										
男性	285	60.7	17.2	14.4	7.7	6.7	5.3	3.5	12.3	10.9
女性	417	59.2	24.2	11.3	7.0	6.5	3.8	3.1	15.1	11.8
無回答	3	33.3	33.3	-	33.3	-	-	-	33.3	-
年齢別										
20代	48	83.3	10.4	8.3	-	4.2	2.1	2.1	14.6	4.2
30代	95	72.6	14.7	17.9	9.5	2.1	2.1	1.1	16.8	2.1
40代	139	74.1	28.8	12.9	7.2	7.2	7.2	6.5	10.8	3.6
50代	112	61.6	23.2	11.6	6.3	3.6	4.5	2.7	12.5	10.7
60歳以上	308	45.5	21.4	11.4	8.1	9.1	4.2	2.9	14.9	19.2
無回答	3	-	-	33.3	33.3	-	-	-	33.3	-

③「わんにゃんよかネット」のホームページの閲覧の有無

問3【全員】あなたは犬猫の譲渡情報等が掲載されている福岡市動物愛護管理センターのホームページ「わんにゃんよかネット」を見たことがありますか。

「わんにゃんよかネット」のホームページの閲覧の有無をみると、「いいえ」が83.2%と高くなっている。
飼っているペット別にみると、サンプル数が少ないため傾向値ではあるが、猫（オス）の飼養者で、「はい」が55.9%と高くなっている。

図 3-1-5 「わんにゃんよかネット」のホームページの閲覧の有無（単数回答）

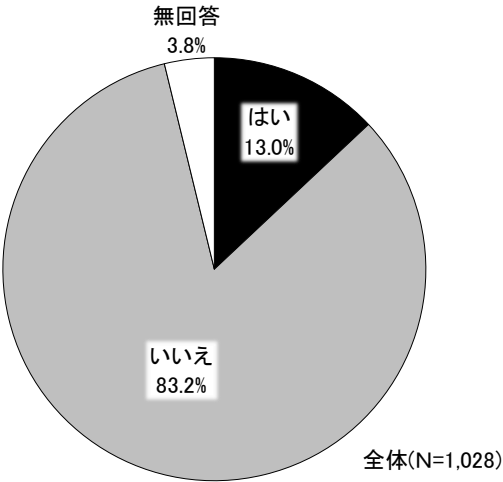


表 3-1-6 「わんにゃんよかネット」のホームページの閲覧の有無（飼っているペットの種類別）

		問3 「わんにゃんよかネット」の既知			
		全	はい	いいえ	無
全 体		1,028	134	855	39
		100.0	13.0	83.2	3.8
飼 っ て い る ペ ッ ト の 種 類	犬（オス）	68	25	41	2
		100.0	36.8	60.3	2.9
	犬（メス）	50	15	35	-
		100.0	30.0	70.0	-
	猫（オス）	34	19	15	-
		100.0	55.9	44.1	-
	猫（メス）	59	21	38	-
		100.0	35.6	64.4	-
	鳥類	22	3	18	1
		100.0	13.6	81.8	4.5
	は虫類	18	4	14	-
		100.0	22.2	77.8	-
	その他	48	7	39	2
		100.0	14.6	81.3	4.2
	いずれも飼っていない	742	61	657	24
		100.0	8.2	88.5	3.2
無 回 答		46	3	32	11
		100.0	6.5	69.6	23.9

2. 飼っている犬や猫について

(1) マイクロチップの認知状況

問5 【犬や猫を飼っている人】あなたはマイクロチップを知っていますか。

マイクロチップの認知状況をみると、「はい」（79.7％）と回答する人が8割弱みられる。
飼っているペット別にみると、大きな差はみられない。

図 3-2-1 マイクロチップの認知状況（単数回答）

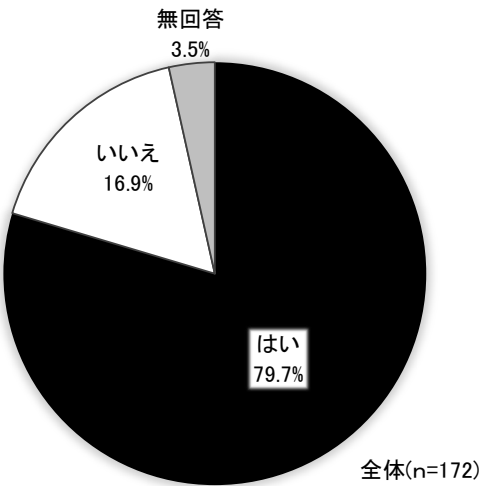


表 3-2-1 マイクロチップの認知状況（飼っているペットの種類別）

		問5 マイクロチップの認知			
		全 体	は い	い い え	無 回 答
全 体		172 100.0	137 79.7	29 16.9	6 3.5
飼 っ て い る ペ ッ ト の 種 類	犬（オス）	68 100.0	57 83.8	8 11.8	3 4.4
	犬（メス）	50 100.0	41 82.0	8 16.0	1 2.0
	猫（オス）	34 100.0	29 85.3	4 11.8	1 2.9
	猫（メス）	59 100.0	47 79.7	10 16.9	2 3.4
	鳥類	3 100.0	3 100.0	-	-
	は虫類	4 100.0	2 50.0	2 50.0	-
	その他	5 100.0	5 100.0	-	-
	いずれも飼っていない	-	-	-	-
	無 回 答	-	-	-	-
		-	-	-	-

(2) 犬猫のマイクロチップの装着状況

①犬猫にマイクロチップの装着の有無

問6【犬や猫を飼っている人】飼っている犬猫にマイクロチップを装着していますか。

飼っている犬猫にマイクロチップ装着状況をみると、「はい」(23.3%)は約4人中1人にとどまり、7割以上の方は「いいえ」(74.4%)と回答している。
飼っているペット別にみると、大きな差はみられない。

図 3-2-2 犬猫にマイクロチップの装着の有無（単数回答）

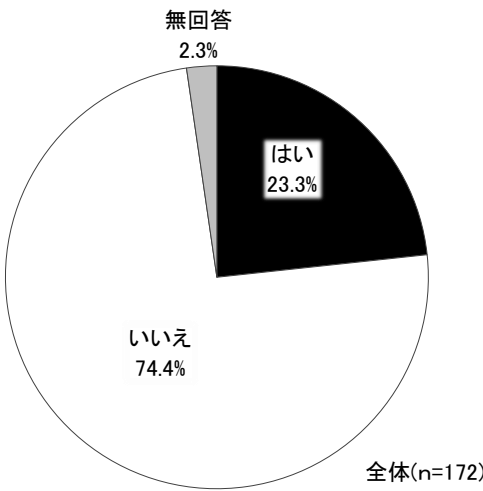


表 3-2-2 犬猫にマイクロチップの装着の有無（飼っているペットの種類別）

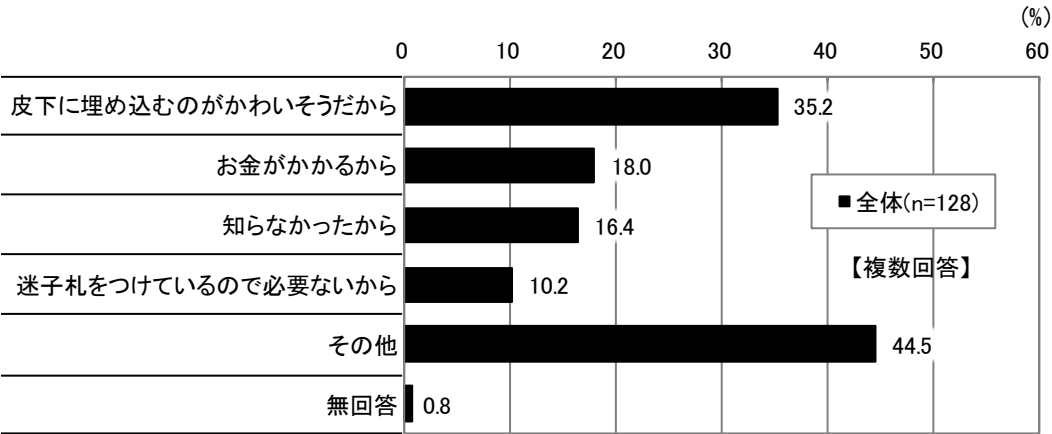
		問6 犬猫に対するマイクロチップ装着の有無			
		全 体	は い	い い え	無 回 答
全 体		172 100.0	40 23.3	128 74.4	4 2.3
飼 っ て い る ペ ッ ト の 種 類	犬（オス）	68 100.0	20 29.4	45 66.2	3 4.4
	犬（メス）	50 100.0	12 24.0	37 74.0	1 2.0
	猫（オス）	34 100.0	7 20.6	27 79.4	— —
	猫（メス）	59 100.0	10 16.9	48 81.4	1 1.7
	鳥類	3 100.0	— —	3 100.0	— —
	は虫類	4 100.0	— —	4 100.0	— —
	その他	5 100.0	3 60.0	2 40.0	— —
	いずれも飼っていない	— —	— —	— —	— —
	無 回 答	— —	— —	— —	— —

②犬猫にマイクロチップを装着していない理由

問6-1（問6で「2. いいえ」と回答された方のみお答え下さい。）
飼っている犬猫にマイクロチップを装着していない理由として、あてはまるものをいくつでもあてはまるものをいくつでも選んで下さい。（○はいくつでも）

マイクロチップを装着していない理由を尋ねたところ、「皮下に埋め込むのがかわいそうだから」と回答する人が35.2%と高くなっている。それ以外の理由としては、「お金がかかるから」（18.0%）、「知らなかったから」（16.4%）などが多くあがっている。
なお、「その他」が4割強を占めている。

図 3-2-3 犬猫にマイクロチップを装着していない理由（複数回答）



(3) 災害時について

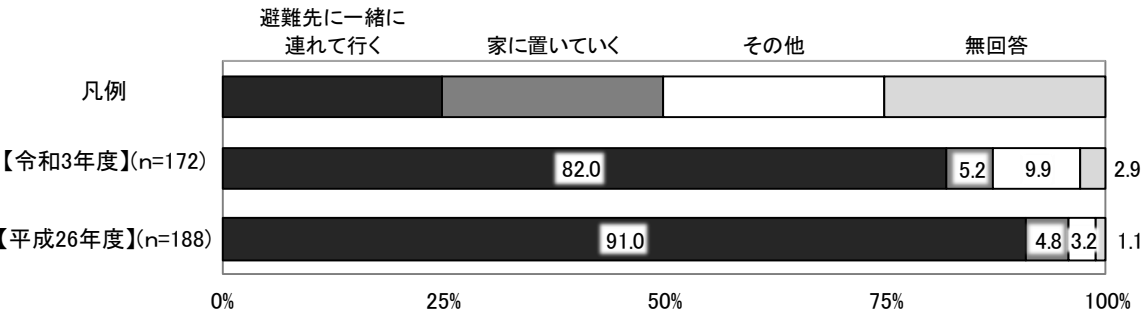
①避難が必要になった場合の対処方法

問7【犬や猫を飼っている人】地震や風水害などで避難が必要となった場合、飼っている犬猫をどうしますか。(○は1つだけ)

大きな災害が起き避難が必要になった場合の対処方法をみると、大半の人は「避難先に一緒に連れて行く」(82.0%)と回答しており、少数意見ではあるが「家においていく」(5.2%)という人もみられる。前回調査と比べてみると、「避難先に一緒に連れて行く」が減少している。

飼っているペット別にみると、サンプル数が少ないため傾向値ではあるが、犬(オス・メス)の飼養者よりも猫(オス・メス)の飼養者が「家においていく」と回答する傾向にある。

図 3-2-4 避難が必要になった場合の対処方法(単数回答)



注)平成26年度の「近所に放つ」の項目は令和3年度 削除のため、「その他」に置き換えて比較している

表 3-2-3 避難が必要になった場合の対処方法(飼っているペットの種類別)

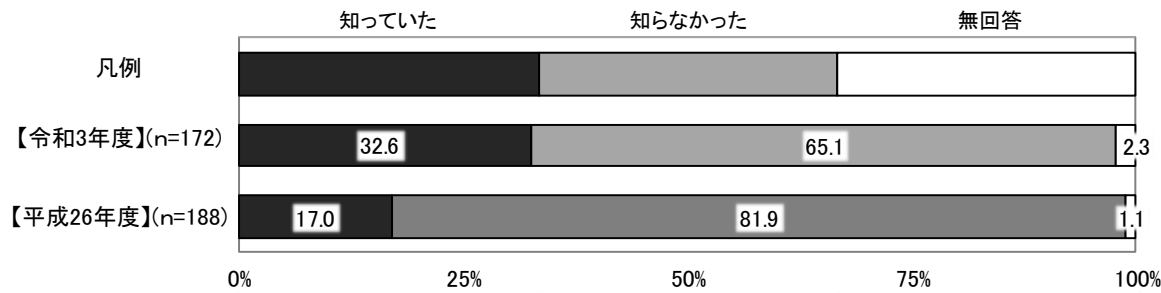
		問7 避難時における飼っている犬猫の対処				
		全 体	て 避 行 難 く 先 に 一 緒 に 連 れ	家 に 置 い て い く	そ の 他	無 回 答
全 体		172 100.0	141 82.0	9 5.2	17 9.9	5 2.9
飼 っ て い る ペ ッ ト の 種 類	犬 (オス)	68 100.0	58 85.3	2 2.9	5 7.4	3 4.4
	犬 (メス)	50 100.0	44 88.0	-	5 10.0	1 2.0
	猫 (オス)	34 100.0	22 64.7	4 11.8	7 20.6	1 2.9
	猫 (メス)	59 100.0	44 74.6	7 11.9	7 11.9	1 1.7
	鳥類	3 100.0	3 100.0	-	-	-
	は虫類	4 100.0	1 25.0	1 25.0	2 50.0	-
	その他	5 100.0	4 80.0	-	1 20.0	-
	いずれも飼っていない	-	-	-	-	-
	無 回 答	-	-	-	-	-

②動物との同行避難原則の認知状況

問8【犬や猫を飼っている人】災害により避難する場合、飼っている犬猫と一緒に避難する同行避難が原則となっていることを知っていましたか。（○は1つだけ）

避難の際に動物との同行避難が原則となっていることの認知状況をみると、「知っていた」（32.6％）は3割強、6割半ばの人は「知らなかった」（65.1％）と回答している。前回調査と比べてみると、「知っていた」は15.6ポイント増加し、「知らなかった」は16.8ポイント減少している。

図 3-2-5 動物との同行避難原則の認知状況（単数回答）

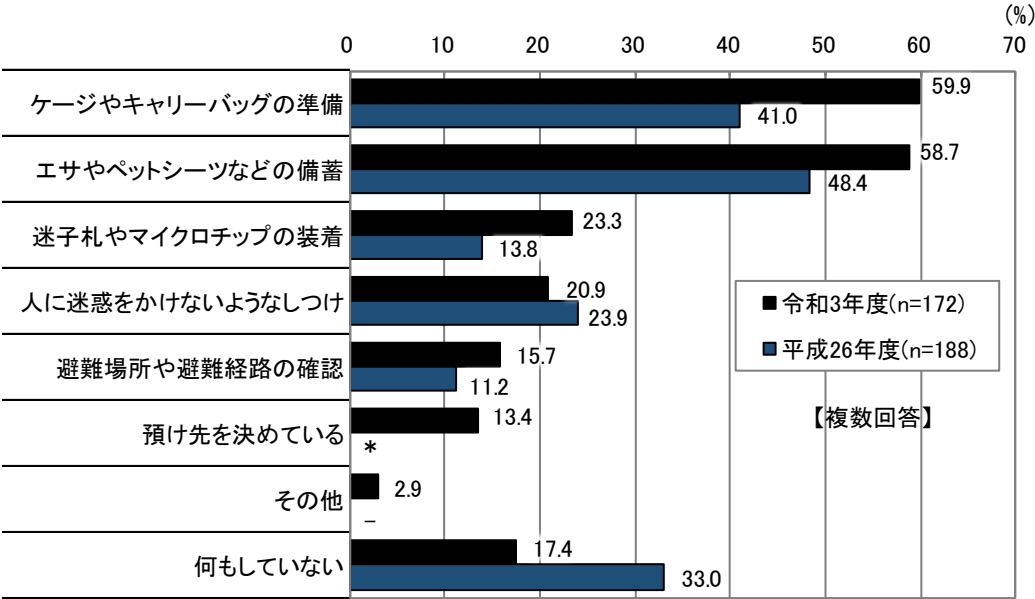


③災害時に備えたペットのための防災対策

問9【犬や猫を飼っている人】災害が起きた場合に備え、飼っている犬猫のための防災対策をしていますか。あてはまるものをいくつでも選んで下さい。（○はいくつでも）

災害時に備えたペットのための防災対策をみると、「ケージやキャリーバッグの準備」（59.9%）が最も多く、以下「エサやペットシーツなどの備蓄」（58.7%）、「迷子札やマイクロチップの装着」（23.3%）、「人に迷惑をかけないようにしつけ」（20.9%）、「避難場所や避難経路の確認」（15.7%）と続いており、「何もしていない」は 17.4%を占めている。前回調査と比べてみると、上位 3 項目が主として増加傾向にあり、「何もしていない」は 15.6 ポイント減少している。

図 3-2-6 災害時に備えたペットのための防災対策（複数回答）



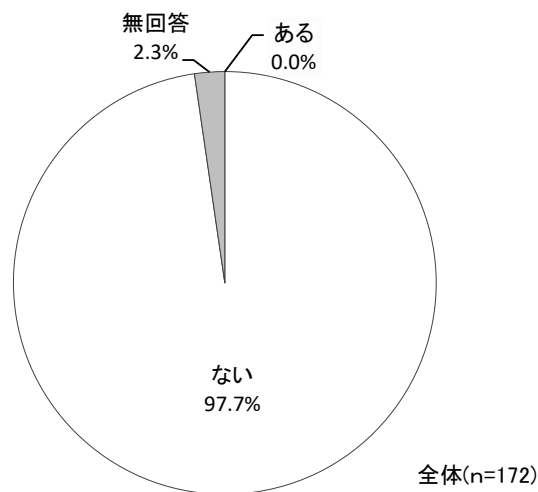
注) 令和3年度より「預け先を決めている」の項目が追加

④災害時にペットを連れて避難した経験

問 10 【犬や猫を飼っている人】 飼っている犬猫を連れて避難所に避難したことがありますか。
(○は1つだけ)

災害時にペットを連れて避難した経験をみると、「ない」(97.7%)が最も多く、「ある」(0.0%)と回答する人はいなかった。

図 3-2-7 災害時にペットを連れて避難した経験 (単数回答)



⑤避難している間のペットの飼育場所

問 10-1 (問 10 で「1. ある」と回答された方のみお答え下さい。)
避難している間、飼っている犬猫はどこにいましたか。(○は1つだけ)

問 10 で「1.ある」の回答者なしのため該当なし。

⑥避難している間、ペットのことで困ったこと

問 10-2 (問 10 で「1. ある」と回答された方のみお答え下さい。)
避難している間、飼っている犬猫のことで困ったことはありますか。あてはまるものをいくつでも選んで下さい。(○はいくつでも)

問 10 で「1.ある」の回答者なしのため該当なし。

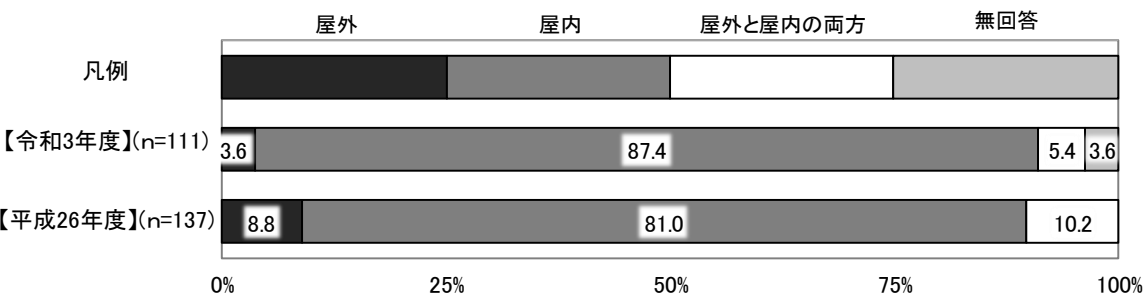
(4) 犬の飼養について

①犬の飼育場所

問 11 【犬を飼っている人】 犬はどこで飼育していますか。(○は1つだけ)

犬の飼育場所をみると、「屋内」(87.4%) が圧倒的に多く、「屋内と屋外の両方」(5.4%)、「屋外」(3.6%) での飼育は1割にも満たない。前回調査と比べてみると、大きな差はみられない。

図 3-2-8 犬の飼育場所（単数回答）



②2頭以上の犬の飼育の有無

問 12 【犬を飼っている人】犬を2頭以上飼育していますか。（○は1つだけ）

犬を2頭以上飼育の有無をみると、「はい」が15.3%、8割弱の人が「いいえ」（78.4%）と回答している。

飼育場所別にみると、サンプル数が少ないため傾向値ではあるが、「屋外」、「屋外と屋内の両方」で犬を2頭以上飼育している飼養者はいなかった。

図 3-2-9 2頭以上の犬の飼育の有無（単数回答）

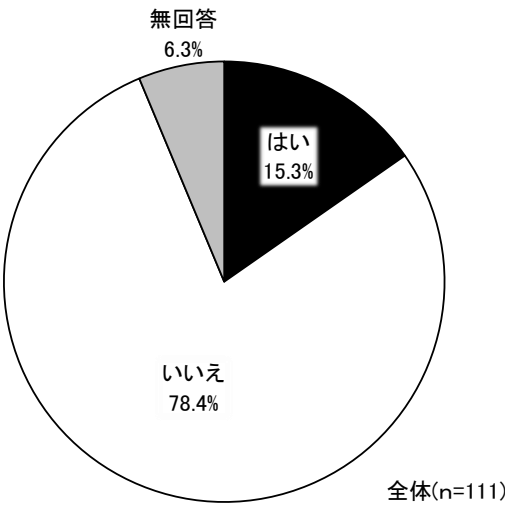


表 3-2-4 2頭以上の犬の飼育の有無（犬の飼育場所別）

		問 1 2 犬を2頭以上飼育しているか			
		全	はい	いいえ	無回答
全 体		111	17	87	7
		100.0	15.3	78.4	6.3
犬の飼育場所	屋外	4	－	3	1
		100.0	－	75.0	25.0
	屋内	97	17	78	2
		100.0	17.5	80.4	2.1
	屋外と屋内の両方	6	－	6	－
		100.0	－	100.0	－
	無 回 答	4	－	－	4
		100.0	－	－	100.0

③犬を2頭以上飼育する理由

問 12－1（問 12 で「1. はい」と回答された方のみお答え下さい。）
犬を2頭以上飼育する理由として、あてはまるものをいくつでも選んで下さい。
（○はいくつでも）

犬を2頭以上飼育する理由を尋ねたところ、「1頭だけだと犬がかわいそうだから」（76.5%）が最も多く、次いで「2頭以上いた方が楽しそうだから」（47.1%）となっている。

図 3-2-10 犬を2頭以上飼育している理由（複数回答）

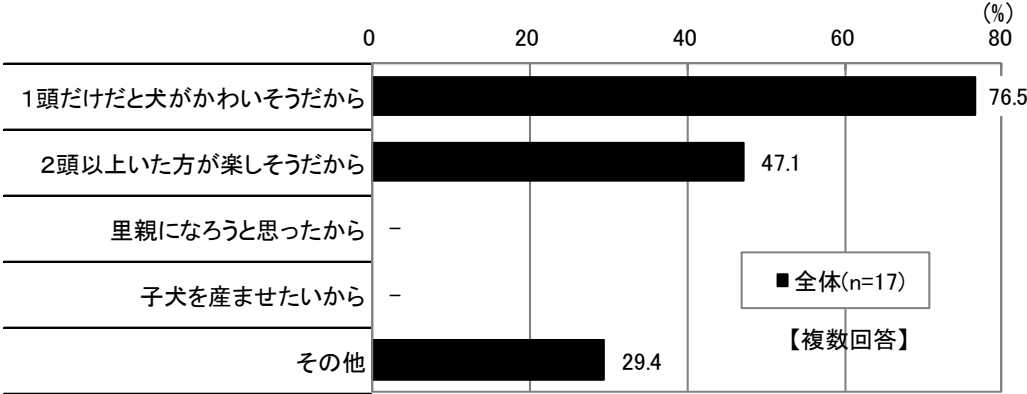


表 3-2-5 犬を2頭以上飼育している理由（犬の飼育場所別）

		問 1 2 . 1 犬を2頭以上飼育している理由					
		全 体	わ 1 い 頭 そ だ う け だ だ か と ら 犬 が か	た 里 か 親 ら に な ろ う と 思 つ	し 2 そ 頭 う 以 だ 上 か い た 方 が 楽	ら 子 犬 を 産 ま せ た い か	そ の 他
全 体		17 100.0	13 76.5	- -	8 47.1	- -	5 29.4
犬の飼育場所	屋外	- -	- -	- -	- -	- -	- -
	屋内	17 100.0	13 76.5	- -	8 47.1	- -	5 29.4
	屋外と屋内の両方	- -	- -	- -	- -	- -	- -
	無 回 答	- -	- -	- -	- -	- -	- -

④犬の出産回数・頭数の認知状況

問 13【犬を飼っている人】犬が年に1，2回出産できて，1回の出産で2～8頭の子を産むことを知っていましたか。（○は1つだけ）

犬の出産回数・頭数の認知状況をみると、「知っていた」（72.1％）が最も多く、次いで「知らなかった」（21.6％）となっている。

飼育場所別にみると大きな差はみられなかった。

図 3-2-11 犬の出産回数・頭数の認知状況（単数回答）

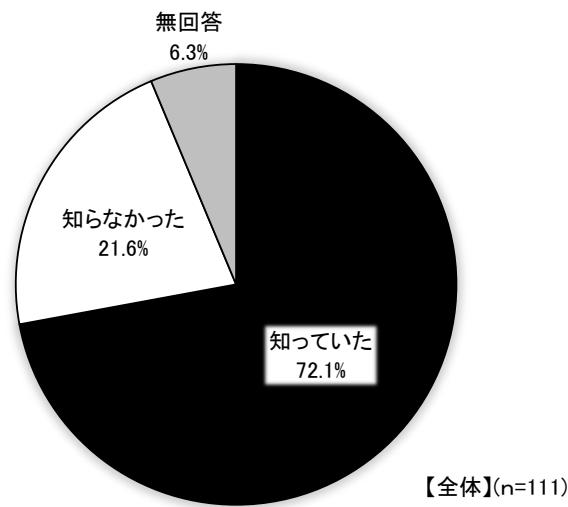


表 3-2-6 犬の出産回数・頭数の認知状況（犬の飼育場所別）

		問 1 3 年 1、2 回出産でき出産で 2～8 頭産む事の既知			
		全 体	知 っ て い た	知 ら な か つ た	無 回 答
全 体		111 100.0	80 72.1	24 21.6	7 6.3
犬 の 飼 育 場 所	屋外	4 100.0	2 50.0	1 25.0	1 25.0
	屋内	97 100.0	73 75.3	22 22.7	2 2.1
	屋外と屋内の両方	6 100.0	5 83.3	1 16.7	－
	無 回 答	4 100.0	－	－	4 100.0

⑤犬の去勢や不妊手術の実施状況

問 14 【犬を飼っている人】 去勢や不妊手術を受けていますか。（○は1つだけ）

犬の去勢や不妊手術の実施状況をみると、「受けた」が69.4%、「受ける予定がある」が6.3%、「受ける予定はない」が20.7%となっている。

時系列でみると、『実施率』は年々増加傾向を示している。

飼育場所別でみると、サンプル数が少ないため傾向値ではあるが、「屋内」飼養者において「受けた」と回答している割合が高い。

図 3-2-12 犬の去勢や不妊手術の実施状況（単数回答）

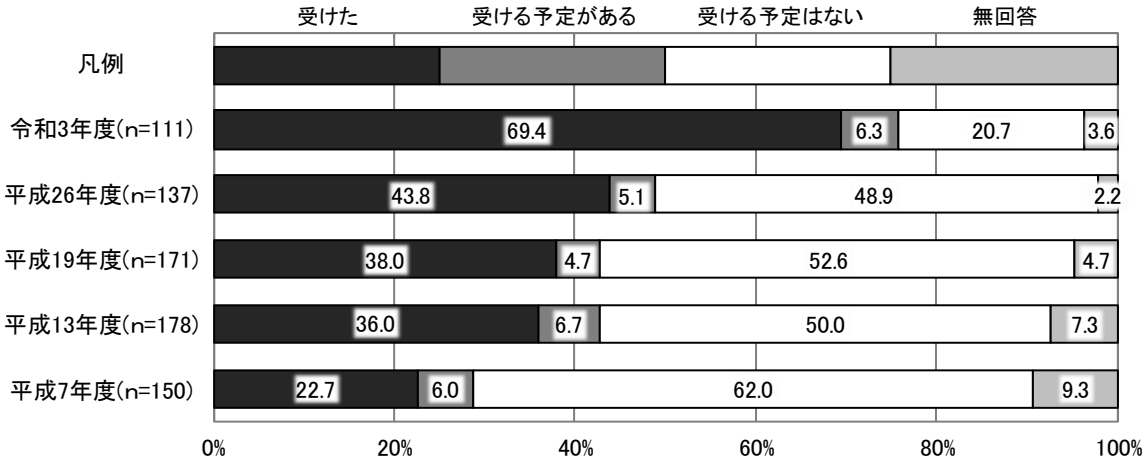


表 3-2-7 犬の去勢や不妊手術の実施状況（犬の飼育場所別）

		問 1 4 去勢・不妊手術の経験有無（犬）				
		全 体	受 け た	受 け る 予 定 が あ る	受 け る 予 定 は な い	無 回 答
全 体		111 100.0	77 69.4	7 6.3	23 20.7	4 3.6
犬 の 飼 育 場 所	屋外	4 100.0	2 50.0	－ －	2 50.0	－ －
	屋内	97 100.0	73 75.3	5 5.2	19 19.6	－ －
	屋外と屋内の両方	6 100.0	2 33.3	2 33.3	2 33.3	－ －
	無 回 答	4 100.0	－ －	－ －	－ －	4 100.0

⑥犬のかかりつけ動物病院の有無

問 15 【犬を飼っている人】 かかりつけの動物病院はありますか。（○は1つだけ）

犬のかかりつけ動物病院の有無をみると、「1つある」が83.8%、「複数ある」が10.8%と、『ある』と回答する人が9割以上を占めている。時系列・飼育場所別でも、大きな差はみられない。

図 3-2-13 犬のかかりつけ動物病院の有無（単数回答）

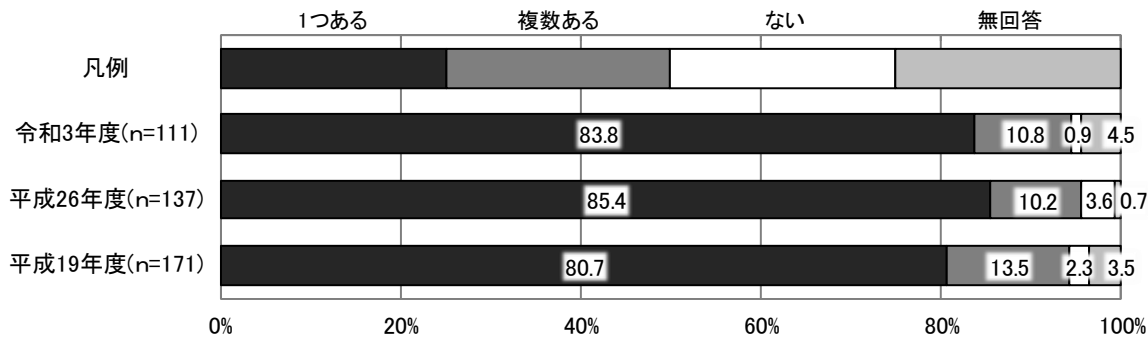


表 3-2-8 犬のかかりつけ動物病院の有無（犬の飼育場所別）

		問 1 5 かかりつけの動物病院の有無				
		全 体	1 つ あ る	複 数 あ る	な い	無 回 答
全 体		111 100.0	93 83.8	12 10.8	1 0.9	5 4.5
犬 の 飼 育 場 所	屋外	4 100.0	4 100.0	- -	- -	- -
	屋内	97 100.0	85 87.6	10 10.3	1 1.0	1 1.0
	屋外と屋内の両方	6 100.0	4 66.7	2 33.3	- -	- -
	無 回 答	4 100.0	- -	- -	- -	4 100.0

(5) 飼い犬の登録

①福岡市への登録状況

問 16 【犬を飼っている人】 飼い犬を福岡市へ登録していますか。(○は1つだけ)

犬の福岡市への登録状況を見ると、8割以上は「登録している」(84.7%)と答えているが、「登録していない」(11.7%)人もみられる。

時系列にみると、『登録率』は8割前後で推移しており、大きな差はみられない。

また飼育場所別にみても、大きな差はみられない。

図 3-2-14 福岡市への登録状況 (単数回答)

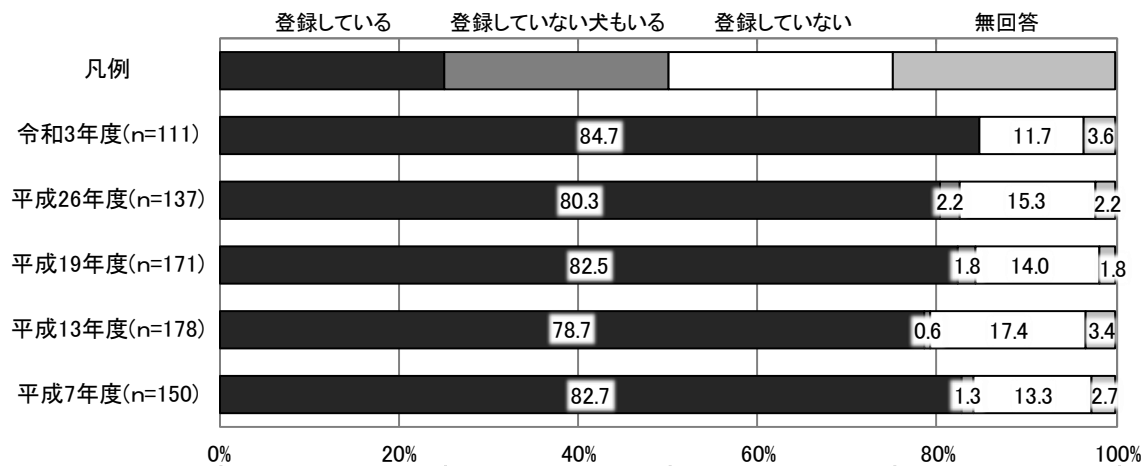


表 3-2-9 福岡市への登録状況 (犬の飼育場所別)

		問 1 6 福岡市への飼い犬登録の有無				
		全 体	登 録 し て い る	い 登 録 し て い な い 犬 も	登 録 し て い な い	無 回 答
全 体		111 100.0	94 84.7	- -	13 11.7	4 3.6
犬 の 飼 育 場 所	屋外	4 100.0	4 100.0	- -	- -	- -
	屋内	97 100.0	86 88.7	- -	11 11.3	- -
	屋外と屋内の両方	6 100.0	4 66.7	- -	2 33.3	- -
	無 回 答	4 100.0	- -	- -	- -	4 100.0

②登録していない理由

問 16－1（問 16 で「2. 登録していない犬もある」または「3. 登録していない」と回答された方のみお答え下さい。）犬を登録しない理由について、あてはまるものをいくつでも選んで下さい。（○はいくつでも）

犬を登録していない理由を尋ねたところ、「登録することを知らなかったから」が 61.5%で圧倒的に最も多く、次いで「その他」（30.8%）となっている。飼育場所別にみても、大きな差はみられない。

図 3-2-15 登録していない理由（複数回答）

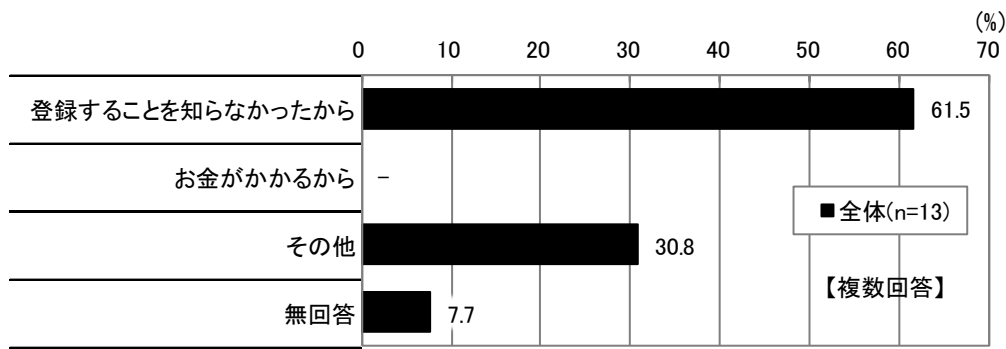


表 3-2-10 登録していない理由（犬の飼育場所別）

		問 1 6 . 1 犬を登録していない理由				
		全 体	な 登 か 録 つ す た る か ら こ と を 知 ら	お 金 が か か る か ら	そ の 他	無 回 答
全 体		13 100.0	8 61.5	- -	4 30.8	1 7.7
犬の飼育場所	屋外	- -	- -	- -	- -	- -
	屋内	11 100.0	6 54.5	- -	4 36.4	1 9.1
	屋外と屋内の両方	2 100.0	2 100.0	- -	- -	- -
	無 回 答	- -	- -	- -	- -	- -

③登録が法律義務の認知状況

問 16－2（問 16 で「2. 登録していない犬もいる」または「3. 登録していない」と回答された方のみお答え下さい。）飼い犬の登録が法律で義務付けられていることを知っていましたか。（○は1つだけ）

犬の登録が法律義務である認知状況をみると、「知っていた」が 15.4%、8 割以上の方が「知らなかった」（84.6%）と回答している。飼育場所別にみても、大きな差はみられない。

図 3-2-16 登録が法律義務の認知状況（単数回答）

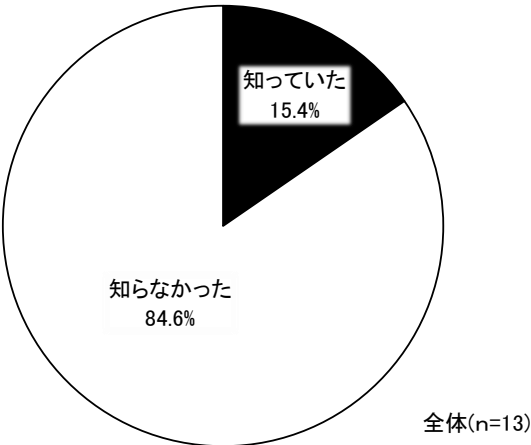


表 3-2-11 登録が法律義務の認知状況（犬の飼育場所別）

		問 1 6 . 2 飼い犬登録義務の既知		
		全 体	知 っ て い た	知 ら な か つ た
全 体		13 100.0	2 15.4	11 84.6
犬 の 飼 育 場 所	屋外	－ －	－ －	－ －
	屋内	11 100.0	2 18.2	9 81.8
	屋外と屋内の両方	2 100.0	－ －	2 100.0
	無 回 答	－ －	－ －	－ －

④鑑札の装着状況

問 16－3（福岡市へ犬を登録している方（問 16 で「1. 登録している」または「2. 登録していない犬もある」と回答された方）のみお答え下さい。）犬を登録した時に交付される鑑札を装着していますか。（○は1つだけ）

鑑札の装着状況をみると、「装着している」が 29.8%、「装着していない」は 69.1%となっており、前回調査に比べ『装着率』は増加している。

飼育場所別にみると、サンプル数が少ないため傾向値ではあるが、「屋外」飼養者において、「装着している」と回答している割合が高い。

図 3-2-17 鑑札の装着状況（単数回答）

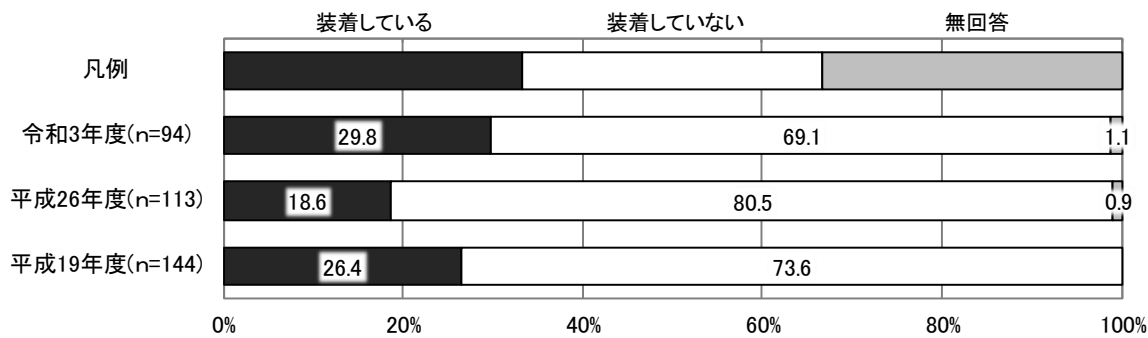


表 3-2-12 鑑札の装着状況（犬の飼育場所別）

		問 1 6 . 3 鑑札装着の有無			
		全 体	装 着 し て い る	装 着 し て い て い な い 犬 が い 装	無 回 答
全 体		94 100.0	28 29.8	65 69.1	1 1.1
犬 の 飼 育 場 所	屋外	4 100.0	2 50.0	2 50.0	－ －
	屋内	86 100.0	26 30.2	59 68.6	1 1.2
	屋外と屋内の両方	4 100.0	－ －	4 100.0	－ －
	無 回 答	－ －	－ －	－ －	－ －

⑤鑑札を装着しない理由

問 16－4（問 16－3 で「2. 装着していない、装着していない犬がいる」と回答された方のみお答え下さい。）装着しない理由として、あてはまるものをいくつでも選んで下さい。
（○はいくつでも）

鑑札を装着しない理由を尋ねたところ、「首輪をしない」が52.3%と最も多く、以下「逃亡の恐れがない」（38.5%）、「鑑札が大きすぎる」、「ほかに迷子札を着けている」、「紛失すると困る」（各々12.3%）、「鑑札の格好が悪い」（3.1%）、と続いている。
時系列にみると、前回調査に比べ「首輪をしない」という回答が21.5ポイント増加している。
飼育場所別にみると大きな差はみられない。

図 3-2-18 鑑札を装着しない理由（複数回答）

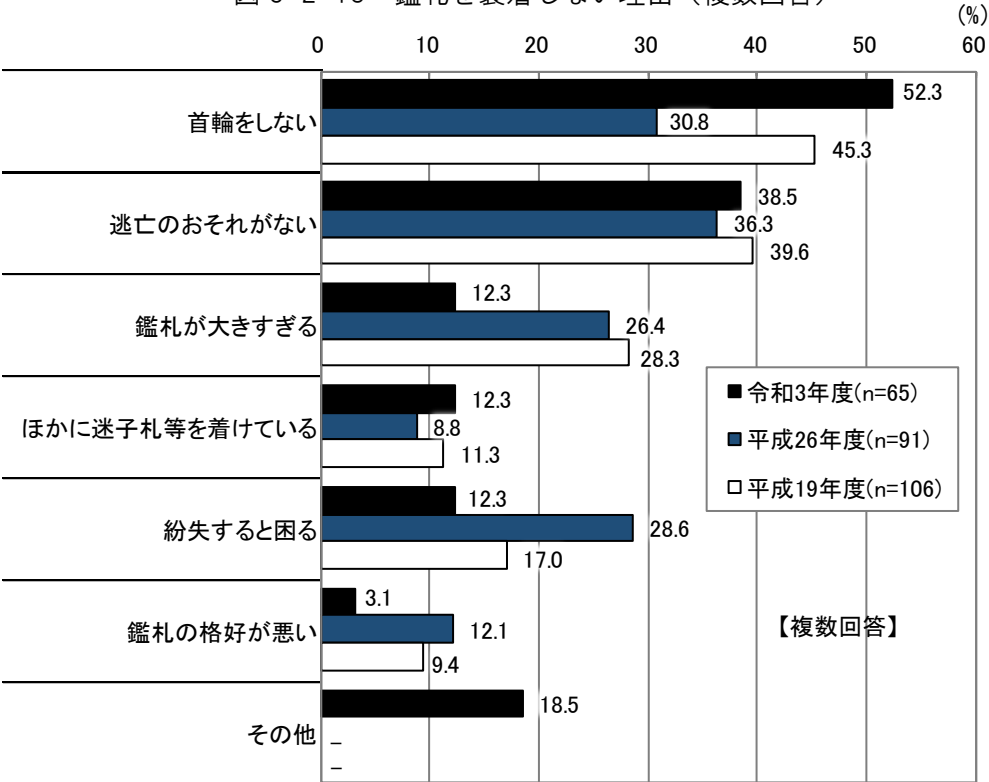


表 3-2-13 鑑札を装着しない理由（犬の飼育場所別）

		問 1 6 . 4 鑑札を装着しない理由							
		全 体	首 輪 を し な い	鑑 札 が 大 き す ぎ る	鑑 札 の 格 好 が 悪 い	ほ か に 迷 子 札 等 を 着 て い る	逃 亡 の お そ れ が な い	紛 失 す る と 困 る	そ の 他
全 体		65 100.0	34 52.3	8 12.3	2 3.1	8 12.3	25 38.5	8 12.3	12 18.5
犬 の 飼 育 場 所	屋外	2 100.0	- -	- -	- -	- -	1 50.0	- -	1 50.0
	屋内	59 100.0	34 57.6	7 11.9	1 1.7	7 11.9	23 39.0	7 11.9	9 15.3
	屋外と屋内の両方	4 100.0	- -	1 25.0	1 25.0	1 25.0	1 25.0	1 25.0	2 50.0
	無 回 答	-	-	-	-	-	-	-	-

⑥鑑札装着の法律義務の認知状況

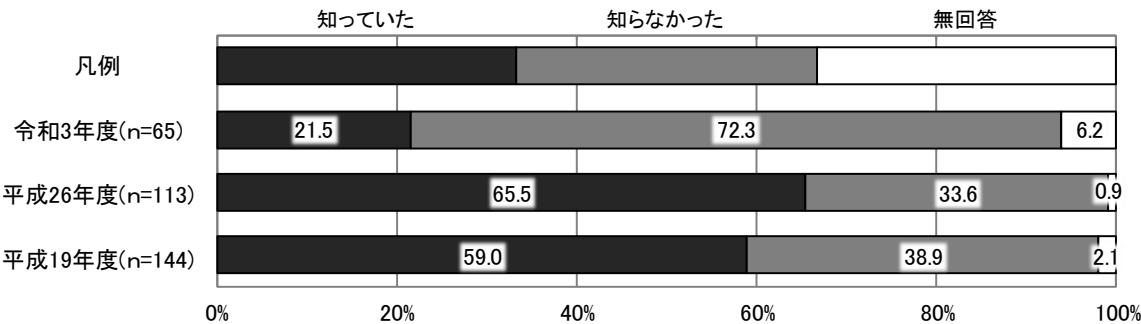
問 16－5（問 16－3 で「2. 装着していない、装着していない犬がいる」と回答された方のみお答え下さい。）鑑札の装着が法律で義務づけられていることを知っていましたか。（○は1つだけ）

鑑札装着の法律義務の認知状況をみると、「知っていた」が21.5%、7割強の人が「知らなかった」（72.3%）となっている。

時系列では「知っていた」と回答した人の割合が6割程度から2割程度へと減少している。ただし、今回の調査対象者（鑑札を装着していない・装着していない犬がいると回答した対象者）と前回調査対象者（福岡市に犬を登録している・登録していない犬もいると回答した対象者）が違いため、傾向をみる程度にとどめる。

飼育場所別にみると、大きな差はみられない。

図 3-2-19 鑑札装着の法律義務の認知状況（単数回答）



注) 平成19年度・平成26年度では飼い犬を「登録している」+「登録していない犬もいる」、令和3年度では鑑札を「装着していない犬がいる」と答えた人の回答

表 3-2-14 鑑札装着の法律義務の認知状況（犬の飼育場所別）

		問 1 6 . 5 鑑札の装着が法律の義務である事の既知			
		全 体	知 っ て い た	知 ら な か つ た	無 回 答
全 体		65 100.0	14 21.5	47 72.3	4 6.2
犬 の 飼 育 場 所	屋外	2 100.0	－ －	2 100.0	－ －
	屋内	59 100.0	13 22.0	42 71.2	4 6.8
	屋外と屋内の両方	4 100.0	1 25.0	3 75.0	－ －
	無 回 答	－ －	－ －	－ －	－ －

(6) 飼い主の狂犬病予防注射

①狂犬病予防注射の実施状況

問 17 【犬を飼っている人】 狂犬病の予防注射を受けていますか。(○は1つだけ)

狂犬病予防注射の実施状況をみると、「毎年受けている」が76.6%、「受けないことがある」、「受けていない」が各々9.9%となっている。

時系列にみると、狂犬病予防注射の『実施率』は7割台で推移しており、大きな差はみられない。
また飼育場所別にみても、大きな差はみられない。

図 3-2-20 狂犬病予防注射の受診状況（単数回答）

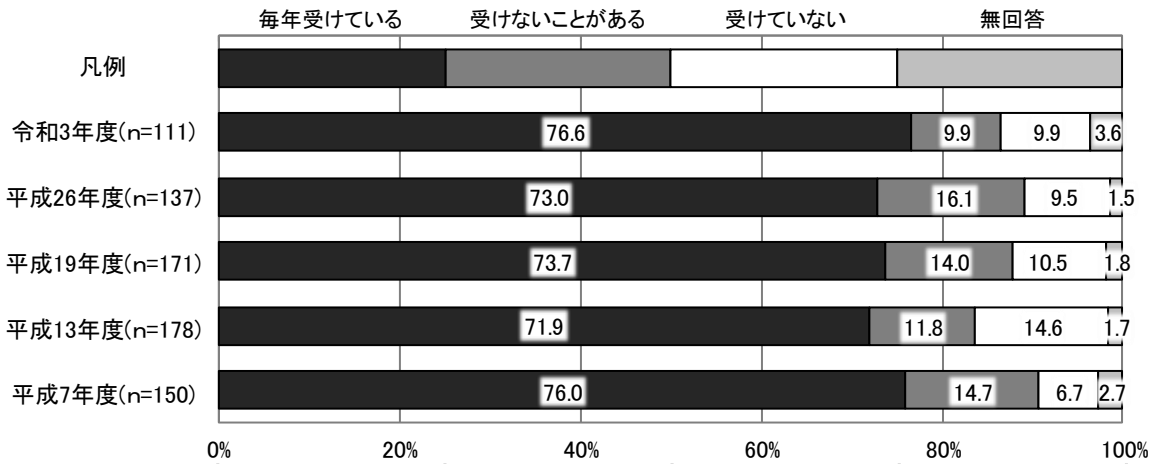


表 3-2-15 狂犬病予防注射の受診状況（犬の飼育場所別）

		問 1 7 狂犬病の予防注射の有無				
		全 体	毎 年 受 け て い る	受 け な い こ と が あ る	受 け て い な い	無 回 答
全 体		111 100.0	85 76.6	11 9.9	11 9.9	4 3.6
犬 の 飼 育 場 所	屋外	4 100.0	4 100.0	－ －	－ －	－ －
	屋内	97 100.0	77 79.4	10 10.3	10 10.3	－ －
	屋外と屋内の両方	6 100.0	4 66.7	1 16.7	1 16.7	－ －
	無 回 答	4 100.0	－ －	－ －	－ －	4 100.0

②狂犬病予防注射の接種場所

問 17－1（問 17 で「1. 毎年受けている」または「2. 受けないことがある」と回答された方のみお答え下さい。）最後に受けた狂犬病の予防注射はどこで受けていますか。（○は1 つだけ）

狂犬病予防注射を最後に接種した場所をみると、「動物病院」（94.8％）が最も多く、次いで「集合注射会場（公園や公民館など）」（4.2％）、「動物愛護管理センター」（1.0％）となっている。

飼育場所別にみると全体の結果に比べ、「屋外と屋内の両方」飼養者において「集合注射会場（公園や公民館など）」と回答している割合が高い。ただし、サンプル数が少ないため、傾向をみる程度となる。

図 3-2-21 狂犬病予防注射の接種場所（単数回答）

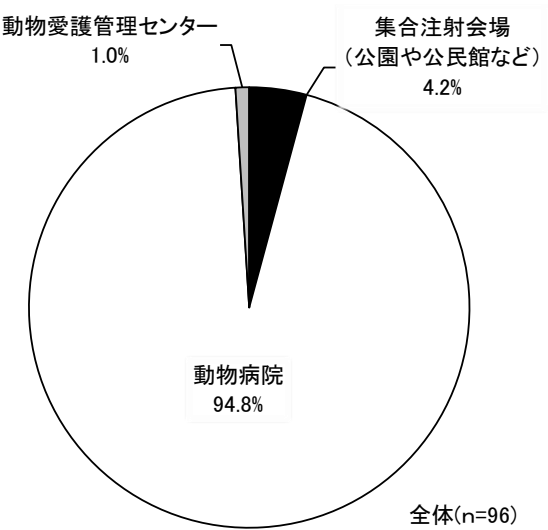


表 3-2-16 狂犬病予防注射の接種場所（犬の飼育場所別）

		問 1 7 . 1 最後に狂犬病の予防注射を受けた場所				
		全 体	や 集 公 合 民 注 館 射 な 会 ど 場 (公園)	動 物 病 院	タ 動 ー 物 物 愛 護 管 理 セ ン	そ の 他
全 体		96 100.0	4 4.2	91 94.8	1 1.0	－ －
犬 の 飼 育 場 所	屋外	4 100.0	－ －	4 100.0	－ －	－ －
	屋内	87 100.0	3 3.4	84 96.6	－ －	－ －
	屋外と屋内の両方	5 100.0	1 20.0	3 60.0	1 20.0	－ －
	無 回 答	－ －	－ －	－ －	－ －	－ －

③狂犬病予防注射の接種場所を選ぶ理由

問 17ー 2（問 17 で「1. 毎年受けている」または「2. 受けないことがある」と回答された方のみお答え下さい。） 狂犬病の予防注射を受ける場所を選ぶ理由について、あてはまるものをいくつかでもお答えください。（○はいくつでも）

狂犬病予防注射の接種場所を選ぶ理由を尋ねたところ、「自宅が近いから」（51.0％）が最も多く、次いで「犬が安心しているから」（38.5％）、「毎年案内のはがきに書いてあるから」（31.3％）、「料金が安いから」（1.0％）となっている。

飼育場所別にみると、「屋外」飼養者においては「毎年案内のはがきに書いてあるから」（50.0％）が最も多く、次いで「自宅から近いから」（25.0％）、「犬が安心しているから」（25.0％）となっている。

最後に狂犬病の予防注射を受けた場所別にみると、集合注射会場（公園や公民館など）で接種した層では「毎年案内のはがきに書いてあるから」（100.0％）、動物病院で接種した層では「自宅が近いから」（50.5％）、動物愛護管理センターで接種した層では「犬が安心しているから」が最も多くなっている。ただし、サンプル数が少ないため、傾向をみる程度となる。

図 3-2-22 狂犬病予防注射の接種場所を選ぶ理由（複数回答）

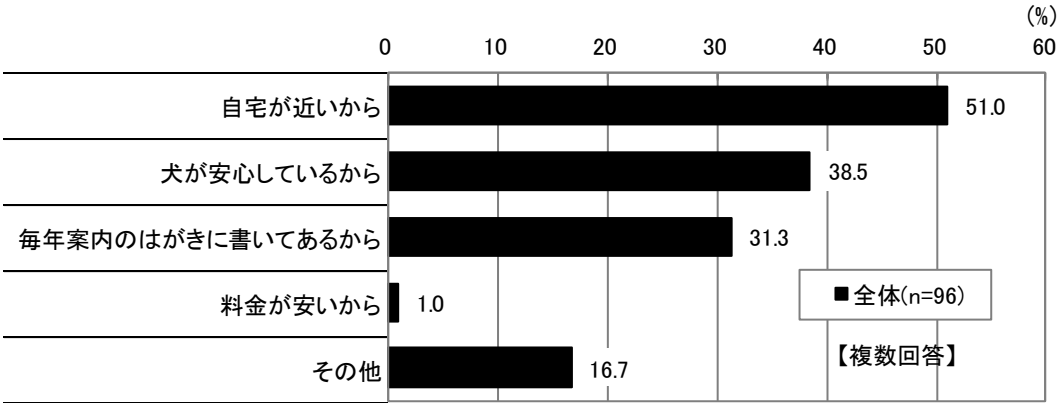


表 3-2-17 狂犬病予防注射の接種場所を選ぶ理由（犬の飼育場所別）

		問 1 7 . 2 狂犬病の予防注射場所を選んだ理由						
		全 体	自 宅 か ら 近 い か ら	ら 犬 が 安 心 し て い る か	料 金 が 安 い か ら	き 毎 に 年 届 い て あ る の か は ら が	そ の 他	無 回 答
全 体		96 100.0	49 51.0	37 38.5	1 1.0	30 31.3	16 16.7	2 2.1
犬 の 飼 育 場 所	屋外	4 100.0	1 25.0	1 25.0	- -	2 50.0	- -	1 25.0
	屋内	87 100.0	46 52.9	34 39.1	1 1.1	25 28.7	15 17.2	1 1.1
	屋外と屋内の両方	5 100.0	2 40.0	2 40.0	- -	3 60.0	1 20.0	- -
	無 回 答	- -	- -	- -	- -	- -	- -	- -

表 3-2-18 狂犬病予防注射の接種場所を選ぶ理由（最後に狂犬病の予防注射を受けた場所別）

		問 1 7 . 2 狂犬病の予防注射場所を選んだ理由						
		全 体	自 宅 か ら 近 い か ら	ら 犬 が 安 心 し て い る か	料 金 が 安 い か ら	き 毎 に 年 届 い て あ る の か は ら が	そ の 他	無 回 答
全 体		96 100.0	49 51.0	37 38.5	1 1.0	30 31.3	16 16.7	2 2.1
予 最 防 後 に 注 射 場 所 を 犬 受 病 け の	集合注射会場（公園や公民館など）	4 100.0	3 75.0	- -	- -	4 100.0	- -	- -
	動物病院	91 100.0	46 50.5	36 39.6	1 1.1	26 28.6	16 17.6	2 2.2
	動物愛護管理センター	1 100.0	- -	1 100.0	- -	- -	- -	- -
	その他	- -	- -	- -	- -	- -	- -	- -
		- -	- -	- -	- -	- -	- -	- -

④狂犬病予防注射をしていない理由

問 17－3（問 17 で「2. 受けないことがある」または「3. 受けていない」と回答された方のみ
お答え下さい。）狂犬病の予防注射をしていない理由について、あてはまるものをいくつでもお
答えください。（○はいくつでも）

狂犬病予防注射を接種していない理由を尋ねたところ、「お金がかかるから」（13.6％）が最も多く、
次いで「予防注射のことを知らなかったから」（4.5％）となっている。

なお、「その他」が7割強を占めている。

飼育場所別・最後に狂犬病の予防注射を受けた場所別にみても、大きな差はみられない。

図 3-2-23 狂犬病予防注射をしていない理由（複数回答）

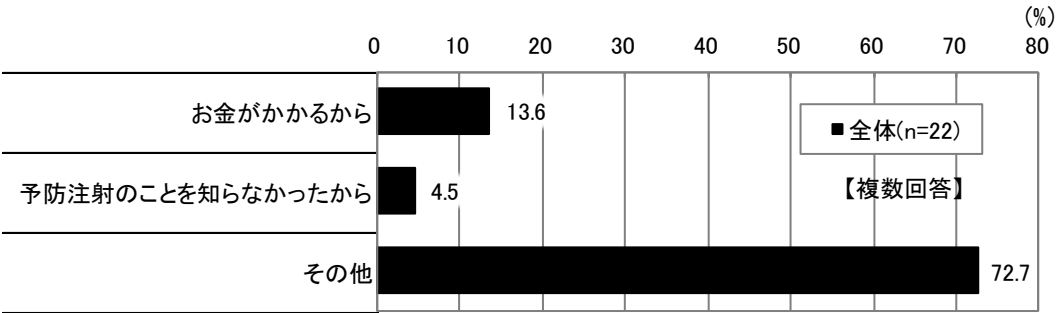


表 3-2-19 狂犬病予防注射をしていない理由（犬の飼育場所別）

		問 1 7 . 3 狂犬病の予防接種を受けない理由				
		全 体	ら 予 防 接 種 の こ と を 知	お 金 が か か る か ら	そ の 他	無 回 答
全 体		22 100.0	1 4.5	3 13.6	16 72.7	2 9.1
犬 の 飼 育 場 所	屋外	- -	- -	- -	- -	- -
	屋内	20 100.0	- -	3 15.0	15 75.0	2 10.0
	屋外と屋内の両方	2 100.0	1 50.0	- -	1 50.0	- -
	無 回 答	- -	- -	- -	- -	- -

表 3-2-20 狂犬病予防注射をしていない理由（最後に狂犬病の予防注射を受けた場所別）

		問 1 7 . 3 狂犬病の予防接種を受けない理由				
		全 体	ら 予 防 接 種 の こ と を 知	お 金 が か か る か ら	そ の 他	無 回 答
全 体		11 100.0	1 9.1	3 27.3	5 45.5	2 18.2
予 最 防 後 に 注 射 場 所 を 犬 受 病 け の	集合注射会場（公園や公民館など）	2 100.0	- -	- -	1 50.0	1 50.0
	動物病院	8 100.0	- -	3 37.5	4 50.0	1 12.5
	動物愛護管理センター	1 100.0	1 100.0	- -	- -	- -
	その他	- -	- -	- -	- -	- -
		- -	- -	- -	- -	- -

⑤狂犬病予防注射の接種義務の認知状況

問 17－4（問 17 で「2. 受けないことがある」または「3. 受けていない」と回答された方のみ
お答え下さい。）狂犬病の予防注射が法律で義務づけられていることを知っていましたか。
（○は1つだけ）

狂犬病予防注射の接種義務の認知状況をみると、「知っていた」（63.6%）が最も多く、次いで「知らなかった」（36.4%）となっている。

飼育場所別・最後に狂犬病の予防注射を受けた場所別にみると、大きな差はみられない。

図 3-2-24 狂犬病予防注射の接種義務の認知状況（単数回答）

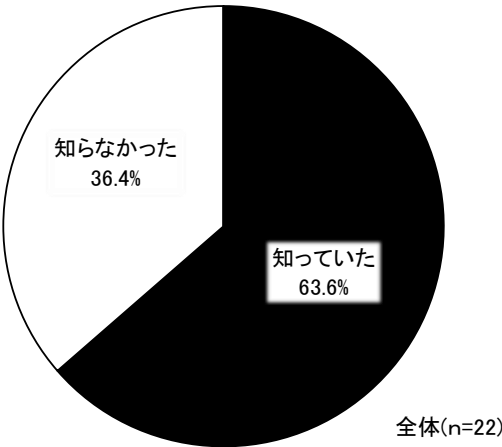


表 3-2-21 狂犬病予防注射の接種義務の認知状況（犬の飼育場所別）

		問 1 7 . 4 狂犬病予防注射 義務の既知		
		全 体	知 っ て い た	知 ら な か っ た
全 体		22 100.0	14 63.6	8 36.4
犬 の 飼 育 場 所	屋外	- -	- -	- -
	屋内	20 100.0	13 65.0	7 35.0
	屋外と屋内の両方	2 100.0	1 50.0	1 50.0
	無 回 答	- -	- -	- -

表 3-2-22 狂犬病予防注射の接種義務の認知状況（最後に狂犬病の予防注射を受けた場所別）

		問 1 7 . 4 狂犬病予防注射 義務の既知		
		全 体	知 っ て い た	知 ら な か っ た
全 体		11 100.0	6 54.5	5 45.5
予 最 防 後 た 注 場 射 所 を 犬 受 病 け の	集合注射会場（公園や公民館など）	2 100.0	2 100.0	- -
	動物病院	8 100.0	4 50.0	4 50.0
	動物愛護管理センター	1 100.0	- -	1 100.0
	その他	- -	- -	- -

⑥狂犬病注射済票の装着状況

問 17ー5（問 17 で「1. 毎年受けている」または「2. 受けないことがある」と回答された方のみお答え下さい。）狂犬病予防注射済票（以下「注射済票」とします）を装着していますか。（○は1つだけ）

狂犬病注射済票の装着状況をみると、「装着している」が14.6%、「装着していない」が83.3%となっており、時系列でみると、『装着率』は1割台で推移している。

飼育場所別にみると、サンプル数が少ないため傾向値ではあるが、「屋外」飼養者において「装着している」と回答する割合が高い。

最後に狂犬病の予防注射を受けた場所別にみると、大きな差はみられない。

図 3-2-25 狂犬病注射済票の装着状況（単数回答）

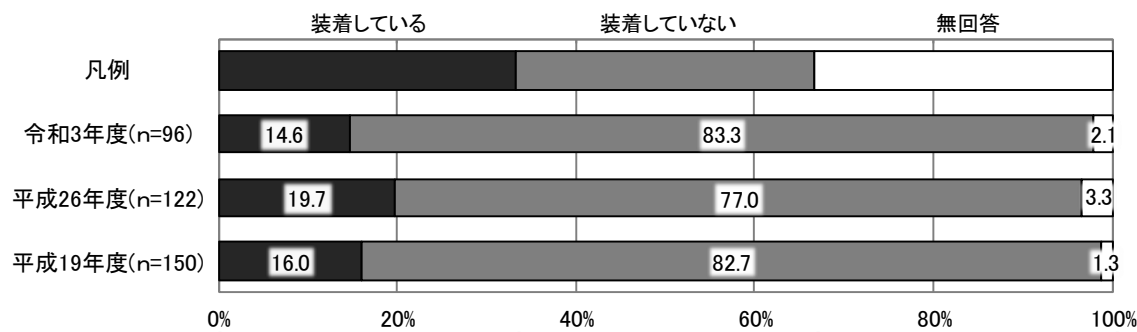


表 3-2-23 狂犬病注射済票の装着状況（犬の飼育場所別）

		問 1 7 . 5 狂犬病予防注射済票の装着有無			
		全 体	装 着 し て い る	装 着 し て い な い	無 回 答
全 体		96 100.0	14 14.6	80 83.3	2 2.1
犬 の 飼 育 場 所	屋外	4 100.0	2 50.0	2 50.0	- -
	屋内	87 100.0	11 12.6	74 85.1	2 2.3
	屋外と屋内の両方	5 100.0	1 20.0	4 80.0	- -
	無 回 答	- -	- -	- -	- -

表 3-2-24 狂犬病注射済票の装着状況（最後に狂犬病の予防注射を受けた場所別）

		問 1 7 . 5 狂犬病予防注射済票の装着有無			
		全 体	装 着 し て い る	装 着 し て い な い	無 回 答
全 体		96 100.0	14 14.6	80 83.3	2 2.1
予 最 防 後 た 注 場 射 狂 所 を 犬 受 病 け の	集合注射会場（公園や公民館など）	4 100.0	- -	4 100.0	- -
	動物病院	91 100.0	14 15.4	75 82.4	2 2.2
	動物愛護管理センター	1 100.0	- -	1 100.0	- -
	その他	- -	- -	- -	- -

⑦狂犬病注射済票を装着しない理由

問 17－6（注射済票を装着していない方（問 17－5 で「2. 装着していない」と回答された方）の
みお答え下さい。）装着しない理由として、あてはまるものをいくつでも選んで下さい。
（○はいくつでも）

狂犬病注射済票を装着しない理由を尋ねたところ、「首輪をしない」が 48.8%と最も多く、以下「逃
亡のおそれがない」（38.8%）、「紛失すると困る」（18.8%）、「注射済票が大きい」、「ほかに迷子札を着
けている」（各々10.0%）、「注射済票の格好が悪い」（2.5%）と続いている。

時系列にみると、「首輪をしない」が前回調査の結果より 15.8 ポイント増加している。
飼育場所別・最後に狂犬病の予防注射を受けた場所別にみると、大きな差はみられない。

図 3-2-26 狂犬病注射済票を装着しない理由（複数回答）

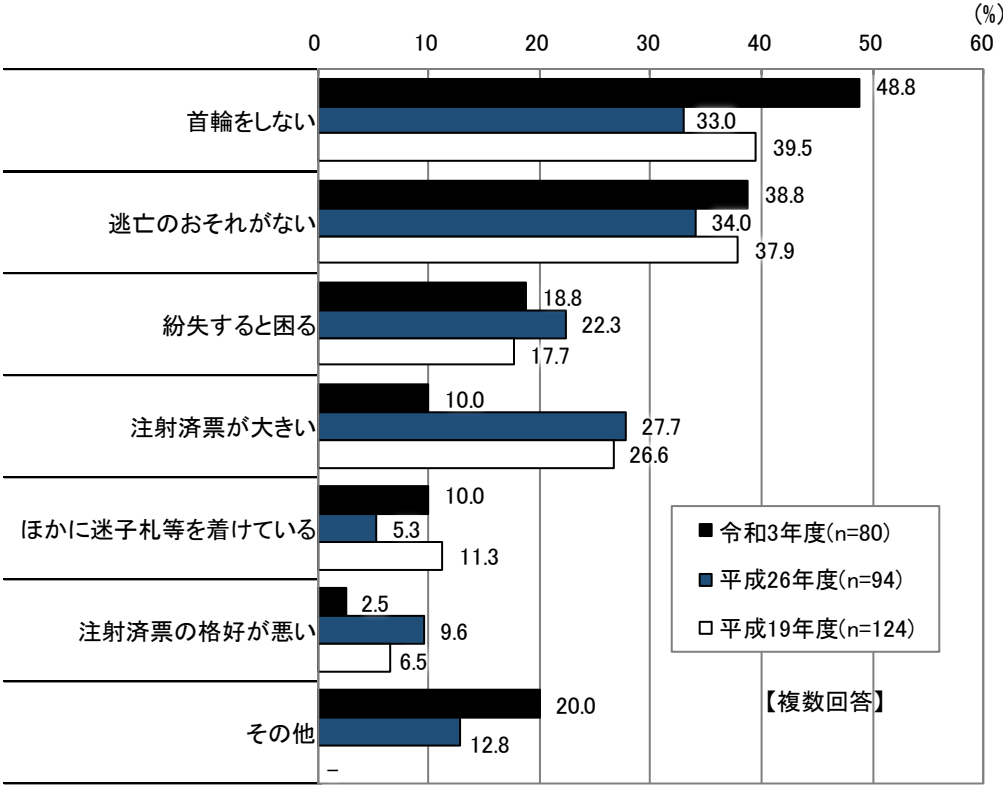


表 3-2-25 狂犬病注射済票を装着しない理由（犬の飼育場所別）

		問 1 7 . 6 狂犬病予防注射済票を装着していない理由								
		全 体	首 輪 を し な い	注 射 済 票 が 大 き い	い 注 射 済 票 の 格 好 が 悪	け ほ て か に 迷 子 札 等 を 着	逃 亡 の お そ れ が な い	紛 失 す る と 困 る	そ の 他	無 回 答
全 体		80 100.0	39 48.8	8 10.0	2 2.5	8 10.0	31 38.8	15 18.8	16 20.0	3 3.8
犬 の 飼 育 場 所	屋外	2 100.0	- -	- -	- -	- -	- -	1 50.0	- -	1 50.0
	屋内	74 100.0	39 52.7	8 10.8	1 1.4	8 10.8	31 41.9	13 17.6	15 20.3	1 1.4
	屋外と屋内の両方	4 100.0	- -	- -	1 25.0	- -	- -	1 25.0	1 25.0	1 25.0
	無 回 答	- -	- -	- -	- -	- -	- -	- -	- -	- -

表 3-2-26 狂犬病注射済票を装着しない理由（最後に狂犬病の予防注射を受けた場所別）

		問 1 7 . 6 狂犬病予防注射済票を装着していない理由								
		全 体	首 輪 を し な い	注 射 済 票 が 大 き い	い 注 射 済 票 の 格 好 が 悪	け ほ て か に 迷 子 札 等 を 着	逃 亡 の お そ れ が な い	紛 失 す る と 困 る	そ の 他	無 回 答
全 体		80 100.0	39 48.8	8 10.0	2 2.5	8 10.0	31 38.8	15 18.8	16 20.0	3 3.8
予 最 防 後 に 注 射 を 受 け た 場 所	集合注射会場（公園や公民館など）	4 100.0	2 50.0	- -	- -	1 25.0	1 25.0	- -	2 50.0	- -
	動物病院	75 100.0	37 49.3	8 10.7	2 2.7	7 9.3	30 40.0	15 20.0	14 18.7	2 2.7
	動物愛護管理センター	1 100.0	- -	- -	- -	- -	- -	- -	- -	1 100.0
	その他	- -	- -	- -	- -	- -	- -	- -	- -	- -

⑧狂犬病予防注射済票の装着義務の認知状況

問 17－7（注射済票を装着していない方（問 17－5で「2. 装着していない」と回答された方のみ
お答え下さい。）注射済票の装着が法律で義務づけられていることを知っていましたか。
（○は1つだけ）

狂犬病予防注射済票の装着義務の認知状況をみると、「知っていた」が 18.8%、「知らなかった」が 78.8%となっている。

時系列にみると「知っていた」が大幅に減少し、「知らなかった」が8割弱まで大幅に増加している。ただし、今回の調査対象者（注射済票を装着していないと回答した対象者）と前回調査対象者（狂犬病予防注射を毎年受けている・受けないことがあると回答した対象者）が違うため、傾向をみる程度にとどめる。

犬の飼育場所別にみると、大きな差はみられない。

また最後に狂犬病の予防注射を受けた場所別にみると、サンプル数が少ないため傾向値ではあるが、集合注射会場（公園や公民館など）で接種した層では「知っていた」・「知らなかった」が半数ずつを占めており、動物病院で接種した層では「知らなかった」と回答した人が最も多い。

図 3-2-27 狂犬病予防注射済票の装着義務の認知状況（単数回答）

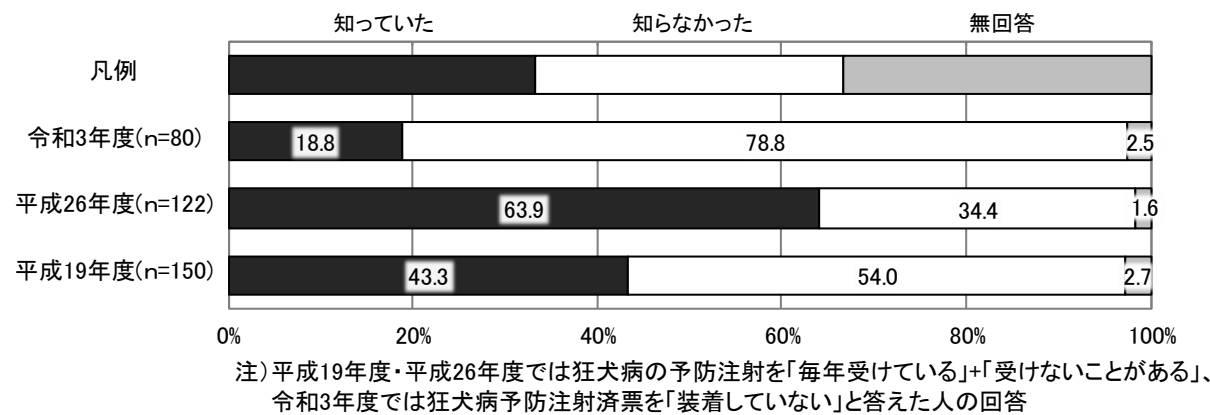


表 3-2-27 狂犬病予防注射済票の装着義務の認知状況（犬の飼育場所別）

		問 1 7 . 7 注射済票の装着が法律の義務である事の既知			
		全 体	知 っ て い た	知 ら な か つ た	無 回 答
全 体		80 100.0	15 18.8	63 78.8	2 2.5
犬 の 飼 育 場 所	屋外	2 100.0	- -	2 100.0	- -
	屋内	74 100.0	14 18.9	59 79.7	1 1.4
	屋外と屋内の両方	4 100.0	1 25.0	2 50.0	1 25.0
	無 回 答	- -	- -	- -	- -

表 3-2-28 狂犬病予防注射済票の装着義務の認知状況（最後に狂犬病の予防注射を受けた場所別）

		問 1 7 . 7 注射済票の装着が法律の義務である事の既知			
		全 体	知 っ て い た	知 ら な か つ た	無 回 答
全 体		80 100.0	15 18.8	63 78.8	2 2.5
予 最 防 後 た 注 場 射 所 を 犬 受 病 け の	集合注射会場（公園や公民館など）	4 100.0	2 50.0	2 50.0	- -
	動物病院	75 100.0	13 17.3	61 81.3	1 1.3
	動物愛護管理センター	1 100.0	- -	- -	1 100.0
	その他	- -	- -	- -	- -
		- -	- -	- -	- -

(7) 犬を最期まで飼うために不安なこと

問 18 【犬を飼っている人】犬を最期まで飼うために、不安に思っていることはありますか。あてはまるものをいくつでも選んで下さい。(〇はいくつでも)

犬を最期まで飼うために不安なことを尋ねたところ、「犬の体調や年齢に不安がある」(31.5%)が最も多く、次いで「お金がかかる」(19.8%)、「万が一飼えなくなった際に代わりに飼育できる人がみつからない」(14.4%)、「犬の気性(ほえる、かむなど)」(10.8%)、「自分の体調や年齢に不安がある」(7.2%)、「飼育できない住宅への転居」(6.3%)、「犬の頭数が多い」(0.9%)と続いている。

飼育場所別にみると、サンプル数が少ないため傾向値ではあるが、「屋外」飼養者では「犬の気性(ほえる、かむなど)」、「屋内」飼養者・「屋外と屋内の両方」飼養者では「犬の体調や年齢に不安がある」と回答する人が最も多い。

図 3-2-28 犬を最期まで飼うために不安なこと（複数回答）

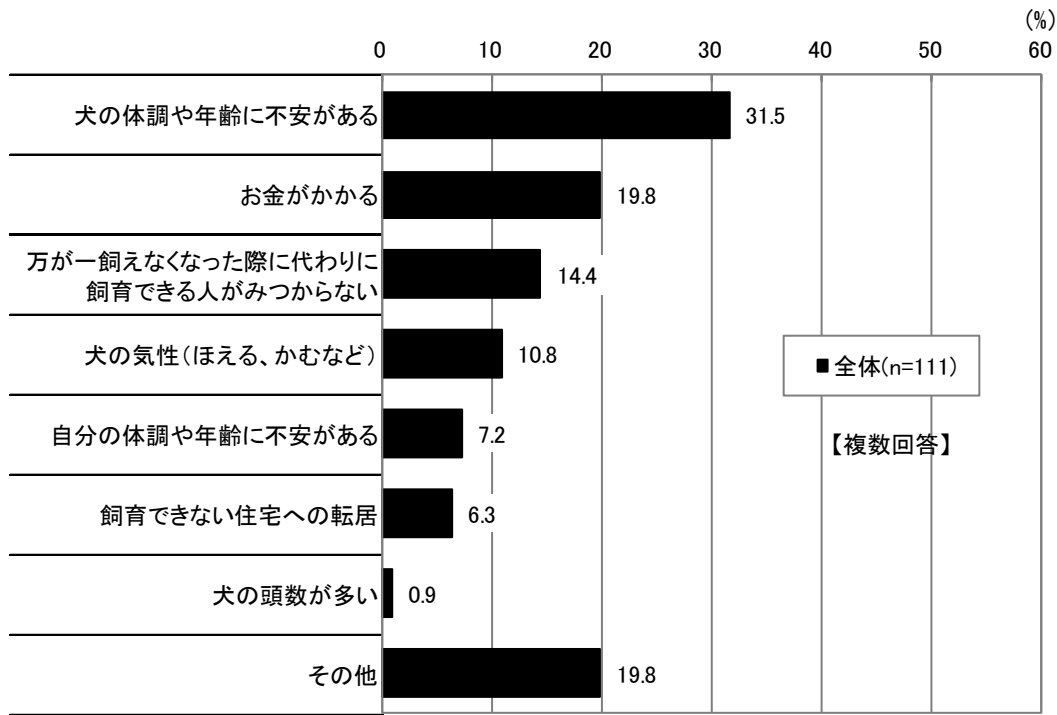


表 3-2-29 犬を最期まで飼うために不安なこと（犬の飼育場所別）

		問 1 8 犬を最期まで飼うために不安なこと									
		全 体	万 人 が 代 わ り に 飼 え な く な っ た 際 に 飼 育 で き る 人 が み つ か ら な い	自 分 の 体 調 や 年 齢 に 不 安 あ る	犬 の 体 調 や 年 齢 に 不 安 あ る	犬 の 気 性 （ ほ え る 、 か む な ど ）	犬 の 頭 数 が 多 い	飼 育 で き な い 住 宅 へ の 転 居	お 金 が か か る	そ の 他	無 回 答
		111 100.0	16 14.4	8 7.2	35 31.5	12 10.8	1 0.9	7 6.3	22 19.8	22 19.8	31 27.9
犬 の 飼 育 場 所	屋外	4 100.0	- -	1 25.0	- -	2 50.0	- -	- -	1 25.0	- -	1 25.0
	屋内	97 100.0	16 16.5	6 6.2	32 33.0	9 9.3	1 1.0	7 7.2	19 19.6	21 21.6	25 25.8
	屋外と屋内の両方	6 100.0	- -	1 16.7	3 50.0	1 16.7	- -	- -	2 33.3	1 16.7	1 16.7
	無 回 答	- -	- -	- -	- -	- -	- -	- -	- -	- -	- -
		- -	- -	- -	- -	- -	- -	- -	- -	- -	- -

(8) 猫の飼養について

①2頭以上の猫の飼育の有無

問 19 【猫を飼っている人】猫を2頭以上飼育していますか。(○は1つだけ)

猫を2頭以上飼育の有無でみると、「はい」(48.6%)、「いいえ」(47.2%)となっており、ほぼ半数ずつを占めている。

飼育方法別にみると、サンプル数が少ないため傾向値ではあるが、「時々外に出すことがある」飼養者・「猫が自由に屋内外を出入りできるようにしている」飼養者の半数以上が、猫を2頭以上飼育している。

図 3-2-29 2頭以上の猫の飼育の有無（単数回答）

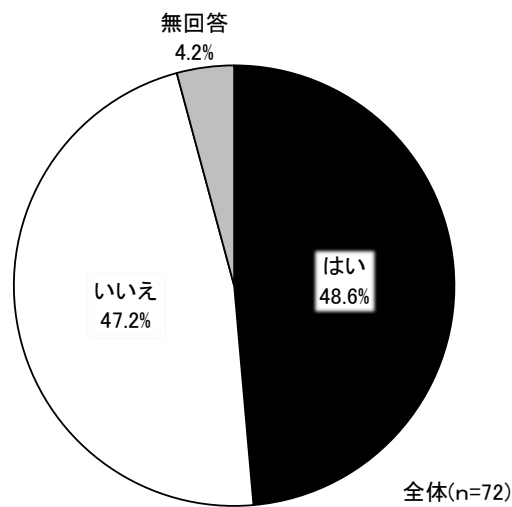


表 3-2-30 2頭以上の猫の飼育の有無（猫の飼育方法別）

		問 1 9 猫を2頭以上飼育しているか			
		全 体	はい	いい え	無 回 答
全 体		72 100.0	35 48.6	34 47.2	3 4.2
猫 の 飼 育 方 法	屋外には一切出さず、屋内でのみ飼っている	54 100.0	26 48.1	28 51.9	— —
	時々外に出すことがある	10 100.0	6 60.0	3 30.0	1 10.0
	猫が自由に屋内外を出入りできるようにしている	6 100.0	3 50.0	3 50.0	— —
	屋内には一切入れず、屋外のみで飼っている	— —	— —	— —	— —
	無 回 答	2 100.0	— —	— —	2 100.0

②猫を2頭以上飼育する理由

問 19－1（問 19 で「1. はい」と回答された方のみお答え下さい。）
猫を2頭以上飼育する理由として、あてはまるものをいくつでも選んで下さい。
（○はいくつでも）

猫を2頭以上飼育する理由を尋ねたところ、「里親になろうと思ったから」（40.0%）、「2頭以上いた方が楽しそうだから」（31.4%）、「1頭だけだと猫がかわいそうだから」（22.9%）と続いている。
飼育方法別にみると大きな差はみられない。

図 3-2-30 猫を2頭以上飼育している理由（複数回答）

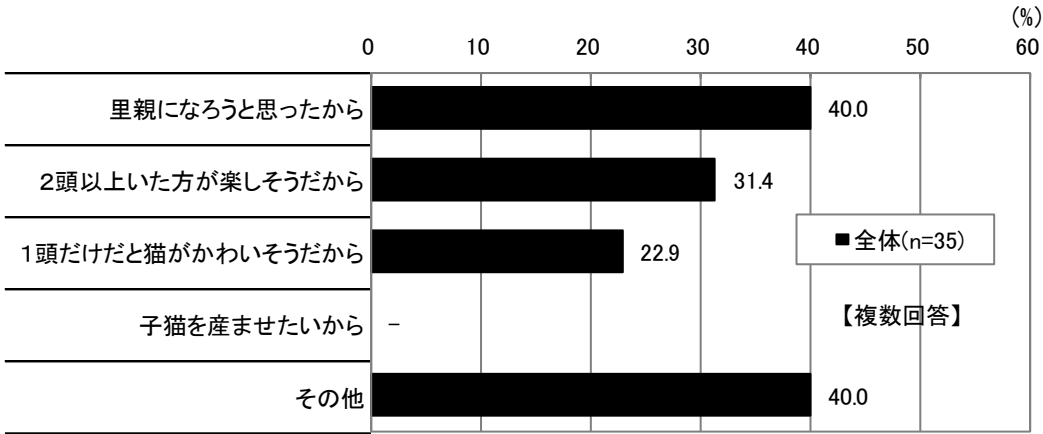


表 3-2-31 猫を2頭以上飼育している理由（猫の飼育方法別）

		問 1 9 . 1 猫を2頭以上飼育する理由						
		全 体	わ 1 い 頭 そ だ う け だ だ か と ら 猫 が かわ い そう だ け だ っ て い る	た 里 か 親 ら に な ろ う と 思 っ て い る	し 2 そ 頭 う 以 だ 上 か い ら 方 が 楽 し そう だ け だ っ て い る	ら 子 猫 を 産 ま せ た い か ら	そ の 他	無 回 答
全 体		35 100.0	8 22.9	14 40.0	11 31.4	- -	14 40.0	1 2.9
猫 の 飼 育 方 法	屋外には一切出さず、屋内でのみ飼っている	26 100.0	8 30.8	12 46.2	11 42.3	- -	7 26.9	1 3.8
	時々外に出すことがある	6 100.0	- -	2 33.3	- -	- -	4 66.7	- -
	猫が自由に屋内外を出入りできるようにしている	3 100.0	- -	- -	- -	- -	3 100.0	- -
	屋内には一切入れず、屋外のみで飼っている	- -	- -	- -	- -	- -	- -	- -
	無 回 答	- -	- -	- -	- -	- -	- -	- -
		- -	- -	- -	- -	- -	- -	- -

③ 1頭の猫から産まれる頭数の認知状況

問 20【猫を飼っている人】1頭の猫の出産によって、1年で20頭以上になることを知っていましたか。（○は1つだけ）

1頭の猫から産まれる頭数の認知状況でみると、6割弱の人は「知っていた」（59.7%）と回答しており、「知らなかった」は34.7%となっている。
飼育方法別にみると大きな差はみられない。

図 3-2-31 1頭の猫から産まれる頭数の認知状況（単数回答）

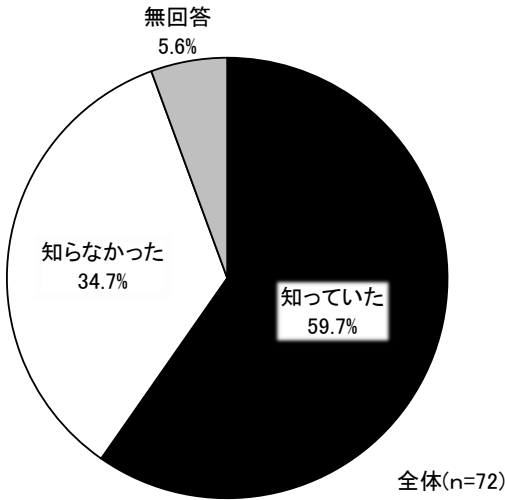


表 3-2-32 1頭の猫から産まれる頭数の認知状況（猫の飼育方法別）

		問 20 1頭の猫の出産で1年で20頭以上になることの既知			
		全 体	知 っ て い た	知 ら な か っ た	無 回 答
全 体		72 100.0	43 59.7	25 34.7	4 5.6
猫 の 飼 育 方 法	屋外には一切出さず、屋内でのみ飼っている	54 100.0	32 59.3	21 38.9	1 1.9
	時々外に出すことがある	10 100.0	7 70.0	3 30.0	－
	猫が自由に屋内外を出入りできるようにしている	6 100.0	4 66.7	1 16.7	1 16.7
	屋内には一切入れず、屋外のみで飼っている	－	－	－	－
	無 回 答	2 100.0	－	－	2 100.0

④猫の去勢や不妊手術の実施状況

問 21 【猫を飼っている人】猫の去勢や不妊去勢手術を受けていますか。（○は1つだけ）

猫の去勢や不妊手術の実施状況をみると、「受けた」が91.7%、「受ける予定がある」が1.4%、「受ける予定はない」が4.2%となっており、犬に比べ猫の去勢や不妊手術はかなり普及している。
時系列にみると、概ね『実施率』は年々増加傾向にある。
飼育方法別にみると、大きな差はみられない。

図 3-2-32 猫の去勢や不妊手術の実施状況（単数回答）

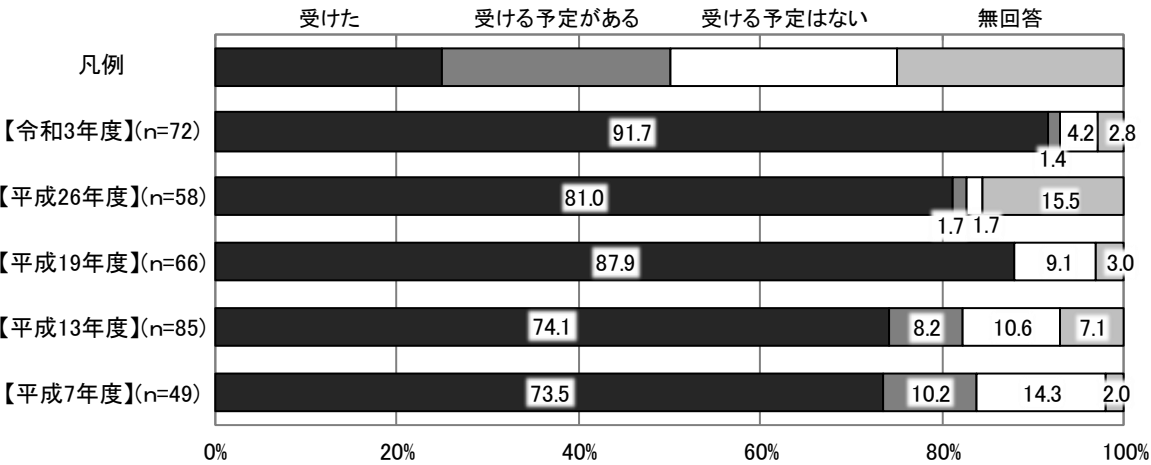


表 3-2-33 猫の去勢や不妊手術の実施状況（猫の飼育方法別）

		問 2 1 去勢や不妊去勢手術の経験有無（猫）				
		全 体	受 け た	受 け る 予 定 が あ る	受 け る 予 定 は な い	無 回 答
全 体		72 100.0	66 91.7	1 1.4	3 4.2	2 2.8
猫 の 飼 育 方 法	屋外には一切出さず、屋内でのみ飼っている	54 100.0	52 96.3	1 1.9	1 1.9	-
	時々外に出すことがある	10 100.0	8 80.0	-	2 20.0	-
	猫が自由に屋内外を出入りできるようにしている	6 100.0	6 100.0	-	-	-
	屋内には一切入れず、屋外のみで飼っている	-	-	-	-	-
	無 回 答	2 100.0	-	-	-	2 100.0

⑤猫のかかりつけ動物病院の有無

問 22 【猫を飼っている人】 かかりつけの動物病院はありますか。（○は1つだけ）

猫のかかりつけ動物病院の有無をみると、「1つある」が77.8%、「複数ある」が13.9%と、かかりつけ動物病院があると回答する人が9割強を占める。なお、「ない」は5.6%にとどまっている。
時系列でみると、前回調査と比べて「1つある」が10.6ポイント増加している。
飼育方法別にみると大きな差はみられない。

図 3-2-33 猫のかかりつけ動物病院の有無（単数回答）

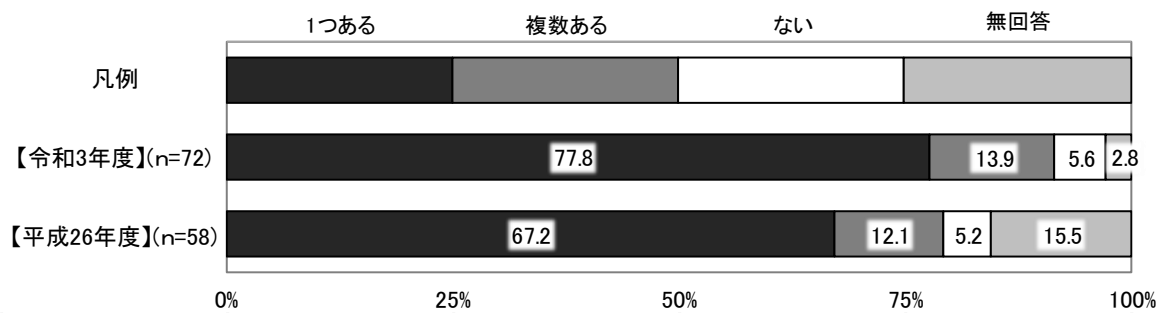


表 3-2-34 猫のかかりつけ動物病院の有無（猫の飼育方法別）

		問 2 2 かかりつけ動物病院の有無				
		全 体	1 つ あ る	複 数 あ る	な い	無 回 答
全 体		72 100.0	56 77.8	10 13.9	4 5.6	2 2.8
猫 の 飼 育 方 法	屋外には一切出さず、屋内でのみ飼っている	54 100.0	43 79.6	8 14.8	3 5.6	- -
	時々外に出すことがある	10 100.0	8 80.0	2 20.0	- -	- -
	猫が自由に屋内外を出入りできるようにしている	6 100.0	5 83.3	- -	1 16.7	- -
	屋内には一切入れず、屋外のみで飼っている	- -	- -	- -	- -	- -
	無 回 答	2 100.0	- -	- -	- -	2 100.0

(9) 猫の迷子札等の装着状況

①猫の迷子札等の装着状況

問 23 【猫を飼っている人】 迷子札など猫につけていますか。あてはまるものを1つだけ選んで下さい。(○は1つだけ)

猫の迷子札等の装着状況をみると、「首輪と迷子札をつけている」(8.3%)、「首輪に名前や連絡先を書いている」(4.2%)、「首輪だけつけている」(26.4%)、「マイクロチップを装着している」(13.9%)といった、何らかのものをつけていると回答した人が 52.8%を占めている。なお、「何もつけていない」という人は 44.4%となっている。

時系列にみると、前回調査に比べ迷子札等の『装着率』は増加している。

また飼育方法別にみると、全体の結果に比べて「時々外に出すことがある」飼養者においては、「首輪だけつけている」(30.0%)、「首輪に名前や連絡先を書いている」・「マイクロチップを装着している」・「何もつけていない」(各々20.0%)、「首輪と迷子札をつけている」(10.0%)といった順で回答が多い。ただし、サンプル数が少ないため傾向をみる程度となる。

図 3-2-34 猫の迷子札等の装着状況（単数回答）

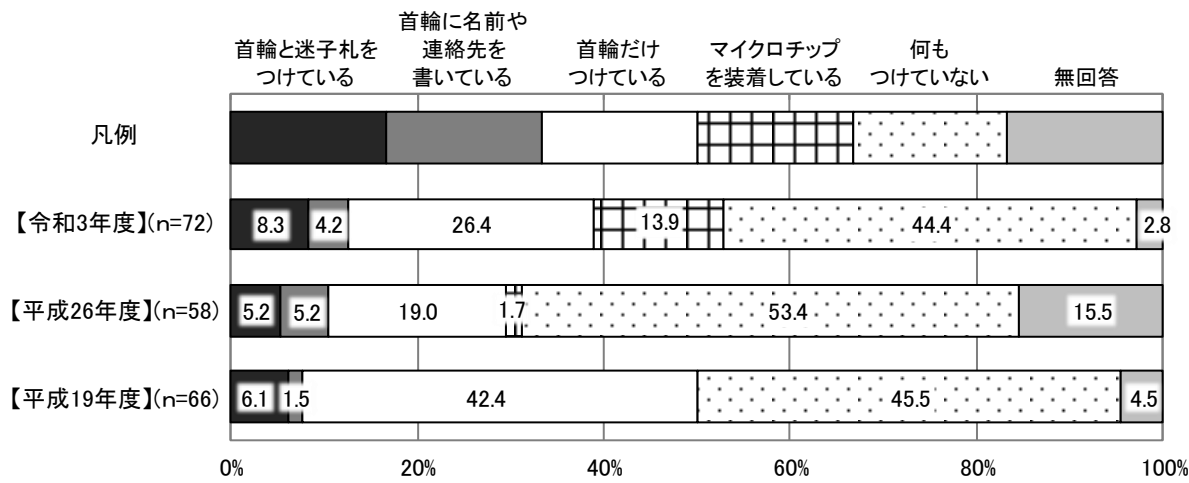


表 3-2-35 猫の迷子札等の装着状況（猫の飼育方法別）

		問 2 3 迷子札の装着有無（猫）						
		全 体	て首 い輪 ると 迷子 札を つけ	を首 書輪 いて に名 い前 るや 連絡 先	首輪 だけ つけ てい る	着マ イシ てク ロチ ップ を装	何も つけ てい ない	無 回 答
全 体		72 100.0	6 8.3	3 4.2	19 26.4	10 13.9	32 44.4	2 2.8
猫の飼育方法	屋外には一切出さず、屋内でのみ飼っている	54 100.0	4 7.4	1 1.9	14 25.9	8 14.8	27 50.0	-
	時々外に出すことがある	10 100.0	1 10.0	2 20.0	3 30.0	2 20.0	2 20.0	-
	猫が自由に屋内外を出入りできるようにしている	6 100.0	1 16.7	-	2 33.3	-	3 50.0	-
	屋内には一切入れず、屋外のみで飼っている	-	-	-	-	-	-	-
		-	-	-	-	-	-	-
	無 回 答	2 100.0	-	-	-	-	-	2 100.0

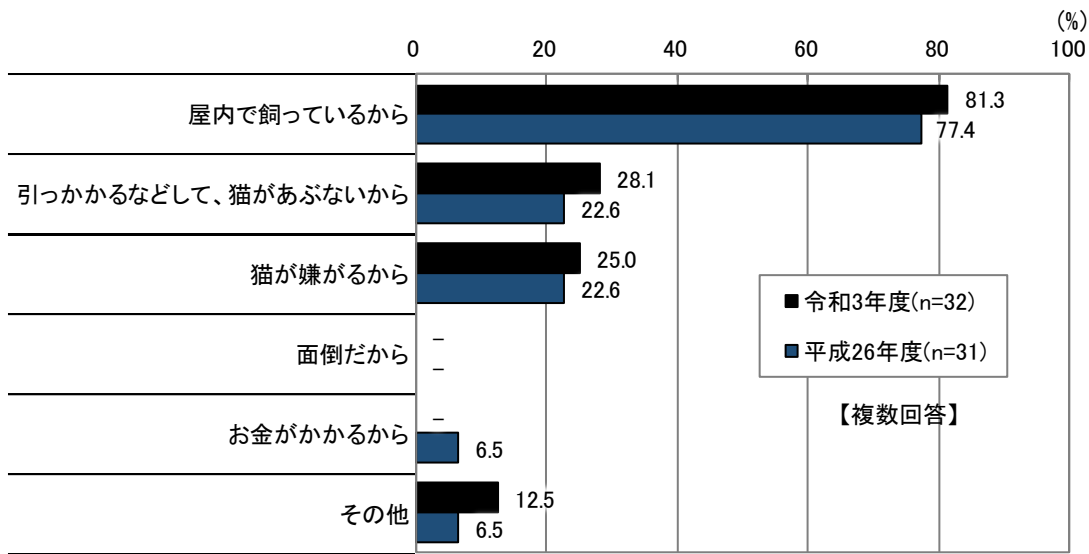
②迷子札等を装着しない理由

問 23－1（問 23 で「5. 何もつけていない」と回答された方のみお答え下さい。）迷子札などをつけない理由について、あてはまるものをいくつでも選んで下さい。（○はいくつでも）

迷子札等を装着しない理由を尋ねたところ、「屋内で飼っているから」（81.3％）と回答する人が中心であり、以下「引っかかるなどして、猫があぶないから」（28.1％）、「猫が嫌がるから」（25.0％）と続いている。

時系列でみると、前回調査の結果とほぼ同様の傾向を示している。

図 3-2-35 迷子札等を装着しない理由（複数回答）



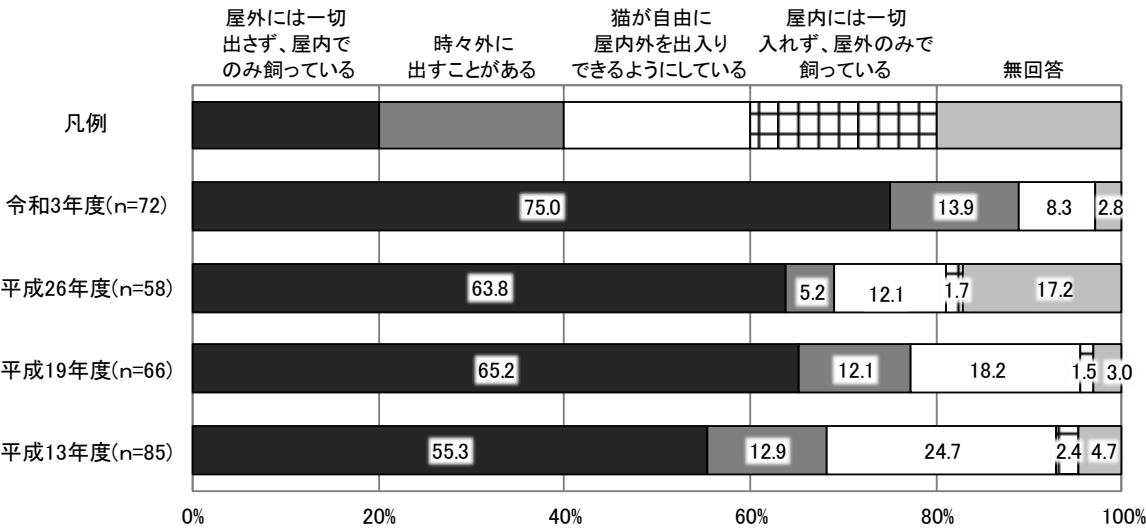
(10) 猫の飼育状況

問 24 【猫を飼っている人】あなたは、どのように猫を飼っていますか。あてはまるものを1つだけ選んで下さい。(○は1つだけ)

猫の飼育状況をみると、「屋外には一切出さず、屋内でのみ飼っている」(75.0%)が最も多く、次いで「時々外に出すことがある」(13.9%)、「猫が自由に屋内外を出入りできるようにしている」(8.3%)となっている。

時系列でみると、概ね「屋外には一切出さず、屋内でのみ飼っている」が増加傾向にある。

図 3-2-36 猫の飼育状況（単数回答）



注)平成13～26年度の「散歩やトイレの時などに限り野外に出すように管理している」の項目は、令和3年度の「時々外に出すことがある」に該当

(11) 猫を最期まで飼うために不安なこと

問 25 【猫を飼っている人】猫を最期まで飼うために、不安に思っていることはありますか。あてはまるものをいくつでも選んで下さい。(○はいくつでも)

猫を最期まで飼うために不安なことを尋ねたところ、「猫の体調や年齢に不安がある」(25.0%)が最も多く、「自分の体調や年齢に不安がある」(18.1%)、「お金がかかる」(15.3%)、「万が一飼えなくなった際に代わりに飼育できる人がみつからない」(11.1%)、「飼育できない住居への転居」(6.9%)、「猫の気性(ひっかく、かむなど)」(4.2%)、「猫の頭数が多い」(2.8%)となっている。
飼育方法別にみると、大きな差はみられない。

図 3-2-37 猫を最期まで飼うために不安なこと（複数回答）

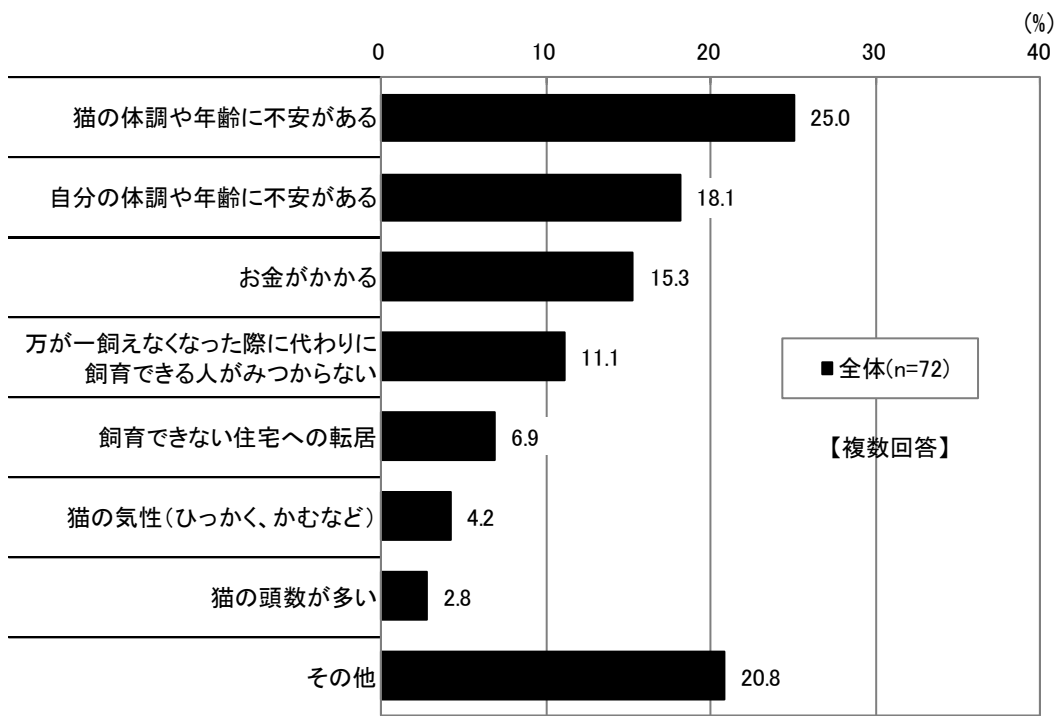


表 3-2-36 猫を最期まで飼うために不安なこと（猫の飼育方法別）

		問 2 5 猫を最期まで飼うために不安なこと										
		全 体	ない で き る 人 が み つ か ら	万 が一 飼 え な く な つ	自 分 の 体 調 や 年 齢 に	安 猫 の 体 調 や 年 齢 に 不	く、 猫 の 気 性 (ひ つ か	猫 の 頭 数 が 多 い	の 飼 育 で き な い 住 宅 へ	お 金 が か か る	そ の 他	無 回 答
全 体		72 100.0	8 11.1	13 18.1	18 25.0	3 4.2	2 2.8	5 6.9	11 15.3	15 20.8	15 20.8	
猫 の 飼 育 方 法	屋外には一切出さず、屋内でのみ飼っている	54 100.0	6 11.1	6 11.1	15 27.8	2 3.7	2 3.7	3 5.6	9 16.7	13 24.1	10 18.5	
	時々外に出すことがある	10 100.0	1 10.0	2 20.0	2 20.0	1 10.0	-	1 10.0	1 10.0	1 10.0	3 30.0	
	猫が自由に屋内外を出入りできるようにしている	6 100.0	1 16.7	5 83.3	1 16.7	-	-	1 16.7	1 16.7	1 16.7	-	
	屋内には一切入れず、屋外のみで飼っている	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
		-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
	無 回 答	2 100.0	-	-	-	-	-	-	-	-	-	2 100.0

3. 犬による被害等について

(1) 他人が飼っている犬による被害について

①他人が飼っている犬による被害経験

問 26 【全員】 他人が飼っている犬で困ったことはありますか。(○は1つだけ)

他人が飼っている犬や野良犬による被害経験をみると、「ある」と答える人が 37.9%を占め、4 割弱の人が被害を経験している。

時系列でみると、前回調査より被害経験は減少している。

飼っているペットの種類別にみると、大きな差はみられない。

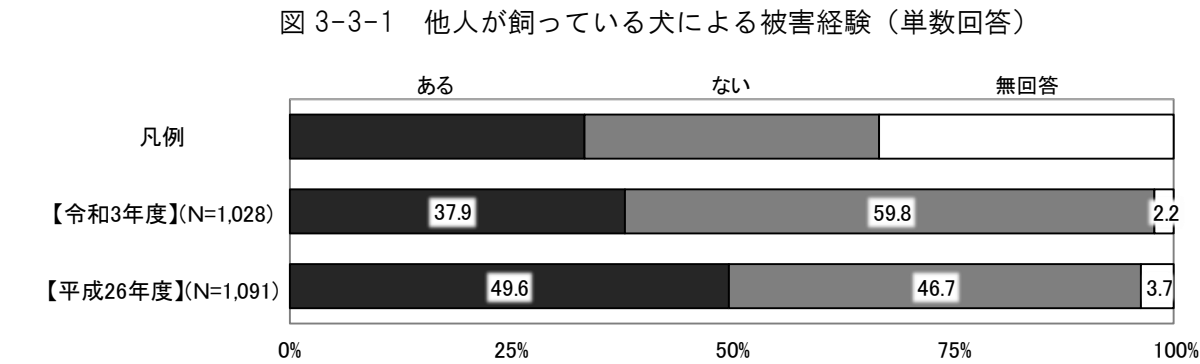


表 3-3-1 他人が飼っている犬による被害経験（飼っているペットの種類別）

		問 26 他人が飼っている犬で困ったことの有無			
		全 体	あ る	な い	無 回 答
全 体		1,028 100.0	390 37.9	615 59.8	23 2.2
飼 っ て い る ペ ッ ト の 種 類	犬（オス）	68 100.0	28 41.2	36 52.9	4 5.9
	犬（メス）	50 100.0	14 28.0	35 70.0	1 2.0
	猫（オス）	34 100.0	11 32.4	23 67.6	-
	猫（メス）	59 100.0	16 27.1	39 66.1	4 6.8
	鳥類	22 100.0	9 40.9	13 59.1	-
	は虫類	18 100.0	6 33.3	12 66.7	-
	その他	48 100.0	18 37.5	30 62.5	-
	いずれも飼っていない	742 100.0	292 39.4	437 58.9	13 1.8
	無 回 答	-	-	-	-

住宅の所有形式別にみると、社宅・寮（一戸建て）、持家（一戸建て）において被害経験が「ある」と答える人が多い。

居住地区別にみると、博多区と西区において被害経験が「ある」と答える人が多い。

地域環境別にみると、住宅地（一戸建てが多い）において被害経験が「ある」と答える人が多い。

なお、サンプル数が少ないため傾向値ではあるが、工場や倉庫が多い地域での被害経験者は6割強を占めている。

表 3-3-2 他人が飼っている犬による被害経験
(住宅の所有形式別、居住地区別、地域環境別)

(単位: %)

		調査数	ある	ない	無回答
全 体		1,028	390	615	23
		100.0	37.9	59.8	2.2
住宅の所有形式別	持ち家(一戸建て)	357	45.9	50.7	3.4
	持ち家(マンションなどの共同住宅)	283	33.6	65.4	1.1
	市営住宅	29	37.9	62.1	-
	県営住宅	8	37.5	50.0	12.5
	公団・公社の賃貸住宅	28	42.9	53.6	3.6
	民間の借家(一戸建て)	10	40.0	50.0	10.0
	民間の借家(アパート・マンション)	266	32.3	66.9	0.8
	社宅・寮など(一戸建て)	3	66.7	33.3	-
	社宅・寮など(アパート・マンション)	24	37.5	58.3	4.2
	その他	14	21.4	71.4	7.1
無回答		6	16.7	66.7	16.7
居住地区別	東区	216	39.8	58.3	1.9
	博多区	162	43.8	54.3	1.9
	中央区	114	27.2	70.2	2.6
	南区	186	36.0	61.8	2.2
	城南区	79	35.4	60.8	3.8
	早良区	126	38.1	60.3	1.6
	西区	140	41.4	56.4	2.1
	無回答	5	20.0	60.0	20.0
地域環境別	住宅地(集合住宅が多い)	522	33.3	65.5	1.1
	住宅地(一戸建てが多い)	427	44.3	52.7	3.0
	商業地・繁華街	38	34.2	63.2	2.6
	工場や倉庫が多い地域	8	62.5	37.5	-
	緑が多い地域	24	29.2	66.7	4.2
	無回答	9	22.2	55.6	22.2

②被害の内容

問 26－1（問 26 で「1. ある」と回答された方のみお答え下さい。）困ったことの理由として、あてはまるものをいくつでも選んで下さい。（○はいくつでも）

他人が飼っている犬や野良犬による被害の内容を尋ねたところ、「糞（ふん）・尿」（75.9％）という回答が圧倒的に多く、以下「鳴き声」（44.6％）、「放し飼い」（17.4％）、「かまれた」（10.5％）、「毛の飛散」（8.5％）と続いている。

時系列でみると、「糞（ふん）・尿」、「放し飼い」がやや減少している。

飼っているペットの種類別にみると、ほぼ全体の結果と同様だが、猫（オス）において「放し飼い」と回答した人がやや多くなっている。ただし、サンプル数が少ないため傾向をみる程度となる。

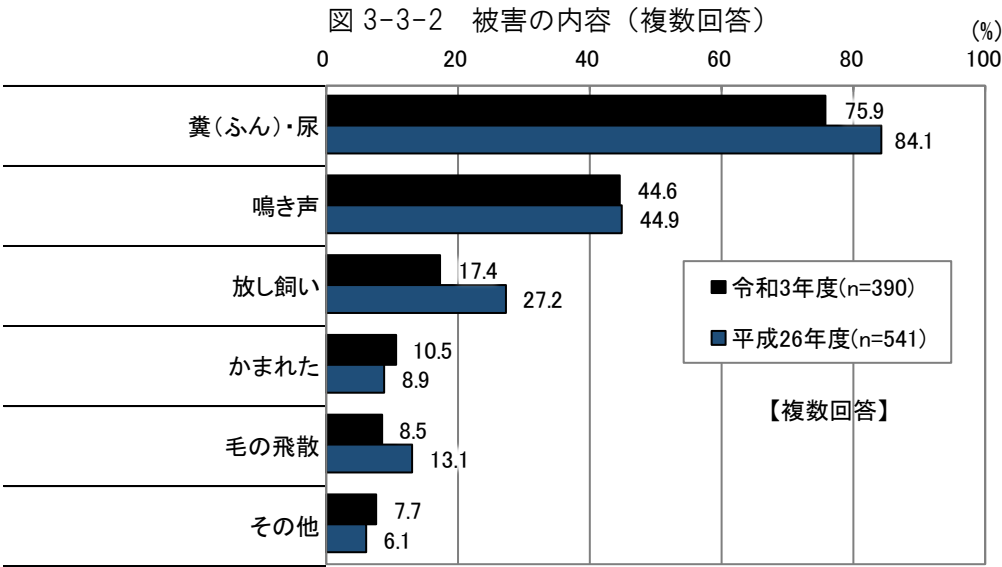


表 3-3-3 他人が飼っている犬による被害経験（飼っているペットの種類別）

		問 2 6 . 1 困った事がある理由（犬）							
		全 体	糞 （ ふ ん ） ・ 尿	鳴 き 声	毛 の 飛 散	放 し 飼 い	か ま れ た	そ の 他	無 回 答
全 体		390 100.0	296 75.9	174 44.6	33 8.5	68 17.4	41 10.5	30 7.7	2 0.5
飼 っ て い る ペ ッ ト の 種 類	犬（オス）	28 100.0	20 71.4	12 42.9	1 3.6	3 10.7	4 14.3	1 3.6	-
	犬（メス）	14 100.0	11 78.6	2 14.3	-	3 21.4	-	2 14.3	-
	猫（オス）	11 100.0	8 72.7	4 36.4	-	4 36.4	-	1 9.1	-
	猫（メス）	16 100.0	11 68.8	4 25.0	-	3 18.8	1 6.3	-	-
	鳥類	9 100.0	6 66.7	4 44.4	1 11.1	1 11.1	-	-	-
	は虫類	6 100.0	4 66.7	2 33.3	-	1 16.7	-	1 16.7	-
	その他	18 100.0	13 72.2	6 33.3	2 11.1	4 22.2	1 5.6	2 11.1	-
	いずれも飼っていない	292 100.0	223 76.4	138 47.3	28 9.6	51 17.5	32 11.0	22 7.5	2 0.7
	無 回 答	-	-	-	-	-	-	-	-
		-	-	-	-	-	-	-	-

住宅の所有形式別にみると、住宅形式にかかわらず「糞（ふん）・尿」による被害内容が高い割合を示している。

居住地区別にみると、城南区において「糞（ふん）・尿」、南区において「鳴き声」・「かまれた」、西区において「放し飼い」、中央区において「毛の飛散」と回答した人の割合が高くなっている。

表 3-3-4 被害の内容（住宅の所有形式別、居住地区別）

(単位: %)

		サ ン プ ル 数	糞 （ふん） ・ 尿	鳴 き 声	放 し 飼 い	か ま れ た	毛 の 飛 散	そ の 他	無 回 答
全 体		390 100.0	296 75.9	174 44.6	68 17.4	41 10.5	33 8.5	30 7.7	2 0.5
住 宅 の 所 有 形 式 別	持ち家（一戸建て）	164	84.8	41.5	20.1	6.1	4.3	6.7	－
	持ち家（マンションなどの共同住宅）	95	72.6	41.1	12.6	11.6	9.5	11.6	－
	市営住宅	11	45.5	54.5	18.2	45.5	18.2	9.1	9.1
	県営住宅	3	33.3	100.0	33.3	33.3	33.3	－	－
	公団・公社の賃貸住宅	12	75.0	41.7	8.3	8.3	16.7	8.3	－
	民間の借家（一戸建て）	4	75.0	25.0	－	25.0	25.0	－	－
	民間の借家（アパート・マンション）	86	68.6	51.2	17.4	12.8	12.8	5.8	1.2
	社宅・寮など（一戸建て）	2	50.0	100.0	－	－	－	－	－
	社宅・寮など（アパート・マンション）	9	77.8	44.4	22.2	－	－	11.1	－
	その他	3	100.0	66.7	66.7	－	－	－	－
無回答	1	－	－	－	100.0	－	－	－	
居 住 地 区 別	東区	86	75.6	41.9	14.0	7.0	4.7	7.0	－
	博多区	71	71.8	50.7	9.9	12.7	11.3	5.6	1.4
	中央区	31	83.9	51.6	19.4	9.7	16.1	9.7	－
	南区	67	74.6	55.2	22.4	20.9	10.4	11.9	－
	城南区	28	92.9	42.9	21.4	3.6	7.1	－	－
	早良区	48	81.3	31.3	16.7	2.1	4.2	12.5	2.1
	西区	58	65.5	37.9	24.1	12.1	8.6	5.2	－
	無回答	1	100.0	－	－	－	－	－	－

③被害への対処方法

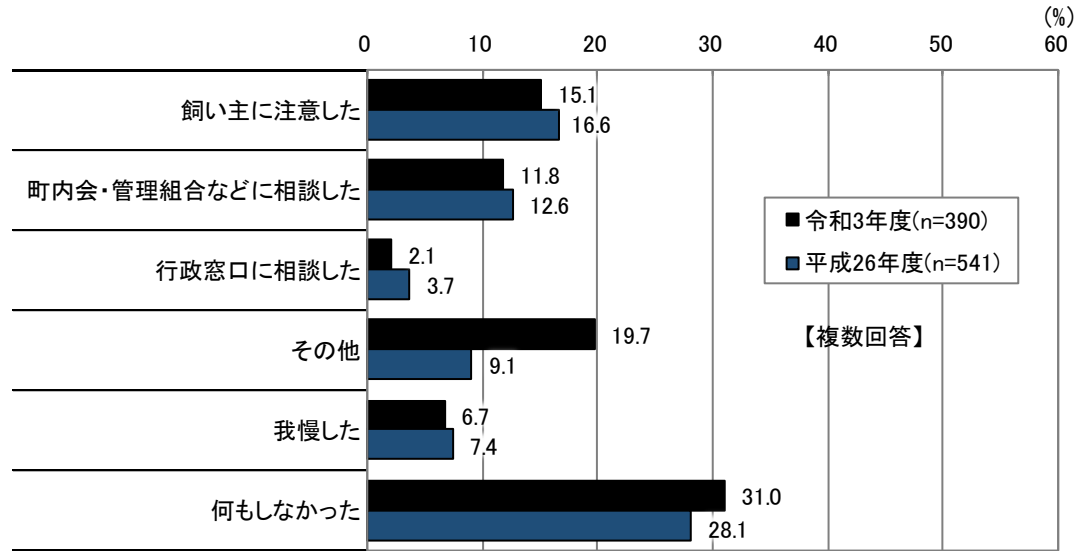
問 26－2（問 26 で「1. ある」と回答された方のみお答え下さい。）他人の犬や野良犬に困った時にどう対処したか、あてはまるものをいくつでも選んで下さい。（○はいくつでも）

他人が飼っている犬や野良犬による被害への対処方法をみると、「飼い主に注意した」（15.1％）が最も多く、次いで「町内会・管理組合などに相談した」（11.8％）、「行政窓口相談した」（2.1％）と続いている。一方、「何もしなかった」（31.0％）、「我慢した」（6.7％）など、何の対応もしなかった人もかなりみられた。

時系列でみると、前回調査の結果とほぼ同様の傾向を示している。

飼っているペットの種類別にみると大きな差はみられない。

図 3-3-3 被害への対処方法（複数回答）



注)「その他」の記述の中で「我慢した」、「何もしなかった」の意見が多数寄せられたため、二者を新たに選択肢として追加し、集計している。

表 3-3-5 被害への対処方法（飼っているペットの種類別）

		問 2 6 . 2 他人の犬や野良犬に困った時の対処法							
		全 体	飼 い 主 に 注 意 し た	行 政 窓 口 に 相 談 し た	ど 町 に 内 会 ・ 管 理 組 合 な	そ の 他	我 慢 し た	何 も し な か っ た	無 回 答
全 体		390 100.0	59 15.1	8 2.1	46 11.8	77 19.7	26 6.7	121 31.0	69 17.7
飼 っ て い る ペ ツ ト の 種 類	犬（オス）	28 100.0	7 25.0	1 3.6	1 3.6	5 17.9	1 3.6	8 28.6	5 17.9
	犬（メス）	14 100.0	4 28.6	- -	- -	2 14.3	- -	6 42.9	2 14.3
	猫（オス）	11 100.0	4 36.4	1 9.1	1 9.1	- -	- -	4 36.4	1 9.1
	猫（メス）	16 100.0	5 31.3	2 12.5	2 12.5	- -	- -	6 37.5	1 6.3
	鳥類	9 100.0	- -	1 11.1	2 22.2	- -	1 11.1	3 33.3	2 22.2
	は虫類	6 100.0	- -	- -	2 33.3	1 16.7	- -	2 33.3	1 16.7
	その他	18 100.0	1 5.6	1 5.6	4 22.2	5 27.8	1 5.6	3 16.7	4 22.2
	いずれも飼っていない	292 100.0	42 14.4	3 1.0	33 11.3	59 20.2	21 7.2	93 31.8	53 18.2
	無 回 答	20 100.0	4 20.0	- -	4 20.0	6 30.0	3 15.0	3 15.0	3 15.0

性別にみると、男性が女性に比べ「飼い主に注意した」という人が多くみられる。

年齢別にみると、20代では「飼い主に注意した」と回答した人が多くなっているのに比べ、30代～60歳以上では「何もしなかった」と回答した人が多くなっている。

表 3-3-6 被害への対処（性別、年齢別、住宅の所有形式別）

		(単位: %)							
		調 査 数	飼 い 主 に 注 意 し た	町 内 会 ・ 管 理 組 合 な ど に 相 談 し た	行 政 窓 口 に 相 談 し た	そ の 他	我 慢 し た	何 も し な か っ た	無 回 答
全 体		390 100.0	59 15.1	46 11.8	8 2.1	77 19.7	26 6.7	121 31.0	69 17.7
性 別	男性	153	20.3	13.1	0.7	19.0	7.8	25.5	18.3
	女性	234	11.5	11.1	3.0	20.1	6.0	35.0	17.1
	無回答	3	33.3	－	－	33.3	－	－	33.3
年 齢 別	20代	23	26.1	4.3	－	30.4	4.3	17.4	21.7
	30代	49	8.2	2.0	4.1	10.2	6.1	46.9	22.4
	40代	79	11.4	6.3	3.8	15.2	10.1	38.0	19.0
	50代	69	13.0	18.8	2.9	10.1	7.2	37.7	14.5
	60歳以上	170	18.2	15.3	0.6	27.1	5.3	22.4	16.5

注)「その他」の記述の中で「我慢した」、「何もしなかった」の意見が多数寄せられたため、二者を新たに選択肢として追加し、集計している。

④被害が起きる原因

問 26－3（問 26 で「1. ある」と回答された方のみお答え下さい。）犬で困ることが起こる原因は何だと思いますか。あてはまるものをいくつでも選んで下さい。（○はいくつでも）

犬による被害が起きる原因を尋ねたところ、「飼い主が正しい飼い方をしていない」が 66.4%で最も多く、次いで「犬で困っている人がいることを飼い主が気付かないから」（44.1%）、「飼い主に適正な飼養をするよう、行政からの啓発が足りないから」（17.7%）となっており、飼い主の飼い方や意識に原因を求める割合が高くなっている。ただし、時系列でみると前回調査より「その他」以外の項目において減少傾向にある。

飼っているペットの種類別にみると、サンプル数が少ないため傾向値ではあるが、犬（オス・メス）において「飼い主が正しい飼い方をしていないから」と答える人の割合が高い。

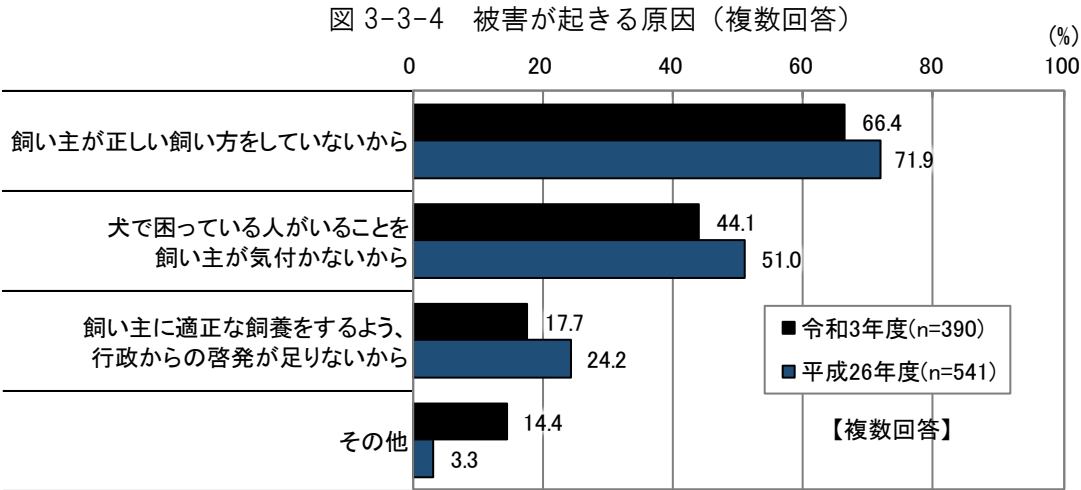


表 3-3-7 被害が起きる原因（飼っているペットの種類別）

		問 2 6 . 3 犬で困る事が起こる原因と思うもの					
		全 体	方飼 をい し主 てが い正 しい か飼 らい	気い 付る かこ ない をて か飼 ら いる 主人 がが	犬で 困つ てい る 主人 がが	から のす い主 に適 正な 政飼 養	そ の 他
全 体		390 100.0	259 66.4	172 44.1	69 17.7	56 14.4	23 5.9
飼 っ て い る ペ ッ ト の 種 類	犬（オス）	28 100.0	23 82.1	8 28.6	2 7.1	2 7.1	2 7.1
	犬（メス）	14 100.0	13 92.9	4 28.6	2 14.3	1 7.1	- -
	猫（オス）	11 100.0	7 63.6	4 36.4	2 18.2	1 9.1	1 9.1
	猫（メス）	16 100.0	10 62.5	9 56.3	3 18.8	- -	1 6.3
	鳥類	9 100.0	4 44.4	5 55.6	1 11.1	1 11.1	- -
	は虫類	6 100.0	4 66.7	2 33.3	- -	1 16.7	- -
	その他	18 100.0	13 72.2	14 77.8	2 11.1	2 11.1	- -
	いずれも飼っていない	292 100.0	195 66.8	128 43.8	55 18.8	45 15.4	15 5.1
	無 回 答	20 100.0	8 40.0	7 35.0	4 20.0	4 20.0	5 25.0

性別にみると、男性が女性に比べ「飼い主に適正な飼養をするよう、行政からの啓発が足りないから」と回答する人が多くみられる。

年齢別にみると、30代で「犬で困っている人がいることを飼い主が気付かないから」、50代で「飼い主が正しい飼い方をしていないから」と回答する人が多くみられる。

住宅の所有形式別にみると、民間の借家において「飼い主が正しい飼い方をしていないから」と回答する人が多くみられる。

表 3-3-8 被害が起きる原因（性別、年齢別、住宅の所有形式別）

		(単位: %)					
		調査数	を飼 いて 主が ない から 飼い 方	犬 で 困 る こ と を つ ら い 主 が 人 が 付 い	飼 育 が よ う に 適 正 な 飼 養 の を	そ の 他	無 回 答
全 体		390 100.0	259 66.4	172 44.1	69 17.7	56 14.4	23 5.9
性別	男性	153	69.3	39.2	25.5	17.0	4.6
	女性	234	65.0	47.4	12.8	12.8	6.0
	無回答	3	33.3	33.3	-	-	66.7
年齢別	20代	23	69.6	52.2	21.7	17.4	-
	30代	49	61.2	59.2	10.2	10.2	4.1
	40代	79	74.7	50.6	11.4	8.9	3.8
	50代	69	81.2	40.6	18.8	13.0	1.4
	60歳以上	170	57.6	37.1	21.8	18.2	10.0
住宅の 所有 形式 別	持ち家(一戸建て)	164	67.1	45.7	17.7	13.4	7.9
	持ち家(マンションなどの共同住宅)	95	66.3	43.2	18.9	17.9	3.2
	市営住宅	11	63.6	9.1	18.2	-	18.2
	県営住宅	3	33.3	66.7	33.3	33.3	-
	公団・公社の賃貸住宅	12	58.3	33.3	16.7	16.7	-
	民間の借家(一戸建て)	4	75.0	50.0	25.0	25.0	-
	民間の借家(アパート・マンション)	86	72.1	46.5	14.0	14.0	2.3
	社宅・寮など(一戸建て)	2	-	50.0	50.0	-	-
	社宅・寮など(アパート・マンション)	9	44.4	55.6	22.2	11.1	11.1
	その他	3	66.7	33.3	33.3	-	33.3
	無回答	1	-	-	-	-	100.0

4. 猫による被害等について

(1) 野良猫や近所の猫による被害について

①野良猫や近所の猫による被害経験

問 27 【全員】 野良猫や近所の猫で困ったことはありますか。(○は1つだけ)

野良猫や近所の猫による被害経験をみると、「ある」が47.5%、「ない」が50.0%となっており、犬の被害経験に比べ割合がやや異なっている。

時系列にみると、被害経験が「ある」と答える人は年々減少傾向を示している。

飼っているペットの種類別にみると、サンプル数が少ないため傾向値ではあるが、猫（オス・メス）・鳥類において「ない」と答えた人が半数以上を占めている。

図 3-4-1 野良猫や近所の猫による被害経験（単数回答）

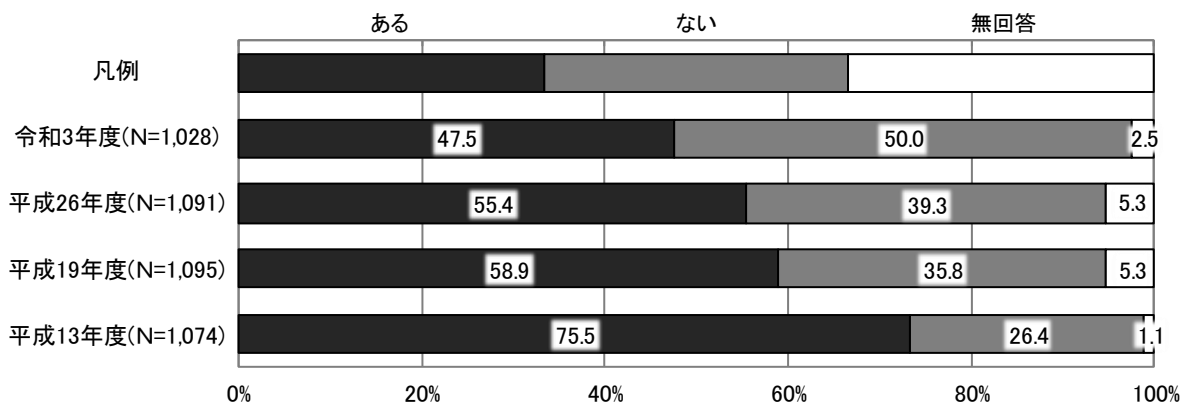


表 3-4-1 野良猫や近所の猫による被害経験（飼っているペットの種類別）

		問 27 野良猫や近所の猫で困ったことの有無			
		全	ある	ない	無
体					回
答					
全 体		1,028	488	514	26
		100.0	47.5	50.0	2.5
飼 っ て い る ペ ッ ト の 種 類	犬（オス）	68	37	29	2
	犬（メス）	50	25	24	1
		100.0	54.4	42.6	2.9
	猫（オス）	34	11	21	2
	猫（メス）	59	17	40	2
		100.0	28.8	67.8	3.4
	鳥類	22	10	12	-
		100.0	45.5	54.5	-
	は虫類	18	13	4	1
		100.0	72.2	22.2	5.6
	その他	48	24	23	1
		100.0	50.0	47.9	2.1
	いずれも飼っていない	742	355	369	18
		100.0	47.8	49.7	2.4
	無 回 答	46	23	22	1
		100.0	50.0	47.8	2.2

住宅の所有形式別でみると、持ち家（一戸建て）・県営住宅・民間の借家（一戸建て）において、猫による被害が「ある」と回答する人が多くみられる。

居住地区別にみると、城南区において被害経験が「ある」と答える人が多い。

地域環境別にみると、サンプル数が少ないため傾向値ではあるが、工場や倉庫が多い地域において被害経験が「ある」と答える人が多い。

表 3-4-2 野良猫や近所の猫による被害経験（住宅の所有形式別、居住地区別、地域環境別）

		(単位: %)			
		調査数	ある	ない	無回答
全 体		1,028	488	514	26
		100.0	47.5	50.0	2.5
住宅の所有形式別	持ち家（一戸建て）	357	73.9	23.5	2.5
	持ち家（マンションなどの共同住宅）	283	29.0	69.3	1.8
	市営住宅	29	27.6	62.1	10.3
	県営住宅	8	75.0	25.0	—
	公団・公社の賃貸住宅	28	25.0	64.3	10.7
	民間の借家（一戸建て）	10	60.0	40.0	—
	民間の借家（アパート・マンション）	266	37.6	60.9	1.5
	社宅・寮など（一戸建て）	3	33.3	66.7	—
	社宅・寮など（アパート・マンション）	24	29.2	66.7	4.2
	その他	14	35.7	57.1	7.1
無回答		6	33.3	66.7	—
居住地区別	東区	216	49.1	49.1	1.9
	博多区	162	45.7	52.5	1.9
	中央区	114	31.6	64.9	3.5
	南区	186	48.4	49.5	2.2
	城南区	79	58.2	36.7	5.1
	早良区	126	52.4	42.9	4.8
	西区	140	49.3	50.0	0.7
	無回答	5	20.0	80.0	—
地域環境別	住宅地（集合住宅が多い）	522	34.9	62.3	2.9
	住宅地（一戸建てが多い）	427	62.8	35.1	2.1
	商業地・繁華街	38	39.5	57.9	2.6
	工場や倉庫が多い地域	8	75.0	25.0	—
	緑が多い地域	24	58.3	41.7	—
	無回答	9	33.3	55.6	11.1

②被害の内容

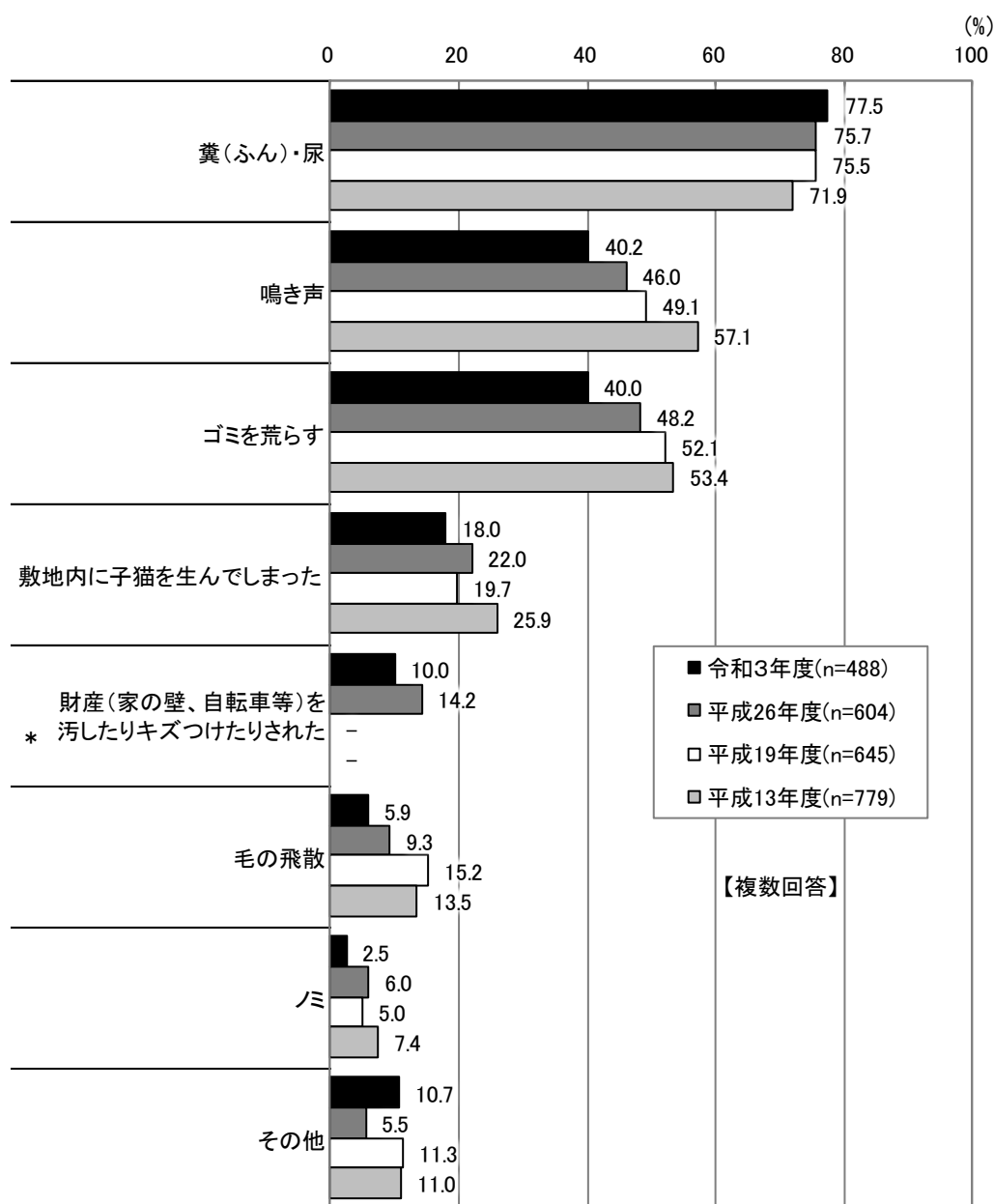
問 27-1 (問 27 で「1. ある」と回答された方のみお答え下さい。) 困ったことがある理由として、あてはまるものをいくつでも選んで下さい。(○はいくつでも)

猫による具体的な被害の内容を尋ねたところ、最も多かったのが「糞(ふん)・尿」(77.5%)、次いで「鳴き声」(40.2%)、「ゴミを荒らす」(40.0%)といった項目が上位にあがっている。

時系列でみると、「ゴミを荒らす」、「鳴き声」などの被害は減少傾向にある。

飼っているペットの種類別にみると、サンプル数が少ないため傾向値ではあるが、犬(メス)において「ゴミを荒らす」、猫(オス)において「鳴き声」と回答する人が多くなっている。

図 3-4-2 被害の内容(複数回答)



注)*は平成26年度からの選択肢

表 3-4-3 被害の内容（飼っているペットの種類別）

		問 2 7 . 1 困った事がある理由（猫）									
		全 体	糞 （ふん） ・ 尿	ゴミを 荒らす	毛の 飛散	敷 地 内 に 子 猫 を 生 ん だ	鳴 き 声	ノ ミ	車 等 ） を 汚 し た り 、 自 動 キ ズ つ け た り さ れ た	財 産 （ 家 の 壁 、 自 動	そ の 他
全 体		488 100.0	378 77.5	195 40.0	29 5.9	88 18.0	196 40.2	12 2.5	49 10.0	52 10.7	3 0.6
飼 っ て い る ペ ッ ト の 種 類	犬（オス）	37 100.0	30 81.1	13 35.1	3 8.1	2 5.4	11 29.7	3 8.1	2 5.4	5 13.5	- -
	犬（メス）	25 100.0	20 80.0	12 48.0	1 4.0	3 12.0	7 28.0	1 4.0	1 4.0	1 4.0	- -
	猫（オス）	11 100.0	6 54.5	4 36.4	- -	1 9.1	5 45.5	- -	1 9.1	2 18.2	- -
	猫（メス）	17 100.0	12 70.6	6 35.3	- -	3 17.6	5 29.4	- -	- -	2 11.8	- -
	鳥類	10 100.0	9 90.0	1 10.0	1 10.0	3 30.0	4 40.0	- -	- -	1 10.0	- -
	は虫類	13 100.0	9 69.2	6 46.2	- -	1 7.7	3 23.1	- -	2 15.4	2 15.4	- -
	その他	24 100.0	20 83.3	9 37.5	1 4.2	5 20.8	10 41.7	- -	4 16.7	2 8.3	- -
	いずれも飼っていない	355 100.0	272 76.6	138 38.9	23 6.5	70 19.7	156 43.9	8 2.3	41 11.5	36 10.1	3 0.8
	無 回 答	23 100.0	20 87.0	15 65.2	1 4.3	3 13.0	5 21.7	- -	- -	3 13.0	- -

住宅の所有形式別にみると、持ち家（一戸建て）で「ゴミを荒らす」の割合が高くなっている。

居住地区別にみると、中央区において「鳴き声」、城南区において「敷地内に子猫を生んでしまった」の割合が高くなっている。

地域環境別にみると、サンプル数が少ないため傾向値ではあるが、工場や倉庫が多い地域において「糞（ふん）・尿」、「ゴミを荒らす」、「財産（家の壁、自動車等）を汚したりキズつけたりされた」の割合が高くなっている。

表 3-4-4 被害の内容（住宅の所有形式別、居住地区別、地域環境別）

(単位: %)											
		調査数	糞（ふん）・尿	鳴き声	ゴミを荒らす	敷地内に子猫を生んでしまった	財産（家の壁、自転車等）を汚したりキズつけた	毛の飛散	ノミ	その他	無回答
全 体		488 100.0	378 77.5	196 40.2	195 40.0	88 18.0	49 10.0	29 5.9	12 2.5	52 10.7	3 0.6
住宅の所有形式別	持ち家（一戸建て）	264	83.0	34.1	48.5	20.8	11.0	4.9	2.3	11.0	0.8
	持ち家（マンションなどの共同住宅）	82	76.8	42.7	17.1	13.4	7.3	8.5	1.2	11.0	－
	市営住宅	8	75.0	87.5	37.5	25.0	－	－	－	－	－
	県営住宅	6	66.7	16.7	33.3	50.0	16.7	16.7	－	－	－
	公団・公社の賃貸住宅	7	85.7	57.1	14.3	28.6	28.6	－	－	－	－
	民間の借家（一戸建て）	6	66.7	66.7	16.7	16.7	16.7	16.7	－	16.7	16.7
	民間の借家（アパート・マンション）	100	66.0	50.0	36.0	14.0	10.0	7.0	4.0	12.0	－
	社宅・寮など（一戸建て）	1	100.0	100.0	－	－	－	－	－	－	－
	社宅・寮など（アパート・マンション）	7	42.9	14.3	85.7	－	－	－	14.3	－	－
	その他	5	80.0	60.0	60.0	－	－	－	－	－	－
無回答		2	100.0	－	50.0	－	－	－	－	50.0	－
居住地区別	東区	106	82.1	38.7	35.8	16.0	12.3	1.9	1.9	12.3	－
	博多区	74	77.0	40.5	27.0	17.6	10.8	8.1	2.7	12.2	2.7
	中央区	36	61.1	52.8	27.8	16.7	8.3	11.1	8.3	11.1	－
	南区	90	80.0	40.0	46.7	20.0	8.9	5.6	3.3	7.8	1.1
	城南区	46	69.6	47.8	50.0	23.9	13.0	6.5	－	8.7	－
	早良区	66	83.3	40.9	48.5	16.7	10.6	6.1	1.5	13.6	－
	西区	69	75.4	30.4	42.0	17.4	5.8	7.2	1.4	7.2	－
	無回答	1	100.0	－	100.0	－	－	－	－	100.0	－
地域環境別	住宅地（集合住宅が多い）	182	69.2	46.2	33.0	14.8	9.3	7.1	2.2	7.7	0.5
	住宅地（一戸建てが多い）	268	82.8	36.2	45.5	18.3	9.7	5.6	2.2	11.9	0.7
	商業地・繁華街	15	73.3	33.3	20.0	26.7	6.7	－	－	13.3	－
	工場や倉庫が多い地域	6	83.3	16.7	50.0	33.3	50.0	16.7	16.7	33.3	－
	緑が多い地域	14	78.6	57.1	42.9	28.6	7.1	－	－	－	－
	無回答	3	100.0	33.3	33.3	66.7	33.3	－	33.3	66.7	－

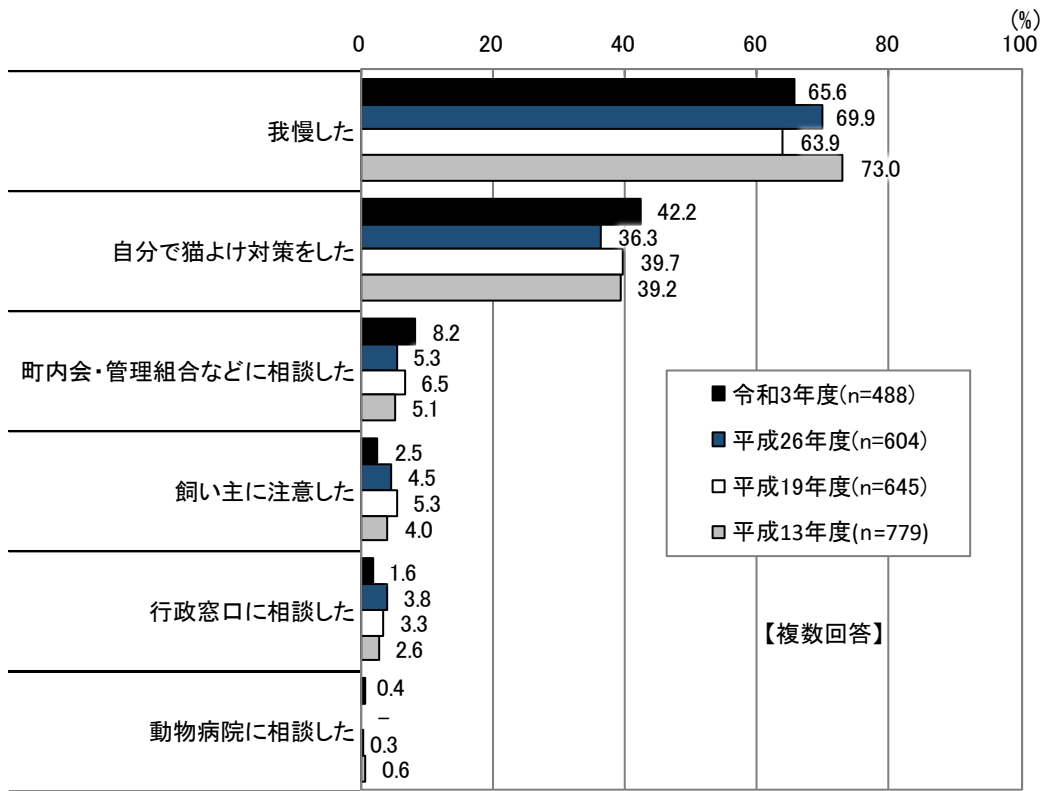
③被害への対処方法

問 27ー2（問 27 で「1. ある」と回答された方のみお答え下さい。）野良猫や近所の猫で困ったときはどう対処したか、あてはまるものをいくつでも選んで下さい。（○はいくつでも）

猫による被害への対処方法をみると、「我慢した」が65.6%と最も多かった。一方、「自分で猫よけ対策をした」（42.2%）、「町内会・管理組合などに相談した」（8.2%）、「飼い主に注意した」（2.5%）という人もみられる。

時系列にみると、「我慢した」、「自分で猫よけ対策をした」の2項目の割合が高い傾向は変わらない。飼っているペットの種類別にみると、サンプル数が少ないため傾向値ではあるが、猫（メス）において「自分で猫よけ対策をした」と回答した人が多い。

図 3-4-3 被害への対処方法（複数回答）



注) 平成13～26年度の「自分で工夫した」の項目は令和3年度は「自分で猫よけ対策をした」の項目に該当

表 3-4-5 被害への対処方法（飼っているペットの種類別）

		問 2 7 . 2 野良猫や近所の猫で困った時の対処法							
		全 体	し た 自 分 で 猫 よ け 対 策 を	行 政 窓 口 に 相 談 し た	動 物 病 院 に 相 談 し た	飼 い 主 に 注 意 し た	ど に 相 談 し た 町 内 会 ・ 管 理 組 合 な	我 慢 し た	無 回 答
全 体		488 100.0	206 42.2	8 1.6	2 0.4	12 2.5	40 8.2	320 65.6	13 2.7
飼 っ て い る ペ ッ ト の 種 類	犬（オス）	37 100.0	18 48.6	- -	- -	- -	1 2.7	25 67.6	1 2.7
	犬（メス）	25 100.0	14 56.0	- -	- -	- -	1 4.0	17 68.0	- -
	猫（オス）	11 100.0	5 45.5	1 9.1	- -	- -	1 9.1	5 45.5	1 9.1
	猫（メス）	17 100.0	11 64.7	1 5.9	- -	- -	1 5.9	3 17.6	2 11.8
	鳥類	10 100.0	3 30.0	- -	- -	- -	2 20.0	8 80.0	- -
	は虫類	13 100.0	5 38.5	- -	- -	- -	1 7.7	10 76.9	- -
	その他	24 100.0	13 54.2	- -	- -	- -	2 8.3	14 58.3	- -
	いずれも飼っていない	355 100.0	138 38.9	6 1.7	2 0.6	11 3.1	26 7.3	245 69.0	10 2.8
	無 回 答	23 100.0	12 52.2	- -	- -	1 4.3	5 21.7	9 39.1	- -

性別にみると、女性は男性に比べ「自分で猫よけ対策をした」と答える人が多くみられる。

年齢別にみると、20代で「我慢した」、30代で「自分で猫よけ対策をした」、20代・50代で「町内会・管理組合などに相談した」の割合がやや高くなっている。

住宅の所有形式別にみると、持ち家、借家にかかわらずマンションでは「我慢した」、持ち家、借家にかかわらず一戸建てでは「自分で猫よけ対策をした」の割合が高くなっている。

表 3-4-6 被害への対処方法（性別、年齢別、住宅の所有形式別）

(単位: %)

		調査数	我慢した	自分で猫よけ対策をした	町内会・管理組合などに相談した	飼い主に注意した	行政窓口相談した	動物病院に相談した	無回答
全 体		488 100.0	320 65.6	206 42.2	40 8.2	12 2.5	8 1.6	2 0.4	13 2.7
性別	男性	195	67.7	39.0	6.7	2.1	0.5	1.0	2.1
	女性	290	64.5	43.8	9.3	2.4	2.4	-	3.1
	無回答	3	33.3	100.0	-	33.3	-	-	-
年齢別	20代	31	77.4	25.8	9.7	-	3.2	-	3.2
	30代	63	73.0	54.0	4.8	1.6	-	-	-
	40代	92	75.0	32.6	7.6	-	3.3	-	-
	50代	82	72.0	42.7	9.8	2.4	1.2	-	1.2
	60歳以上	218	55.5	45.0	8.7	4.1	1.4	0.9	5.0
	無回答	2	50.0	50.0	-	-	-	-	-
住宅の所有形式別	持ち家(一戸建て)	264	55.7	61.4	5.7	3.4	2.7	0.4	1.9
	持ち家(マンションなどの共同住宅)	82	79.3	14.6	15.9	2.4	-	-	3.7
	市営住宅	8	62.5	37.5	12.5	-	-	-	-
	県営住宅	6	66.7	33.3	16.7	16.7	-	-	-
	公団・公社の賃貸住宅	7	57.1	14.3	14.3	-	-	-	14.3
	民間の借家(一戸建て)	6	83.3	50.0	-	-	-	-	-
	民間の借家(アパート・マンション)	100	79.0	20.0	9.0	-	1.0	1.0	3.0
	社宅・寮など(一戸建て)	1	100.0	-	-	-	-	-	-
	社宅・寮など(アパート・マンション)	7	85.7	14.3	-	-	-	-	-
	その他	5	80.0	20.0	-	-	-	-	-
無回答		2	-	50.0	-	-	-	-	50.0

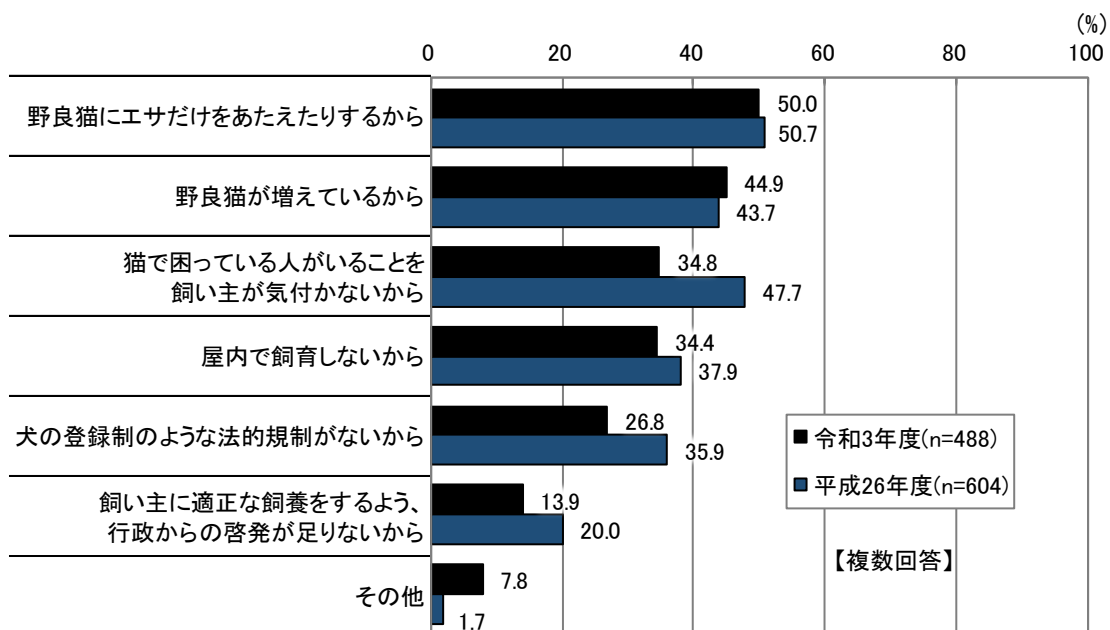
④被害がなくなる原因

問 27－3（問 27 で「1. ある」と回答された方のみお答え下さい。）猫で困ったことがなくならない原因は何だと思いますか。あてはまるものをいくつでも選んで下さい。（○はいくつでも）

猫による被害がなくなる原因を尋ねたところ、「野良猫にエサだけをあたえたりするから」（50.0%）が最も多く、次いで「野良猫が増えているから」（44.9%）、「猫で困っている人がいることを飼い主が気付かないから」（34.8%）、「屋内で飼育しないから」（34.4%）、「犬の登録制のような法的規制がないから」（26.8%）となっており、様々な意見にわかれている。

飼っているペットの種類別にみると、サンプル数が少ないため傾向値ではあるが、鳥類において「野良猫にエサだけをあたえたりするから」と回答する人が多い。

図 3-4-4 被害がなくなる原因（複数回答）



なお、平成 19 年度調査は単数回答のため、参考程度に掲載する。

図 3-4-5 参考：被害がなくなる原因（単数回答）

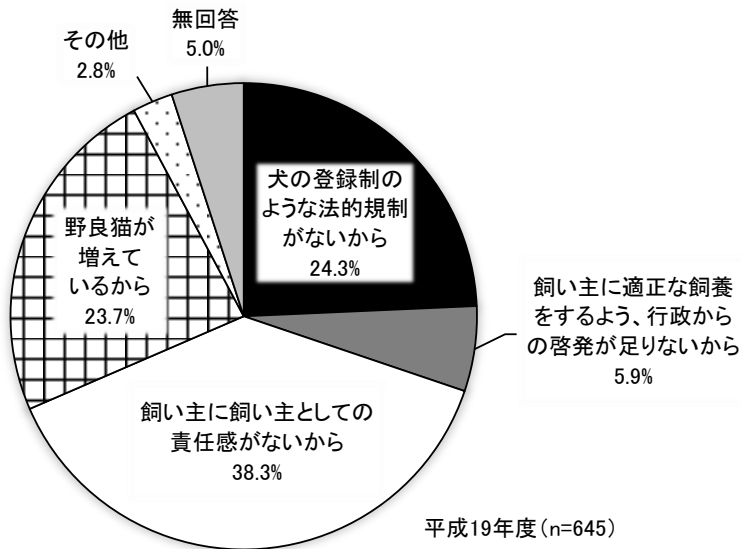


表 3-4-7 被害がなくなる原因（飼っているペットの種類別）

		問 2 7 . 3 猫で困った事がなくなる原因と思うもの								
		全 体	屋 内 で 飼 育 し な い か ら	か る 猫 な い と 困 ら な い か ら	啓 す 飼 育 が よ う に 足 り な い か ら	ら 野 良 猫 が 増 え て い る か	た 野 え た 猫 に す エ サ か だ け を あ	的 大 規 の 制 登 録 が な い か ら な い 法	そ の 他	無 回 答
全 体		488 100.0	168 34.4	170 34.8	68 13.9	219 44.9	244 50.0	131 26.8	38 7.8	21 4.3
飼 っ て い る ペ ッ ト の 種 類	犬（オス）	37 100.0	12 32.4	10 27.0	4 10.8	19 51.4	19 51.4	9 24.3	4 10.8	1 2.7
	犬（メス）	25 100.0	8 32.0	10 40.0	3 12.0	14 56.0	12 48.0	8 32.0	-	-
	猫（オス）	11 100.0	4 36.4	5 45.5	2 18.2	4 36.4	3 27.3	3 27.3	4 36.4	-
	猫（メス）	17 100.0	8 47.1	8 47.1	2 11.8	6 35.3	3 17.6	3 17.6	2 11.8	1 5.9
	鳥類	10 100.0	4 40.0	3 30.0	2 20.0	2 20.0	8 80.0	4 40.0	-	-
	は虫類	13 100.0	5 38.5	4 30.8	-	4 30.8	6 46.2	3 23.1	2 15.4	1 7.7
	その他	24 100.0	10 41.7	9 37.5	4 16.7	10 41.7	10 41.7	11 45.8	1 4.2	2 8.3
	いずれも飼っていない	355 100.0	122 34.4	120 33.8	52 14.6	160 45.1	188 53.0	93 26.2	25 7.0	15 4.2
	無 回 答	23 100.0	7 30.4	10 43.5	4 17.4	11 47.8	7 30.4	6 26.1	4 17.4	1 4.3

性別にみると、男性は女性に比べ「飼い主に適正な飼養をするよう、行政からの啓発が足りないから」と答える人が多くみられる。

年齢別にみると、60歳以上で「犬の登録制のような法的規制がないから」の割合が高くなっている。

住宅の所有形式別にみると、サンプル数が少ないため傾向値ではあるが、公団・公社の賃貸住宅において「野良猫にエサだけをあたえたりするから」と答える人が多くみられる。

表 3-4-8 被害がなくなる原因（性別、年齢別、住宅の所有形式別）

(単位: %)

		サ ン プ ル 数	た 野 え 良 猫 に す エ サ か ら を あ	ら 野 良 猫 が 増 え て い る か	か 猫 で 困 っ て い る 主 が 人 が 付 い	屋 内 で 飼 育 し な い か ら	的 犬 規 の 登 録 制 が な い か ら な 法	啓 す 飼 育 が よ う に 適 正 な 飼 養 の を	そ の 他	無 回 答
全 体		488 100.0	244 50.0	219 44.9	170 34.8	168 34.4	131 26.8	68 13.9	38 7.8	21 4.3
性 別	男性	195	51.3	43.1	36.9	35.4	26.2	20.0	8.2	4.1
	女性	290	49.0	46.2	33.4	33.8	27.6	10.0	7.2	4.1
	無回答	3	66.7	33.3	33.3	33.3	-	-	33.3	33.3
年 齢 別	20代	31	45.2	58.1	22.6	29.0	19.4	12.9	12.9	3.2
	30代	63	47.6	57.1	23.8	31.7	23.8	9.5	3.2	6.3
	40代	92	53.3	46.7	38.0	33.7	18.5	8.7	8.7	2.2
	50代	82	50.0	40.2	37.8	35.4	24.4	13.4	8.5	7.3
	60歳以上	218	50.5	40.4	37.6	36.2	33.5	17.9	7.8	3.2
	無回答	2	-	50.0	-	-	-	-	-	50.0
住 宅 の 所 有 形 式 別	持ち家(一戸建て)	264	48.9	43.2	37.5	43.2	28.4	16.3	8.3	3.0
	持ち家(マンションなどの共同住宅)	82	48.8	41.5	30.5	29.3	29.3	12.2	7.3	3.7
	市営住宅	8	37.5	37.5	12.5	25.0	12.5	-	12.5	12.5
	県営住宅	6	66.7	66.7	66.7	33.3	33.3	-	-	-
	公団・公社の賃貸住宅	7	100.0	28.6	42.9	14.3	28.6	14.3	-	-
	民間の借家(一戸建て)	6	50.0	50.0	66.7	83.3	66.7	16.7	-	-
	民間の借家(アパート・マンション)	100	54.0	54.0	27.0	17.0	18.0	10.0	8.0	8.0
	社宅・寮など(一戸建て)	1	-	-	100.0	-	100.0	100.0	-	-
	社宅・寮など(アパート・マンション)	7	42.9	28.6	57.1	14.3	14.3	-	14.3	-
	その他	5	-	60.0	40.0	40.0	40.0	40.0	-	-
	無回答	2	50.0	-	-	-	50.0	-	-	50.0

(2) まちの中に野良猫がいることについての意見

問 28 【全員】 まちの中に野良猫がいることをどう思いますか。(○は1つだけ)

まちの中に野良猫がいることについての意見を尋ねたところ、「いいことだと思う」(2.3%)、「いてもよい」(35.1%)という『肯定派』は4割弱にとどまり、「あまりよく思わない」(40.3%)、「いなくなったほうがよい」(19.3%)という『否定派』が6割を占めている。

飼っているペットの種類別にみると、サンプル数が少ないため傾向値ではあるが、猫(オス・メス)において「いてもよい」と回答する人が5割を超えている。

また野良猫や近所の猫で困ったこと別にみると、困った経験がない層において「いてもよい」と回答する割合が5割弱を占めている。

図 3-4-6 まちの中に野良猫がいることについての意見 (単数回答)

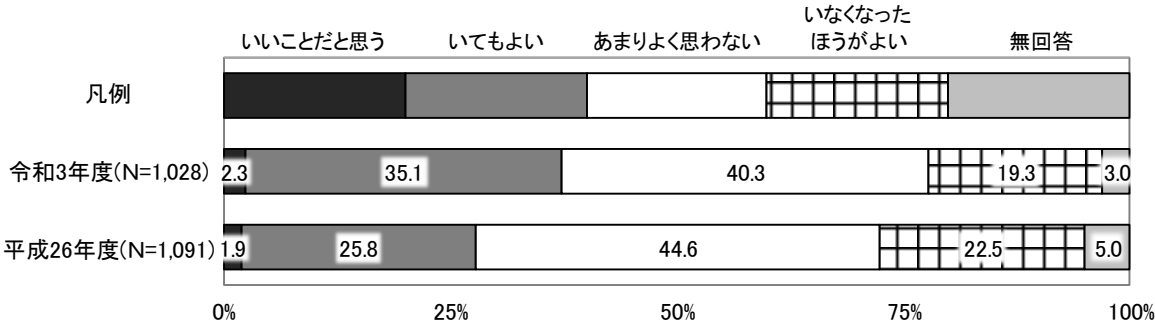


表 3-4-9 まちの中に野良猫がいることについての意見（飼っているペットの種類別）

		問 2 8 まちのなかに野良猫がいることの良し悪し					
		全 体	い い こ と だ と 思 う	い て も よ い	あ ま り よ く 思 わ な い	よ い な く な っ た ほ う が	無 回 答
全 体		1,028 100.0	24 2.3	361 35.1	414 40.3	198 19.3	31 3.0
飼 っ て い る ペ ッ ト の 種 類	犬（オス）	68 100.0	－ －	22 32.4	30 44.1	12 17.6	4 5.9
	犬（メス）	50 100.0	2 4.0	14 28.0	24 48.0	9 18.0	1 2.0
	猫（オス）	34 100.0	2 5.9	18 52.9	9 26.5	3 8.8	2 5.9
	猫（メス）	59 100.0	3 5.1	34 57.6	18 30.5	2 3.4	2 3.4
	鳥類	22 100.0	－ －	9 40.9	8 36.4	5 22.7	－ －
	は虫類	18 100.0	－ －	8 44.4	7 38.9	3 16.7	－ －
	その他	48 100.0	1 2.1	22 45.8	18 37.5	6 12.5	1 2.1
	いずれも飼っていない	742 100.0	20 2.7	245 33.0	302 40.7	156 21.0	19 2.6
	無 回 答	46 100.0	－ －	14 30.4	18 39.1	10 21.7	4 8.7

表 3-4-10 まちの中に野良猫がいることについての意見（野良猫や近所の猫で困ったこと別）

		問 2 8 まちのなかに野良猫がいることの良し悪し					
		全 体	い い こ と だ と 思 う	い て も よ い	あ ま り よ く 思 わ な い	よ い な く な っ た ほ う が	無 回 答
全 体		1,028 100.0	24 2.3	361 35.1	414 40.3	198 19.3	31 3.0
困 っ た こ と 野 良 猫 や 近 所 の 猫 で	ある	488 100.0	5 1.0	104 21.3	231 47.3	141 28.9	7 1.4
	ない	514 100.0	19 3.7	253 49.2	176 34.2	54 10.5	12 2.3
	無 回 答	26 100.0	－ －	4 15.4	7 26.9	3 11.5	12 46.2

性別にみると、男女とも全体結果とほぼ同様の傾向を示している。

年齢別にみると、概ね年齢が低くなるほど『肯定派』は多くなる傾向にあり、60歳以上では『否定派』が7割以上を占める。

住宅の所有形式別にみると、ほとんどの所有形式において『否定派』が『肯定派』を上回り、持ち家（一戸建て）においてその傾向が強い。

居住地区別にみると、すべての地区において『否定派』が『肯定派』を上回り、城南区においてその傾向が強い。

地域環境別にみると、住宅地（一戸建てが多い）において『否定派』が多くみられる。

表 3-4-11 まちの中に野良猫がいることについての意見
(性別、年齢別、住宅の所有形式別、居住地区別、地域環境別)

(単位: %)

		調査数	いいことだと思う	いてもよい	あまりよく思わない	よいなくなったほうが	無回答
全 体		1,028 100.0	24 2.3	361 35.1	414 40.3	198 19.3	31 3.0
性別	男性	395	3.5	32.4	39.7	23.0	1.3
	女性	626	1.6	37.1	40.4	16.9	4.0
	無回答	7	-	14.3	57.1	14.3	14.3
年齢別	20代	81	7.4	43.2	29.6	18.5	1.2
	30代	146	5.5	47.9	34.9	11.0	0.7
	40代	198	3.0	43.9	42.4	10.6	-
	50代	174	1.7	43.7	40.2	13.2	1.1
	60歳以上	423	0.2	21.0	43.5	28.8	6.4
	無回答	6	-	66.7	16.7	16.7	-
住宅の所有形式別	持ち家(一戸建て)	357	1.1	28.3	41.5	26.1	3.1
	持ち家(マンションなどの共同住宅)	283	2.1	36.0	40.3	18.7	2.8
	市営住宅	29	-	41.4	37.9	13.8	6.9
	県営住宅	8	-	25.0	62.5	12.5	-
	公団・公社の賃貸住宅	28	7.1	32.1	32.1	25.0	3.6
	民間の借家(一戸建て)	10	-	30.0	30.0	40.0	-
	民間の借家(アパート・マンション)	266	4.1	41.4	41.0	11.3	2.3
	社宅・寮など(一戸建て)	3	-	33.3	33.3	33.3	-
	社宅・寮など(アパート・マンション)	24	4.2	58.3	25.0	8.3	4.2
	その他	14	-	35.7	42.9	7.1	14.3
	無回答	6	-	33.3	33.3	33.3	-
居住地区別	東区	216	0.9	36.6	36.6	22.2	3.7
	博多区	162	2.5	37.0	37.7	19.8	3.1
	中央区	114	2.6	41.2	39.5	13.2	3.5
	南区	186	4.3	33.9	40.9	18.3	2.7
	城南区	79	2.5	25.3	45.6	22.8	3.8
	早良区	126	2.4	32.5	42.9	18.3	4.0
	西区	140	0.7	35.0	44.3	19.3	0.7
	無回答	5	20.0	40.0	20.0	20.0	-
地域環境別	住宅地(集合住宅が多い)	522	2.9	38.1	41.6	14.9	2.5
	住宅地(一戸建てが多い)	427	1.9	31.1	40.3	23.9	2.8
	商業地・繁華街	38	-	36.8	34.2	23.7	5.3
	工場や倉庫が多い地域	8	-	50.0	25.0	25.0	-
	緑が多い地域	24	-	33.3	33.3	20.8	12.5
	無回答	9	11.1	33.3	22.2	22.2	11.1

(3) 野良猫等による問題を解決するため有効と思う市の施策

問 29 【全員】野良猫などによる問題をなくしていくために、市が行う施策として何が有効だと思いますか。(〇は3つまで)

野良猫等による問題を解決するため有効と思う市の施策について尋ねたところ、「野良猫の不妊去勢手術への支援」(45.4%)が最も多く、次いで「地域猫活動の推進」(43.7%)、「野良猫への給餌行為に対する規制」(31.5%)、「飼い猫の登録制(飼い猫の所有者や所在地などを市に登録する制度)」(26.7%)、「野良猫の引き取り」(21.8%)などと続いている。

飼っているペットの種類別にみると、サンプル数が少ないため傾向値ではあるが、猫(オス・メス)において「地域猫活動の推進」・「野良猫の不妊去勢手術への支援」、鳥類において「野良猫への給餌行為に対する規制」、は虫類において「野良猫の引き取り」と回答する人が多い。

野良猫や近所の猫で困ったこと別にみると、大きな差はみられない。

図 3-4-7 野良猫等による問題を解決するため有効と思う市の施策(3つまで回答)

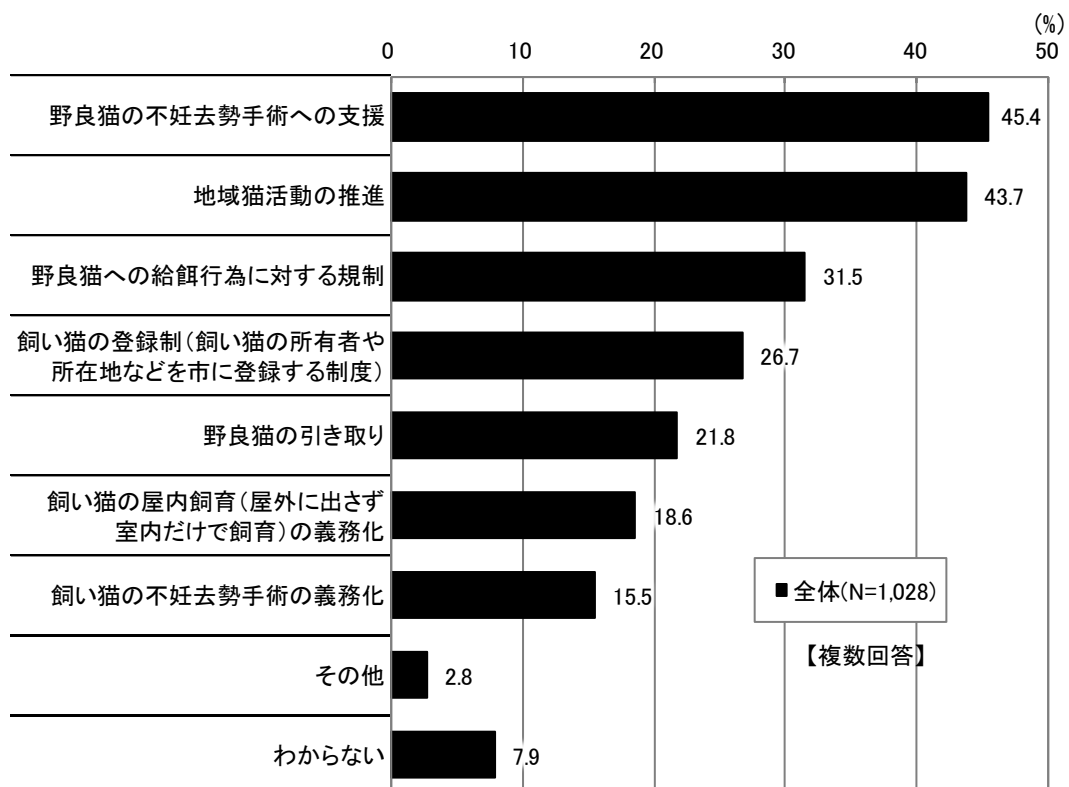


表 3-4-12 野良猫等による問題を解決するため有効と思う市の施策（飼っているペットの種類別）

		問 2 9 野良猫問題をなくすための市の施策で有効だと思うもの										
		全 体	地域 猫活動の 推進	野良猫への 支援	野良猫への 給餌行為 規制	野良猫の 引き取り	化け屋敷（ 屋外で飼育） の義務内	飼等猫を の市に登録する 在飼	地い猫の 登者録や 制（在飼	術飼の 義務化 不妊去勢 手	そ 他	わ か ら な い
全 体		1,028 100.0	449 43.7	467 45.4	324 31.5	224 21.8	191 18.6	274 26.7	159 15.5	29 2.8	81 7.9	24 2.3
飼 っ て い る ペ ッ ト の 種 類	犬（オス）	68 100.0	31 45.6	39 57.4	21 30.9	17 25.0	14 20.6	12 17.6	10 14.7	2 2.9	3 4.4	4 5.9
	犬（メス）	50 100.0	29 58.0	33 66.0	13 26.0	14 28.0	14 28.0	10 20.0	4 8.0	1 2.0	- -	2 4.0
	猫（オス）	34 100.0	22 64.7	21 61.8	5 14.7	9 26.5	12 35.3	4 11.8	8 23.5	- -	1 2.9	- -
	猫（メス）	59 100.0	40 67.8	38 64.4	8 13.6	13 22.0	16 27.1	11 18.6	10 16.9	1 1.7	1 1.7	1 1.7
	鳥類	22 100.0	8 36.4	11 50.0	9 40.9	2 9.1	5 22.7	6 27.3	2 9.1	- -	1 4.5	1 4.5
	は虫類	18 100.0	9 50.0	9 50.0	4 22.2	8 44.4	2 11.1	5 27.8	- -	- -	2 11.1	1 5.6
	その他	48 100.0	25 52.1	19 39.6	13 27.1	11 22.9	9 18.8	16 33.3	6 12.5	4 8.3	2 4.2	1 2.1
	いずれも飼っていない	742 100.0	304 41.0	311 41.9	249 33.6	164 22.1	128 17.3	217 29.2	111 15.0	19 2.6	69 9.3	14 1.9
	無 回 答	46 100.0	13 28.3	16 34.8	14 30.4	4 8.7	13 28.3	5 10.9	16 34.8	2 4.3	4 8.7	2 4.3

表 3-4-13 野良猫等による問題を解決するため有効と思う市の施策（野良猫や近所の猫で困ったこと別）

		問 2 9 野良猫問題をなくすための市の施策で有効だと思うもの											
		全 体	地域 猫活動の 推進	術野 良猫への 支援	に野 良猫への 給餌行為	野良 猫の 引き取り	化だ け（屋外 で飼育） の義務内	飼等 猫をの市 に登録する 在飼	地い 猫の所有者 登録や所在 飼	術飼 の義務化 の不妊去勢 手	その他	わ か ら な い	無 回 答
全 体		1,028 100.0	449 43.7	467 45.4	324 31.5	224 21.8	191 18.6	274 26.7	159 15.5	29 2.8	81 7.9	24 2.3	
困ったこと	野良猫や近所の猫で	ある	488 100.0	194 39.8	218 44.7	196 40.2	113 23.2	119 24.4	144 29.5	71 14.5	10 2.0	27 5.5	7 1.4
		ない	514 100.0	251 48.8	240 46.7	124 24.1	111 21.6	64 12.5	127 24.7	83 16.1	19 3.7	53 10.3	7 1.4
		無 回 答	26 100.0	4 15.4	9 34.6	4 15.4	－	8 30.8	3 11.5	5 19.2	－	1 3.8	10 38.5

5. 地域猫活動について

(1) 地域猫活動の認知状況

問 30 【全員】 あなたは、地域猫活動を知っていましたか。(○は1つだけ)

地域猫活動の認知状況をみると、「知っており、内容も理解していた」(14.7%)、「聞いたことはあったが、内容は知らなかった」(20.8%)を合わせた『認知率』は3割半ばにとどまっている。一方、「知らなかった」が61.5%を占めている。

時系列でみると、前回調査より『認知率』は12.6ポイント増加している。

飼っているペットの種類別にみると、サンプル数が少ないため傾向値ではあるが、猫(オス・メス)において「知っており、内容も理解していた」と回答する人の割合が5割を超えている。

野良猫や近所の猫で困ったこと別にみると、大きな差はみられない。

図 3-5-1 地域猫活動の認知状況(単数回答)

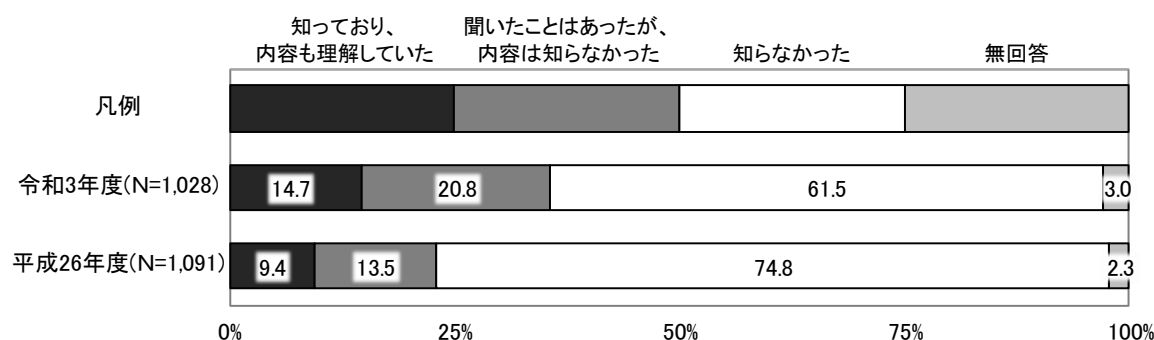


表 3-5-1 地域猫活動の認知状況（飼っているペットの種類別）

		問 3 0 地域猫活動の既知				
		全 体	理 知 解 っ て お り た 内 容 も	か が 聞 っ た 内 容 は 知 ら な か っ た	知 ら な か っ た	無 回 答
全 体		1,028 100.0	151 14.7	214 20.8	632 61.5	31 3.0
飼 っ て い る ペ ツ ト の 種 類	犬（オス）	68 100.0	17 25.0	14 20.6	32 47.1	5 7.4
	犬（メス）	50 100.0	10 20.0	19 38.0	20 40.0	1 2.0
	猫（オス）	34 100.0	17 50.0	8 23.5	8 23.5	1 2.9
	猫（メス）	59 100.0	30 50.8	13 22.0	15 25.4	1 1.7
	鳥類	22 100.0	5 22.7	4 18.2	12 54.5	1 4.5
	は虫類	18 100.0	6 33.3	4 22.2	8 44.4	－ －
	その他	48 100.0	10 20.8	10 20.8	24 50.0	4 8.3
	いずれも飼っていない	742 100.0	76 10.2	142 19.1	507 68.3	17 2.3
	無 回 答	46 100.0	5 10.9	13 28.3	23 50.0	5 10.9

表 3-5-2 地域猫活動の認知状況（野良猫や近所の猫で困ったこと別）

		問 3 0 地域猫活動の既知				
		全 体	理 知 解 っ て お り、 内 容 も	か が 聞 っ た 内 容 は 知 ら な か つ た	知 ら な か つ た	無 回 答
全 体		1,028 100.0	151 14.7	214 20.8	632 61.5	31 3.0
困ったこと 野良猫や近 所の猫で	ある	488 100.0	76 15.6	96 19.7	305 62.5	11 2.3
	ない	514 100.0	72 14.0	116 22.6	314 61.1	12 2.3
	無 回 答	26 100.0	3 11.5	2 7.7	13 50.0	8 30.8

性別にみると、女性が男性に比べ『認知率』が高くなっている。

年齢別にみると、年齢が低くなるほどに「知らなかった」と回答する人が多くなっている。

居住地区別にみると、南区、城南区で『認知率』がやや高くなっており、逆に博多区、西区は『認知率』がやや低い。

表 3-5-3 地域猫活動の認知状況（性別、年齢別、居住地区別）

		(単位: %)				
		調査数	知っている おり、内容も 理解	聞いたことは あったが、 内容は知らない	知らなかった	無回答
全 体		1,028 100.0	151 14.7	214 20.8	632 61.5	31 3.0
性別	男性	395	11.6	19.0	67.3	2.0
	女性	626	16.8	21.9	58.0	3.4
	無回答	7	-	28.6	42.9	28.6
年齢別	20代	81	11.1	21.0	67.9	-
	30代	146	15.8	17.1	65.1	2.1
	40代	198	16.2	18.2	63.6	2.0
	50代	174	17.8	27.0	54.6	0.6
	60歳以上	423	13.0	20.8	61.0	5.2
	無回答	6	16.7	16.7	50.0	16.7
居住地区別	東区	216	14.8	22.7	60.6	1.9
	博多区	162	9.9	21.6	64.2	4.3
	中央区	114	13.2	21.1	63.2	2.6
	南区	186	18.3	21.0	58.1	2.7
	城南区	79	13.9	25.3	53.2	7.6
	早良区	126	19.0	15.9	63.5	1.6
	西区	140	13.6	17.9	66.4	2.1
	無回答	5	-	40.0	40.0	20.0

(2) 地域猫活動への参加意向

問 31 【全員】 あなたは地域猫活動に参加したいと思いますか。(○は1つだけ)

地域猫活動に対する参加意向をみると、「参加したい」は4.6%と低く、「地域で取り組むなら参加したい」(21.5%)を合わせた『参加意向あり』が2割半ばにとどまっている。一方、「できれば参加したくない」(24.1%)、「参加したくない」(45.8%)を合わせた『参加意向なし』は7割を占めている。

時系列でみると、前回調査より大きな差はみられない。

飼っているペットの種類別にみると、サンプル数が少ないため傾向値ではあるが、猫(オス・メス)において「参加したい」と「地域で取り組むなら参加したい」を合わせた『参加意向あり』が5割を超えている。

野良猫や近所の猫で困ったこと別にみると、大きな差はみられない。

図 3-5-2 地域猫活動への参加意向 (単数回答)

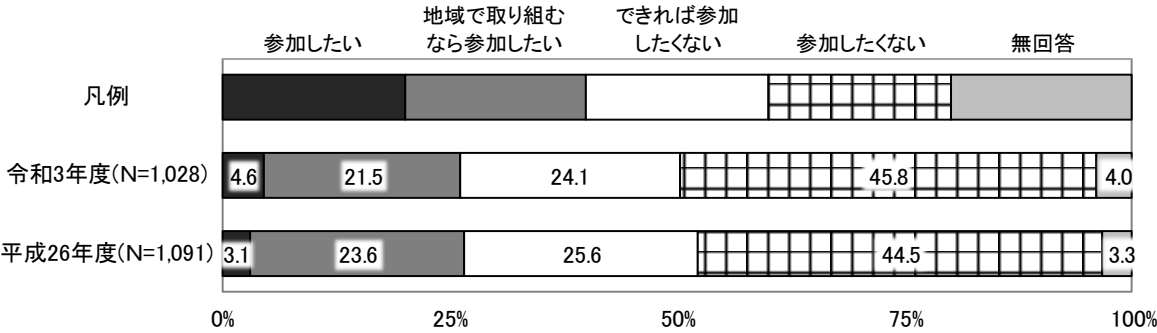


表 3-5-4 地域猫活動への参加意向（飼っているペットの種類別）

		問 3 1 地域猫活動に対する参加意思					
		全 体	参 加 し た い	参 加 地 域 で 取 り 組 む な ら	な で き れ ば 参 加 し た く	参 加 し た く な い	無 回 答
全 体		1,028 100.0	47 4.6	221 21.5	248 24.1	471 45.8	41 4.0
飼 っ て い る ペ ツ ト の 種 類	犬（オス）	68 100.0	2 2.9	11 16.2	19 27.9	30 44.1	6 8.8
	犬（メス）	50 100.0	2 4.0	17 34.0	15 30.0	15 30.0	1 2.0
	猫（オス）	34 100.0	11 32.4	7 20.6	7 20.6	7 20.6	2 5.9
	猫（メス）	59 100.0	15 25.4	21 35.6	12 20.3	10 16.9	1 1.7
	鳥類	22 100.0	2 9.1	3 13.6	4 18.2	12 54.5	1 4.5
	は虫類	18 100.0	－	8 44.4	4 22.2	6 33.3	－
	その他	48 100.0	－	10 20.8	15 31.3	18 37.5	5 10.4
	いずれも飼っていない	742 100.0	26 3.5	156 21.0	174 23.5	364 49.1	22 3.0
	無 回 答	46 100.0	2 4.3	4 8.7	11 23.9	21 45.7	8 17.4

表 3-5-5 地域猫活動への参加意向（野良猫や近所の猫で困ったこと別）

		問 3 1 地域猫活動に対する参加意思					
		全 体	参 加 し た い	参 加 地 域 で 取 り 組 む な ら	な で き れ ば 参 加 し た く	参 加 し た く な い	無 回 答
全 体		1,028 100.0	47 4.6	221 21.5	248 24.1	471 45.8	41 4.0
困 っ た こ と 野 良 猫 や 近 所 の 猫 で	ある	488 100.0	12 2.5	98 20.1	125 25.6	238 48.8	15 3.1
	ない	514 100.0	35 6.8	119 23.2	119 23.2	223 43.4	18 3.5
	無 回 答	26 100.0	－	4 15.4	4 15.4	10 38.5	8 30.8

性別にみると、男女とも全体結果とほぼ同様の傾向を示している。

年齢別にみると、年齢が低くなるほど『参加意向あり』は多くなる傾向にあり、20代では『参加意向あり』が4割を占める。

住宅の所有形式別にみると、公団・公社の賃貸住宅において『参加意向なし』が8割強を占めている。

居住地区別にみると、どの地区とも全体結果とほぼ同様の傾向を示しているが、『参加意向あり』が最も多いのは博多区、最も低いのは城南区となっている。

地域環境別にみると、緑が多い地域において『参加意向あり』がやや高くなっている。

表 3-5-6 地域猫活動への参加意向
(性別、年齢別、住宅の所有形式別、居住地区別、地域環境別)

		(単位: %)				
		調査数	参加したい	参加地域で取り組むなら	できないば参加したくない	参加したくない
全 体		1,028	47	221	248	471
		100.0	4.6	21.5	24.1	45.8
性別	男性	395	3.8	22.8	21.5	48.9
	女性	626	5.1	20.6	26.0	43.9
	無回答	7	-	28.6	-	42.9
						28.6
年齢別	20代	81	9.9	30.9	21.0	38.3
	30代	146	4.8	32.2	17.1	43.8
	40代	198	4.5	23.2	29.8	39.9
	50代	174	4.6	19.0	26.4	48.9
	60歳以上	423	3.3	16.1	23.9	49.6
	無回答	6	16.7	33.3	-	33.3
						16.7
住宅の所有形式別	持ち家(一戸建て)	357	5.0	22.4	25.5	43.1
	持ち家(マンションなどの共同住宅)	283	3.9	21.2	25.1	46.6
	市営住宅	29	6.9	17.2	6.9	62.1
	県営住宅	8	-	-	25.0	75.0
	公団・公社の賃貸住宅	28	3.6	10.7	35.7	46.4
	民間の借家(一戸建て)	10	-	20.0	20.0	50.0
	民間の借家(アパート・マンション)	266	5.3	22.9	22.6	46.2
	社宅・寮など(一戸建て)	3	-	33.3	-	66.7
	社宅・寮など(アパート・マンション)	24	4.2	20.8	25.0	41.7
	その他	14	-	14.3	28.6	42.9
	無回答	6	-	33.3	-	33.3
居住地区別	東区	216	3.2	20.8	28.7	42.6
	博多区	162	6.2	24.1	16.7	48.8
	中央区	114	3.5	22.8	22.8	46.5
	南区	186	6.5	22.0	26.3	41.4
	城南区	79	1.3	20.3	24.1	48.1
	早良区	126	7.1	15.9	22.2	53.2
	西区	140	2.9	23.6	25.7	45.0
	無回答	5	-	20.0	20.0	40.0
						20.0
地域環境別	住宅地(集合住宅が多い)	522	4.4	20.9	23.6	47.5
	住宅地(一戸建てが多い)	427	4.7	22.5	25.5	43.6
	商業地・繁華街	38	5.3	18.4	18.4	52.6
	工場や倉庫が多い地域	8	-	25.0	37.5	37.5
	緑が多い地域	24	8.3	20.8	25.0	41.7
	無回答	9	-	22.2	-	44.4
						33.3

(3) 自分の住む地域での地域猫活動実施について

①自分の住む地域での地域猫活動実施についての意見

問 32 【全員】あなたは、自分の住む地域において、野良猫の問題が起こったときの対策として、地域猫活動を行うことをどう思いますか。（○は1つだけ）

自分の住む地域での地域猫活動実施についての意見をみると、「賛成」(80.4%)が8割以上と「反対」(14.0%)を大きく上回っている。

時系列でみると、前回調査とほぼ同様の傾向を示している。

飼っているペットの種類別・野良猫や近所の猫で困ったこと別にみると、大きな差はみられない。

図 3-5-3 自分の住む地域での地域猫活動実施についての意見（単数回答）

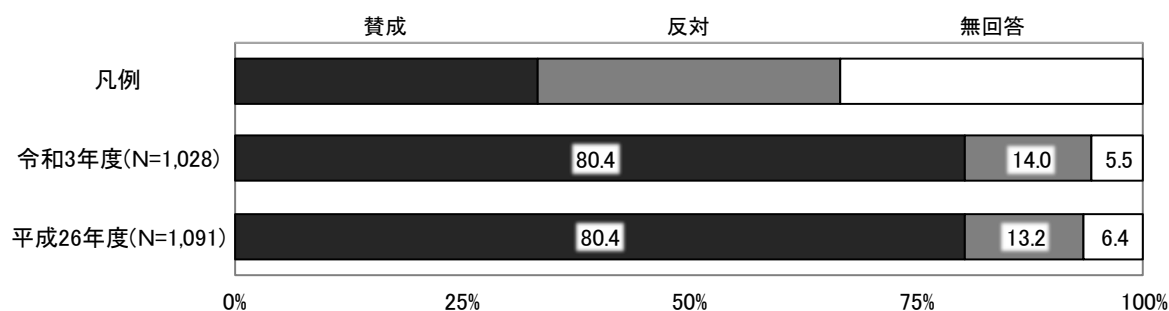


表 3-5-7 自分の住む地域での地域猫活動実施についての意見（飼っているペットの種類別）

		問 3 2 地域猫活動への賛否			
		全 体	賛 成	反 対	無 回 答
全 体		1,028 100.0	827 80.4	144 14.0	57 5.5
飼 っ て い る ペ ツ ト の 種 類	犬（オス）	68 100.0	51 75.0	8 11.8	9 13.2
	犬（メス）	50 100.0	44 88.0	2 4.0	4 8.0
	猫（オス）	34 100.0	31 91.2	2 5.9	1 2.9
	猫（メス）	59 100.0	52 88.1	6 10.2	1 1.7
	鳥類	22 100.0	17 77.3	4 18.2	1 4.5
	は虫類	18 100.0	14 77.8	3 16.7	1 5.6
	その他	48 100.0	38 79.2	7 14.6	3 6.3
	いずれも飼っていない	742 100.0	594 80.1	114 15.4	34 4.6
	無 回 答	46 100.0	34 73.9	5 10.9	7 15.2

表 3-5-8 自分の住む地域での地域猫活動実施についての意見（野良猫や近所の猫で困ったこと別）

		問 3 2 地域猫活動への賛否			
		全 体	賛 成	反 対	無 回 答
全 体		1,028 100.0	827 80.4	144 14.0	57 5.5
困ったこと	野良猫や近所の猫で ある	488 100.0	395 80.9	71 14.5	22 4.5
	ない	514 100.0	421 81.9	68 13.2	25 4.9
	無 回 答	26 100.0	11 42.3	5 19.2	10 38.5

性別にみると、男性は女性に比べ「賛成」と答える人が多くみられる。

年齢別にみると、いずれの年齢も「賛成」の割合が「反対」を大きく上回っているが、50代で「反対」の割合がやや高くなっている。

居住地区別にみると、「賛成」の割合が最も高いのは南区、最も低いのは城南区となっている。

地域環境別にみると、サンプル数が少ないため傾向値ではあるが、緑が多い地域において「賛成」と答える人が6割半ばと低くなっている。

表 3-5-9 自分の住む地域での地域猫活動実施についての意見
(性別、年齢別、居住地区別、地域環境別)

		(単位: %)			
		調査数	賛成	反対	無回答
全 体		1,028	827	144	57
		100.0	80.4	14.0	5.5
性別	男性	395	85.1	11.6	3.3
	女性	626	77.6	15.7	6.7
	無回答	7	71.4	-	28.6
年齢別	20代	81	82.7	16.0	1.2
	30代	146	84.2	13.0	2.7
	40代	198	85.4	12.1	2.5
	50代	174	78.7	19.5	1.7
	60歳以上	423	77.1	12.8	10.2
	無回答	6	83.3	-	16.7
居住地区別	東区	216	82.9	10.2	6.9
	博多区	162	79.6	15.4	4.9
	中央区	114	81.6	12.3	6.1
	南区	186	87.1	9.1	3.8
	城南区	79	69.6	21.5	8.9
	早良区	126	75.4	19.8	4.8
	西区	140	79.3	16.4	4.3
	無回答	5	60.0	20.0	20.0
地域環境別	住宅地(集合住宅が多い)	522	80.1	14.9	5.0
	住宅地(一戸建てが多い)	427	82.9	12.6	4.4
	商業地・繁華街	38	71.1	13.2	15.8
	工場や倉庫が多い地域	8	87.5	12.5	-
	緑が多い地域	24	66.7	16.7	16.7
	無回答	9	55.6	22.2	22.2

②地域猫活動実施に賛成の理由

問 32-1（問 32 で「1. 賛成」と回答された方のみお答え下さい。）地域猫活動に賛成の理由について、あてはまるものをいくつでもお答えください。（○はいくつでも）

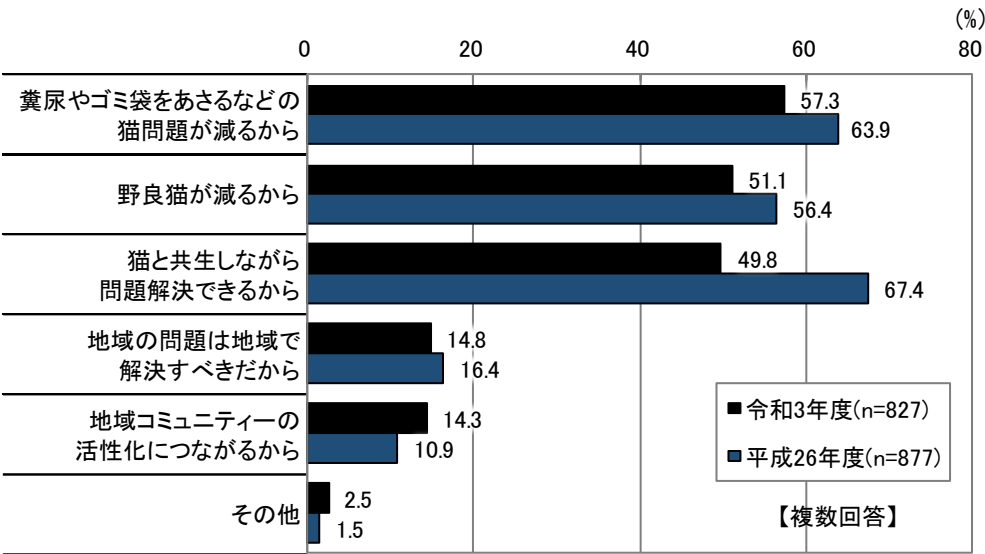
地域猫活動実施に賛成の理由を尋ねたところ、「糞尿やごみ袋をあさるなどの猫問題が減るから」（57.3%）、「野良猫が減るから」（51.1%）、「猫と共生しながら問題解決できるから」（49.8%）などの意見が上位にあがっている。

時系列でみると、前回調査よりほとんどの項目において減っており、特に「猫と共生しながら問題解決できるから」では 17.6 ポイント減少している。

飼っているペットの種類別にみると、サンプル数が少ないため傾向値ではあるが、猫（オス・メス）において「猫と共生しながら問題解決できるから」と回答する人が 8 割を超えている。

野良猫や近所の猫で困ったこと別にみると、困ったことがある層においては「糞尿やゴミ袋をあさるなどの猫問題が減るから」、困ったことがない層においては「猫と共生しながら問題解決できるから」と回答する人が最も多い。

図 3-5-4 地域猫活動実施に賛成の理由（複数回答）



注) 令和3年度の「猫と共生しながら問題解決できるから」は、平成26年度は「猫を殺さずに問題解決できるから」に該当

表 3-5-10 地域猫活動実施に賛成の理由（飼っているペットの種類別）

		問 3 2 . 1 地域猫活動に賛成の理由							
		全 体	野 良 猫 が 減 る か ら	る る 糞 尿 や ゴ ミ の 猫 問 題 を あ 減 さ	題 猫 と 共 生 し な か ら 問	解 地 域 の 問 題 は か 地 域 で	か の 地 域 性 コ ミ ユ ニ テ イ な る	そ の 他	無 回 答
全 体		827 100.0	423 51.1	474 57.3	412 49.8	122 14.8	118 14.3	21 2.5	2 0.2
飼 っ て い る ペ ツ ト の 種 類	犬（オス）	51 100.0	29 56.9	24 47.1	25 49.0	7 13.7	4 7.8	3 5.9	- -
	犬（メス）	44 100.0	20 45.5	20 45.5	24 54.5	3 6.8	7 15.9	3 6.8	- -
	猫（オス）	31 100.0	12 38.7	13 41.9	25 80.6	4 12.9	9 29.0	2 6.5	- -
	猫（メス）	52 100.0	15 28.8	22 42.3	43 82.7	6 11.5	11 21.2	3 5.8	- -
	鳥類	17 100.0	7 41.2	6 35.3	8 47.1	4 23.5	3 17.6	1 5.9	- -
	は虫類	14 100.0	5 35.7	7 50.0	7 50.0	4 28.6	2 14.3	- -	- -
	その他	38 100.0	13 34.2	18 47.4	23 60.5	6 15.8	6 15.8	1 2.6	- -
	いずれも飼っていない	594 100.0	321 54.0	360 60.6	279 47.0	90 15.2	83 14.0	11 1.9	1 0.2
	無 回 答	34 100.0	18 52.9	20 58.8	13 38.2	6 17.6	4 11.8	- -	1 2.9

表 3-5-11 地域猫活動実施に賛成の理由（野良猫や近所の猫で困ったこと別）

		問 3 2 . 1 地域猫活動に賛成の理由							
		全 体	野 良 猫 が 減 る か ら	る る 糞 尿 や ゴ ミ の 猫 問 題 を あ 減 さ	題 猫 と 共 生 し な か ら 問	解 地 域 の 問 題 は か 地 域 で	か の 地 域 性 コ ミ ユ ニ テ イ な る	そ の 他	無 回 答
全 体		827 100.0	423 51.1	474 57.3	412 49.8	122 14.8	118 14.3	21 2.5	2 0.2
困 っ た こ と	ある	395 100.0	251 63.5	288 72.9	159 40.3	46 11.6	52 13.2	9 2.3	2 0.5
	ない	421 100.0	167 39.7	179 42.5	248 58.9	74 17.6	64 15.2	12 2.9	- -
	無 回 答	11 100.0	5 45.5	7 63.6	5 45.5	2 18.2	2 18.2	- -	- -

性別にみると、女性は男性に比べ「猫と共生しながら問題解決できるから」と答える人が多く、男性は「野良猫が減るから」と回答する割合が高くなっている。

年齢別にみると、60歳以上では「糞尿やごみ袋をあさるなどの猫問題が減るから」・「野良猫が減るから」、30代・40代では「猫と共生しながら問題解決できるから」と答える人が多くみられる。

居住地区別にみると、早良区において「糞尿やごみ袋をあさるなどの猫問題が減るから」と答える人が多い。

地域環境別にみると、サンプル数が少ないため傾向値ではあるが、工場や倉庫が多い地域において「糞尿やごみ袋をあさるなどの猫問題が減るから」・「野良猫が減るから」・「地域コミュニティの活性化につながるから」と答える人が多くみられる。

表 3-5-12 地域猫活動実施に賛成の理由（性別、年齢別、居住地区別、地域環境別）

(単位: %)

		調査数	ど糞尿やごみ袋をあさるから猫問題が減るから	野良猫が減るから	猫と共生しながら問題解決できるから	すべきだ問題は地域で解決	地域コミュニティの活性化につながるから	その他	無回答
全 体		827 100.0	474 57.3	423 51.1	412 49.8	122 14.8	118 14.3	21 2.5	2 0.2
性別	男性	336	58.0	55.4	44.6	17.0	14.3	2.4	-
	女性	486	56.8	48.4	53.5	13.2	13.8	2.7	0.4
	無回答	5	60.0	40.0	40.0	20.0	60.0	-	-
年齢別	20代	67	50.7	43.3	50.7	16.4	11.9	6.0	-
	30代	123	58.5	43.1	59.3	10.6	11.4	2.4	-
	40代	169	55.0	42.6	59.2	18.3	16.6	2.4	-
	50代	137	49.6	49.6	52.6	11.7	11.7	2.2	-
	60歳以上	326	63.2	61.7	39.6	15.3	15.6	2.1	0.6
	無回答	5	20.0	-	80.0	20.0	20.0	-	-
居住地区別	東区	179	59.8	51.4	48.0	15.1	15.1	3.9	0.6
	博多区	129	50.4	60.5	44.2	19.4	17.1	1.6	-
	中央区	93	41.9	49.5	59.1	15.1	12.9	4.3	-
	南区	162	57.4	46.9	56.8	9.3	12.3	1.9	-
	城南区	55	60.0	50.9	47.3	14.5	12.7	1.8	-
	早良区	95	73.7	48.4	45.3	15.8	13.7	2.1	-
	西区	111	59.5	50.5	45.0	14.4	14.4	1.8	0.9
	無回答	3	33.3	33.3	100.0	66.7	33.3	-	-
地域環境別	住宅地(集合住宅が多い)	418	55.3	50.0	53.1	15.3	15.8	2.2	-
	住宅地(一戸建てが多い)	354	60.2	50.0	46.0	13.8	11.9	2.8	0.6
	商業地・繁華街	27	55.6	74.1	48.1	14.8	14.8	-	-
	工場や倉庫が多い地域	7	71.4	85.7	42.9	-	42.9	-	-
	緑が多い地域	16	56.3	62.5	50.0	25.0	12.5	6.3	-
	無回答	5	20.0	20.0	60.0	20.0	20.0	20.0	-

③地域猫活動実施に反対の理由

問 32-2（問 33 で「2. 反対」と回答された方のみお答え下さい。）地域猫活動に反対の理由について、あてはまるものをいくつでもお答えください。（○はいくつでも）

地域猫活動実施に反対の理由を尋ねたところ、「捨て猫が増えるから」（38.2%）が最も多く、以下、「野良猫が減らないから」（31.3%）、「時間や労力がかかるから」・「地域住民の対立が生じるから」（各々29.2%）、「地域で取り組むべき問題ではないから」（27.1%）、「野良猫を不妊去勢するのはかわいそうだから」（8.3%）などと続いている。

時系列でみると、前回調査より「捨て猫が増えるから」が15.3ポイント減少している。

飼っているペットの種類別にみると、サンプル数が少ないため傾向値ではあるが、犬（オス）において「地域住民の対立が生じるから」と回答する人が多い。

野良猫や近所の猫で困ったこと別にみると、大きな差はみられない。

図 3-5-5 地域猫活動実施に反対の理由（複数回答）

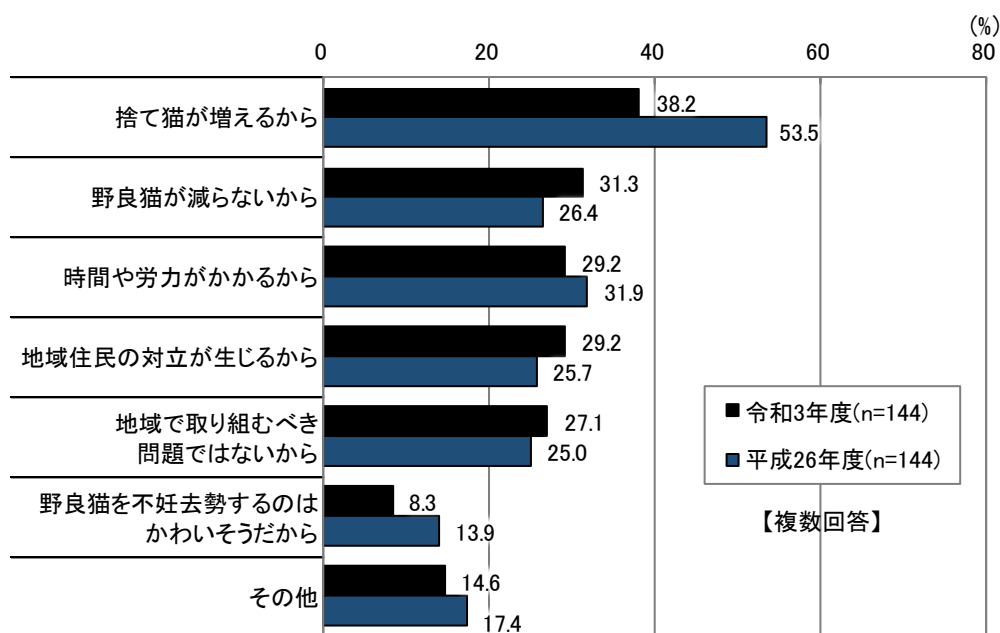


表 3-5-13 地域猫活動実施に反対の理由（飼っているペットの種類別）

		問 3 2 . 2 地域猫活動に反対の理由								
		全 体	ら 野 良 猫 が 減 ら ない か	捨 て 猫 が 増 え る か ら	か ら 野 良 猫 を 不 妊 去 勢 だ す	問 地 域 で は 取 り 組 む べ き	か 時 間 や 労 力 が か か る	じ 地 域 か 住 民 の 対 立 が 生	そ の 他	無 回 答
全 体		144 100.0	45 31.3	55 38.2	12 8.3	39 27.1	42 29.2	42 29.2	21 14.6	2 1.4
飼 っ て い る ペ ッ ト の 種 類	犬（オス）	8 100.0	6 75.0	6 75.0	- -	1 12.5	1 12.5	5 62.5	1 12.5	- -
	犬（メス）	2 100.0	2 100.0	2 100.0	- -	- -	- -	- -	- -	- -
	猫（オス）	2 100.0	1 50.0	2 100.0	- -	- -	1 50.0	- -	- -	- -
	猫（メス）	6 100.0	- -	2 33.3	1 16.7	- -	2 33.3	- -	3 50.0	- -
	鳥類	4 100.0	2 50.0	3 75.0	- -	- -	- -	1 25.0	2 50.0	- -
	は虫類	3 100.0	2 66.7	2 66.7	1 33.3	- -	1 33.3	1 33.3	1 33.3	- -
	その他	7 100.0	3 42.9	5 71.4	1 14.3	3 42.9	2 28.6	3 42.9	4 57.1	- -
	いずれも飼っていない	114 100.0	32 28.1	38 33.3	9 7.9	34 29.8	37 32.5	31 27.2	12 10.5	2 1.8
	無 回 答	5 100.0	2 40.0	2 40.0	- -	1 20.0	1 20.0	2 40.0	- -	- -

表 3-5-14 地域猫活動実施に反対の理由（野良猫や近所の猫で困ったこと別）

		問 3 2 . 2 地域猫活動に反対の理由									
		全 体	ら野 良 猫 が 減 ら な い か	捨 て 猫 が 増 え る か ら	か る の 野 良 猫 を 不 妊 去 勢 だ す	問 地 域 で は 取 り 組 む べ き	か 時 間 や 労 力 が か か る	じ 地 域 か 住 民 の 対 立 が 生	そ の 他	無 回 答	
全 体		144 100.0	45 31.3	55 38.2	12 8.3	39 27.1	42 29.2	42 29.2	21 14.6	2 1.4	
困 っ た こ と	野 良 猫 や 近 所 の 猫 で	ある	71 100.0	27 38.0	29 40.8	7 9.9	22 31.0	22 31.0	12 16.9	1 1.4	
		ない	68 100.0	16 23.5	23 33.8	5 7.4	17 25.0	18 26.5	20 29.4	9 13.2	1 1.5
		無 回 答	5 100.0	2 40.0	3 60.0	- -	- -	2 40.0	2 40.0	- -	- -

6. 犬や猫の多頭飼育について

(1) 近隣での犬や猫の多頭飼育による被害経験

問 33 【全員】 近隣での犬や猫の多頭飼育が原因で困った経験はありますか。(○は1 つだけ)

近隣での犬や猫の多頭飼育による被害経験をみると、「いいえ」が 90.1%と大多数を占めており、「はい」(5.0%) は 1 割にも満たない。

時系列でみると、前回調査よりやや被害経験が低くなっている。

飼っているペットの種類別にみると、大きな差はみられない。

図 3-6-1 近隣での犬や猫の多頭飼育による被害経験（単数回答）

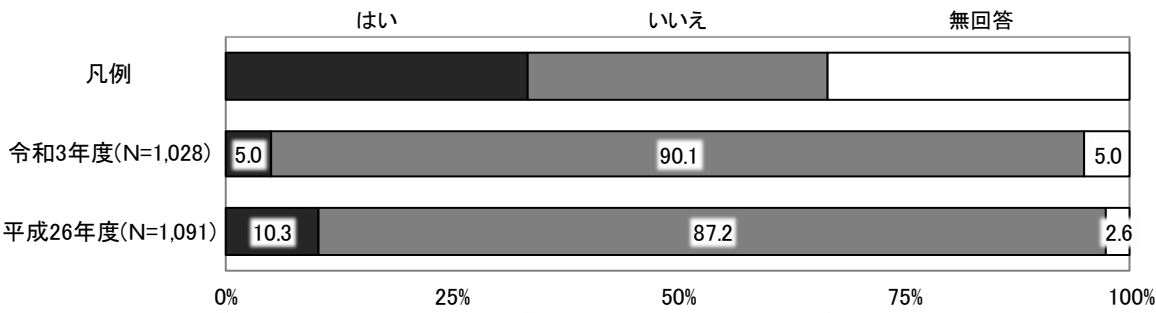


表 3-6-1 近隣での犬や猫の多頭飼育による被害経験（飼っているペットの種類別）

		問 3 3 近隣の犬や猫の多頭飼育問題が原因で困った			
		全 体	は い	い い え	無 回 答
全 体		1, 028 100. 0	51 5. 0	926 90. 1	51 5. 0
飼 っ て い る ペ ツ ト の 種 類	犬（オス）	68 100. 0	2 2. 9	62 91. 2	4 5. 9
	犬（メス）	50 100. 0	1 2. 0	49 98. 0	－
	猫（オス）	34 100. 0	1 2. 9	33 97. 1	－
	猫（メス）	59 100. 0	1 1. 7	58 98. 3	－
	鳥類	22 100. 0	2 9. 1	20 90. 9	－
	は虫類	18 100. 0	1 5. 6	17 94. 4	－
	その他	48 100. 0	2 4. 2	43 89. 6	3 6. 3
	いずれも飼っていない	742 100. 0	38 5. 1	667 89. 9	37 5. 0
	無 回 答	46 100. 0	5 10. 9	34 73. 9	7 15. 2

居住地区別にみると、東区において「はい」と答えた割合がやや低くなっている。

地域環境別にみると、サンプル数が少ないため傾向値ではあるが、工場や倉庫が多い地域「はい」と答える人が多くみられる。

表 3-6-2 近隣での犬や猫の多頭飼育による被害経験（居住地区別、地域環境別）

		(単位: %)			
		サ ン プ ル 数	は い	い い え	無 回 答
全 体		1,028 100.0	51 5.0	926 90.1	51 5.0
居 住 地 区 別	東区	216	2.8	92.6	4.6
	博多区	162	6.2	89.5	4.3
	中央区	114	3.5	93.0	3.5
	南区	186	4.3	90.9	4.8
	城南区	79	6.3	86.1	7.6
	早良区	126	7.1	86.5	6.3
	西区	140	6.4	89.3	4.3
	無回答	5	-	80.0	20.0
地 域 環 境 別	住宅地(集合住宅が多い)	522	3.3	92.7	4.0
	住宅地(一戸建てが多い)	427	7.0	87.6	5.4
	商業地・繁華街	38	5.3	86.8	7.9
	工場や倉庫が多い地域	8	12.5	87.5	-
	緑が多い地域	24	4.2	87.5	8.3
	無回答	9	-	77.8	22.2

(2) 多頭飼育問題解決のため有効と思う市の支援

問 34 【全員】多頭飼育問題を解決するための市の支援として何が有効だと思いますか。
(○はいくつでも)

多頭飼育問題を解決するための市の支援として何が有効か尋ねたところ、「多頭飼育の飼い主への指導」(66.0%) が最も多く、次いで「飼い主への不妊去勢手術の啓発」(39.4%)、「飼い主への不妊去勢手術の助成」(35.2%)、「増えすぎた犬猫の引取り」(25.5%)と続いている。

飼っているペットの種類別にみると、サンプル数が少ないため傾向値ではあるが、猫(オス)において「飼い主への不妊去勢手術の啓発」の割合がやや高くなっている。

図 3-6-2 多頭飼育問題解決のため有効と思う市の支援(複数回答)

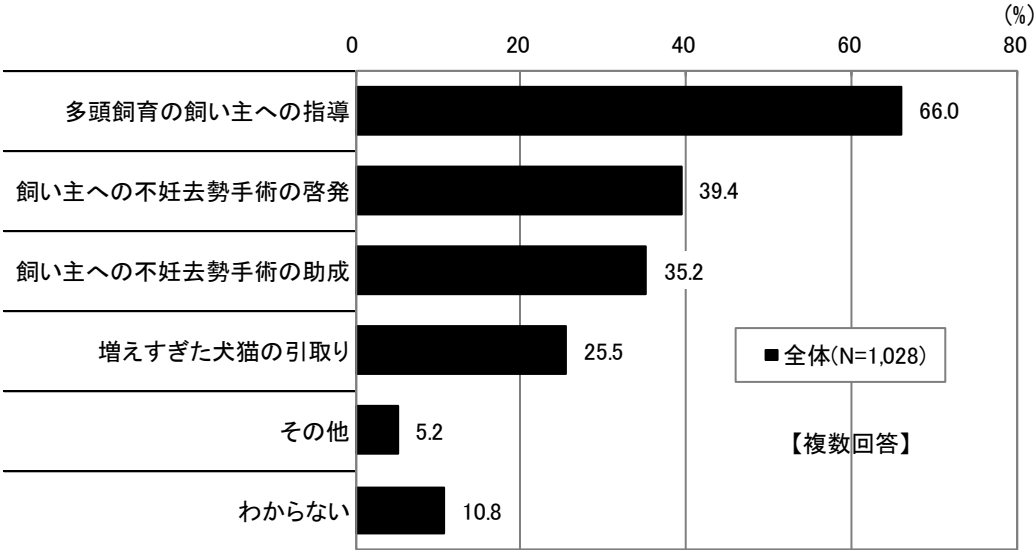


表 3-6-3 多頭飼育問題解決のため有効と思う市の支援(飼っているペットの種類別)

		問 3 4 多頭飼育問題を解決するための市の支援で有効と思うもの							
		全 体	手 術 の 主 へ の 不 妊 去 勢	手 術 の 主 助 成 の 不 妊 去 勢	取 増 え す ぎ た 犬 猫 の 引	の 多 指 頭 導 飼 育 の 飼 い 主 へ	そ の 他	わ か ら な い	無 回 答
全 体		1,028	405	362	262	678	53	111	55
		100.0	39.4	35.2	25.5	66.0	5.2	10.8	5.4
飼 っ て い る ペ ッ ト の 種 類	犬 (オス)	68	22	25	13	45	4	7	5
		100.0	32.4	36.8	19.1	66.2	5.9	10.3	7.4
	犬 (メス)	50	18	21	14	30	1	6	2
		100.0	36.0	42.0	28.0	60.0	2.0	12.0	4.0
	猫 (オス)	34	19	22	11	26	6	1	1
		100.0	55.9	64.7	32.4	76.5	17.6	2.9	2.9
	猫 (メス)	59	27	40	15	44	6	-	2
		100.0	45.8	67.8	25.4	74.6	10.2	-	3.4
	鳥類	22	8	7	6	15	1	3	-
		100.0	36.4	31.8	27.3	68.2	4.5	13.6	-
	は虫類	18	7	8	10	13	1	2	2
		100.0	38.9	44.4	55.6	72.2	5.6	11.1	11.1
	その他	48	18	12	16	36	6	2	3
		100.0	37.5	25.0	33.3	75.0	12.5	4.2	6.3
	いずれも飼っていない	742	292	253	189	486	36	87	35
		100.0	39.4	34.1	25.5	65.5	4.9	11.7	4.7
	無 回 答	46	18	8	6	24	1	5	7
		100.0	39.1	17.4	13.0	52.2	2.2	10.9	15.2

(3) 多頭飼育の届出制度の認知状況

問 35 【全員】 福岡市では犬猫の多頭飼育（犬5頭以上，猫10頭以上）の届出制度を定めていることを知っていましたか。（○は1つだけ）

多頭飼育の届出制度の認知状況をみると、「知らなかった」が95.0%と大多数を占めており、「知っていた」（1.6%）は1割にも満たない。

飼っているペットの種類別にみると、サンプル数が少ないため傾向値ではあるが、猫（オス）において「知っていた」の割合がやや高くなっている。

図 3-6-3 多頭飼育の届出制度の認知状況（単数回答）

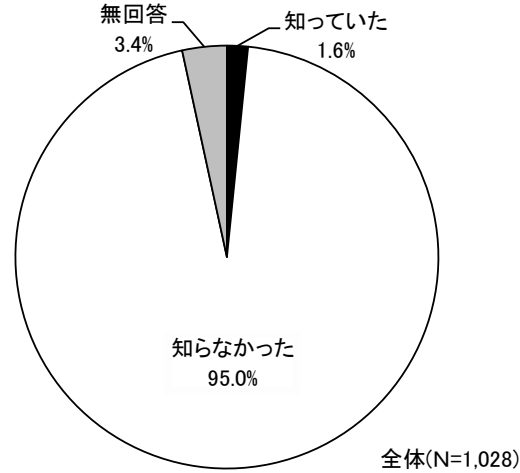


表 3-6-4 多頭飼育の届出制度の認知状況（飼っているペットの種類別）

		問 3 5 福岡市が多頭飼育届出制度を定めている事の既知			
		全 体	知 っ て い た	知 ら な か っ た	無 回 答
全 体		1,028 100.0	16 1.6	977 95.0	35 3.4
飼 っ て い る ペ ッ ト の 種 類	犬（オス）	68 100.0	2 2.9	62 91.2	4 5.9
	犬（メス）	50 100.0	1 2.0	48 96.0	1 2.0
	猫（オス）	34 100.0	4 11.8	30 88.2	—
	猫（メス）	59 100.0	3 5.1	56 94.9	—
	鳥類	22 100.0	—	22 100.0	—
	は虫類	18 100.0	—	18 100.0	—
	その他	48 100.0	2 4.2	44 91.7	2 4.2
	いずれも飼っていない	742 100.0	8 1.1	711 95.8	23 3.1
	無 回 答	46 100.0	1 2.2	40 87.0	5 10.9

7. 調査結果のまとめ

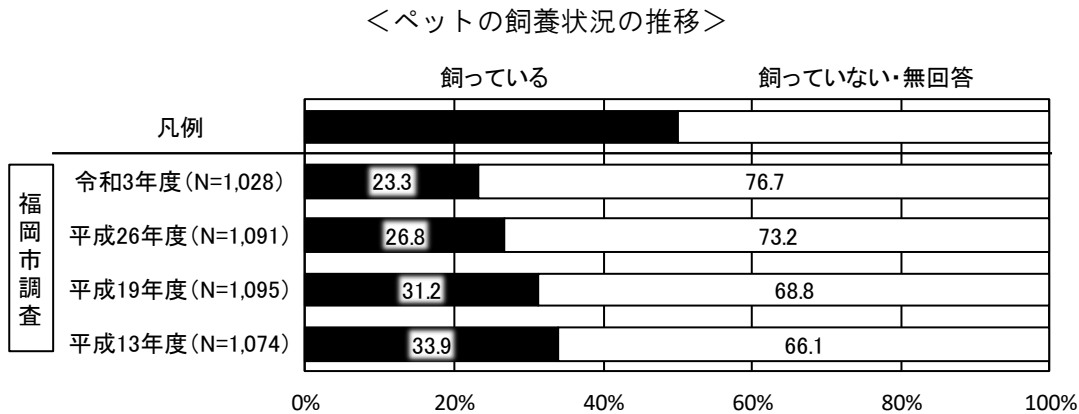
本市では、平成7年度より「ペットに関する市民意識調査」を実施し、今回の調査で5回目となる。
現在、全国的にペットに関する社会問題等が顕在化している中、ここからは、今回調査した設問項目のうち主な項目をいくつか選んで、調査結果のまとめを行う。

(1) ペットの飼養状況

本市におけるペットに飼養状況を見ると、「飼っている」が23.3%と過去の調査結果に比べ減少傾向を示している。

また、ペットの種類別飼養状況を見ると、「猫」(7.0%)、「鳥類」(2.1%)が微増となっているものの、「犬」(10.8%)、「は虫類」(1.8%)において、飼養率は減少している。

なお、本市における飼っている「犬」、「猫」の頭数をみると、「犬」は1.26頭と過去の調査結果とあまり差はないが、「猫」は2.03頭で前回調査よりは減少しているものの、平成19年度調査の調査結果からは大きく増えている。



犬猫を飼いはじめる際の入手先をみると、本市においては「ペットショップ」(51.6%)が最も多いのに対し、「動物愛護管理センター」(26.8%)、「動物愛護団体」(13.7%)となっている。時系列にみると前回調査に比べて「ペットショップ」の割合が減少し、「動物愛護管理センター」・「動物愛護団体」の割合が増加している。

(2) 犬、猫を飼養する側の配慮

犬を飼養する人の配慮をみると、「かかりつけの病院が1つ以上ある」(94.6%)、「屋内で飼育している」(87.4%)、「福岡市への登録をしている」(84.7%)、「狂犬病の予防注射を毎年受けている」(76.6%)、「去勢や不妊手術を受けた」(69.4%)となっている。現状の課題として、福岡市への登録義務、狂犬病予防注射の実施義務、鑑札の装着義務を知らないために出来ていない飼養者がいるため、周知・指導を徹底する必要がある。

また、猫を飼養する人の配慮をみると、「去勢や不妊手術を受けた」(91.7%)、「かかりつけの病院が1つ以上ある」(91.7%)となっている。しかし、「屋外には一切出さず、屋内のみ飼っている」(75.0%)など、猫の飼い方に注意しているものの「迷子札などを付けていない」が44.4%という状況となっている。

なお、犬、猫への「去勢や不妊手術」は前回調査に比べて実施率が高くなっている。

(3) 犬、猫による被害と対応

犬、猫による被害の状況みると、「他人が飼っている犬や野良犬で困ったことがある」という人は37.9%、「野良猫や近所の猫で困ったことがある」という人は47.5%と、犬は4割弱、猫はほぼ半数の人が困った経験をしており、困った内容で最も多いのは、犬、猫ともに「糞・尿」となっている。

これらの困ったことに対する対処の方法をみても、「飼い主に注意した」という人は、犬では15.1%、猫では2.5%と飼い主に直接伝える人は少なく、特に猫の場合は大半が「我慢した」と回答している。

本市が行う施策として野良猫の問題に有効と思うものを訪ねたところ、「野良猫の不妊去勢手術への支援」、「地域猫活動の推進」、「野良猫への給餌行為に対する規制」が上位となっている。また、近隣での犬や猫の多頭飼育による被害経験は5%と1割未満にとどまっているが、多頭飼育問題を解決するための市の支援として、「多頭飼育の飼い主への指導」(66.0%)、「飼い主への不妊去勢手術の啓発」(39.4%)、「飼い主への不妊去勢手術の助成」(35.2%)の項目が高くなっており、飼い主への積極的な対応が求められる。

(4) 地域猫活動について

「地域猫活動」についてみると、「知っており、内容も理解していた」が14.7%と低く、「聞いたことはあったが、内容は知らなかった」(20.8%)を合わせた認知率全体でみても3割半ばにとどまっている。

しかし、自分の住む地域での地域猫活動の実施については、「賛成」(80.4%)が「反対」(14.0%)を大きく上回っているものの、参加意向ありは2割半ばにとどまっているため、地域猫活動の周知・広報に努め、野良猫問題への対策を推進する必要がある。

<主要項目結果一覧表>

(単位: %)

項目		対象	福岡市				
			H7	H13	H19	H26	R3
問8	災害により避難する場合、飼っている動物と一緒に避難する同行避難が原則となっていることを知っている人の割合	犬または猫飼養者				17.0	32.6
問14	犬の去勢や不妊手術を受けたと答えた人の割合	犬飼養者	22.7	36.0	38.0	43.8	69.4
問15	犬のかかりつけ動物病院があると答えた人の割合(1つある+複数ある)	〃			94.2	95.6	94.6
問16	犬を福岡市へ登録していると答えた人の割合(登録している+登録していない犬もいる)	〃	84.0	79.3	84.3	82.5	84.7
問16-3	犬を福岡市へ登録している(登録している+登録していない犬もいる)人のうち、鑑札を装着していると答えた人の割合	〃			26.4	18.6	29.8
問16-5	犬を福岡市へ登録している(登録している+登録していない犬もいる)人のうち、鑑札の装着が法律で義務付けられていることを知っていたと答えた人の割合 ※4	〃			59.0	65.5	21.5
問17	狂犬病予防注射を受けていると答えた人の割合(毎年受けている+受けないことがある)	〃		90.7	83.7	87.7	86.5
問17-5	狂犬病予防注射を受けている(毎年受けている+受けないことがある)人のうち、狂犬病予防注射済票を装着していると答えた人の割合	〃			16.0	19.7	14.6
問17-7	狂犬病予防注射を受けている(毎年受けている+受けないことがある)人のうち、注射済票の装着が法律で義務付けられていることを知っていたと答えた人の割合 ※5	〃			43.3	63.9	18.8
問21	猫の去勢や不妊手術を受けたと答えた人の割合	猫飼養者	73.5	74.1	87.9	81.0	91.7
問22	猫のかかりつけ動物病院があると答えた人の割合(1つある+複数ある)	〃				79.3	91.7
問23	猫に迷子札などをつけていると答えた人の割合	〃			50.0	31.1	52.8
問24	猫を屋外には一切出さず、屋内でのみ飼っていると答えた人の割合	〃		55.3	65.2	63.8	75.0
問26	他人が飼っている犬や野良犬で困ったことがあると答えた人の割合	全員				49.6	37.9
問27	野良猫や近所の猫で困ったことがあると答えた人の割合	〃		75.5	58.9	55.4	47.5
問30	地域猫活動を知っていたと答えた人の割合(知っており、内容も理解していた+聞いたことはあったが、内容は知らなかった)	〃				22.9	35.5
問31	地域猫活動に参加したいと答えた人の割合(参加したい+地域で取り組むなら参加する)	〃				26.7	26.1
問32	自分の住む地域で地域猫活動を行うことに賛成と答えた人の割合	〃				80.4	80.4
問33	近隣での犬や猫の多頭飼育による被害率	〃				10.3	5.0
問35	福岡市では犬猫の多頭飼育の届出制度を定めていることを知っていたと答えた人の割合	〃					1.6

※1)「すべての犬に手術をしている」+「一部の犬に手術をしている」の計

※2)「すべての猫に手術をしている」+「一部の猫に手術をしている」の計

※3)「すべての猫に明示している」+「一部の猫に明示している」の計

※4) 令和3年度では鑑札を装着していない+装着していない犬がいる人のうち、鑑札の装着が法律で義務付けられていることを知っていたと答えた人の割合

※5) 令和3年度では注射済票を装着していない人のうち、注射済票の装着が法律で義務付けられていることを知っていたと答えた人の割合

使用した調査票と全体結果

ペットに関する市民意識調査

調査ご協力をお願い

この調査は、犬、猫など、市民の皆さんが自宅で飼う動物、いわゆる「ペット」に関する考え方をお伺いし、今後の動物行政を推進するための基礎資料を得ることを目的としています。

あなたをこの調査の対象とさせていただきましたのは、住民基本台帳からの無作為抽出によるものです。調査は匿名で行い、ご回答いただいた内容など、個人の秘密の保持には十分配慮し調査を進めます。

お忙しい折とは存じますが、調査の趣旨をご理解の上、ご協力をよろしくお願いいたします。

令和3年5月

福岡市長 高島 宗一郎

ご記入に際してのお願い

1. この調査票は、封筒のあて名の方が記入するようお願いいたします。対象者の方が記入困難な場合は、家族の方などが代理で記入して下さい。
2. 回答は、あてはまる項目の番号を○印で囲んで下さい。
3. 質問の順番については、各ページの **白抜き文字** をご確認ください。また、回答内容により回答者が限定される場合がありますので、各質問のカッコ書きや矢印（→）にご注意下さい。
4. 質問の中には、具体的な数や内容を答えてもらうものもあります。その際には（ ）内に直接数字などを記入して下さい。
5. 記入が終わりましたらお手数ですが、内容をご確認の上、同封の返信用封筒に入れて 5 月 31 日（月）までにご投函下さい。
6. この調査は、㈱サーベイリサーチセンターに委託して実施しております。
7. 記入に際しての不明な点、疑問の点がありましたら、下記担当課まで遠慮なくお問い合わせ下さい。

【お問い合わせ先】 ☎810-8620 福岡市中央区天神1丁目8番1号

福岡市保健福祉局生活衛生部 生活衛生課 担当：藤沢、小玉

（電話）092-711-4273 （FAX）092-733-5588

1

全員にお聞きします。

問1 あなた（回答者）のことについてお尋ねします。ア～クまでのそれぞれについて、1つずつ選んで下さい。（○はそれぞれ1つ）

ア 性別	1. 男性 38.4	2. 女性 60.9	無回答 0.7
イ 年齢	1. 20代 7.9	3. 40代 19.3	5. 60歳以上 41.1
	2. 30代 14.2	4. 50代 16.9	無回答 0.6
ウ 職業	1. 職業あり 53.5	3. 主婦 24.7	5. その他 2.5
	2. 学生 1.8	4. 無職 16.1	無回答 1.4
エ 家族構成	1. 単身世帯 20.0	4. 三世代以上の世帯 4.0	
	2. 夫婦のみの世帯 26.8	5. その他 1.8	
	3. 親と子供の世帯（二世代） 46.2	無回答 1.2	
オ 居住年数	1. 3年未満 16.3	4. 10～20年未満 20.3	
	2. 3～5年未満 6.2	5. 20～30年未満 15.3	
	3. 5～10年未満 17.0	6. 30年以上 19.8	無回答 5.0
カ 住宅の所有形式			
1. 持ち家（一戸建て）	34.7	6. 民間の借家（一戸建て）	1.0
2. 持ち家（マンションなどの共同住宅）	27.5	7. 民間の借家（アパート・マンション）	25.9
3. 市営住宅	2.8	8. 社宅・寮など（一戸建て）	0.3
4. 県営住宅	0.8	9. 社宅・寮など（アパート・マンション）	2.3
5. 公団・公社の賃貸住宅	2.7	10. その他	1.4
		無回答	0.6
キ お住まいの地域環境			
1. 住宅地（集合住宅が多い）	50.8	4. 工場や倉庫が多い地域	0.8
2. 住宅地（一戸建てが多い）	41.5	5. 緑が多い地域	2.3
3. 商業地・繁華街	3.7	無回答	0.9
ク お住まいの地域（行政区）			
1. 東区 21.0	3. 中央区 11.1	5. 城南区 7.7	7. 西区 13.6
2. 博多区 15.8	4. 南区 18.1	6. 早良区 12.3	無回答 0.5
郵便番号（封筒の宛名に記載）を			
記入して下さい。			
〒 81 -			

問2 あなたがもし犬猫を飼いはじめる場合、どこから入手しますか。(〇はいくつでも)

1. 動物愛護管理センター	26.8	→	問3へ
2. ペットショップ	51.6	}	→ 問2-1へ
3. ブリーダー（繁殖業者）	10.8		
4. 知人、近所の人	24.2		
5. 動物愛護団体	13.7		
6. その他	8.8		無回答 4.7

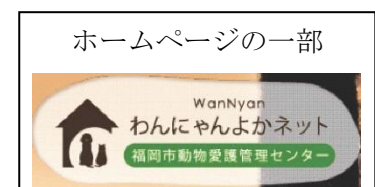
問2-1（問2で「1. 動物愛護管理センター」と回答されなかった方のみお答え下さい。）動物愛護管理センターを選ばなかった理由として、あてはまるものをいくつでも選んで下さい。

(〇はいくつでも)

1. 方法がわからないから	59.7	
2. 手続きが面倒だから	12.5	
3. ペットショップなどで買う方がいいから	7.4	
4. 他人が飼っていた犬猫は嫌だから	4.4	
5. 性格や健康状態がわからないから	21.4	
6. 血統書がないから	3.3	
7. どんな犬猫に育つか分からないから	6.5	
8. その他	14.0	無回答 11.3

問3 あなたは犬猫の譲渡情報等が掲載されている福岡市動物愛護管理センターのホームページ「わんにゃんよかネット」を見たことがありますか。

1. はい	13.0	2. いいえ	83.2	無回答	3.8
-------	------	--------	------	-----	-----



URL : <https://wannyan.city.fukuoka.lg.jp>

問4 あなたのご家庭では、何かペットを飼っていますか。飼っているものがあれば、いくつでも選び、合わせて飼っている動物の数（頭数、匹数、羽数）を記入して下さい。(〇はいくつでも、〇をつけた番号は数も記入)

1. 犬（オス）	6.6	(1.15 頭)	}	→ 問5へ
2. 犬（メス）	4.9	(1.24 頭)		
3. 猫（オス）	3.3	(1.65 頭)		
4. 猫（メス）	5.7	(1.55 頭)		
5. 鳥類	2.1	(1.27 羽)	}	→ 問26へ
6. は虫類	1.8	(3.11 匹)		
7. その他	4.7	(40.34 頭)		
8. いずれも飼っていない	72.2			無回答 4.5

2

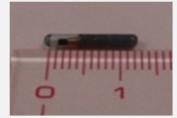
犬または猫を飼っている方（問4で「1. 」～「4. 」と回答された方）にお聞きします。 ※犬も猫も飼っていない方は 問 26（10 ページ）へお進みください。

問5 あなたはマイクロチップを知っていますか。

1. はい 79.7 2. いいえ 16.9 無回答 3.5

※マイクロチップとは（解説）

直径2mm、長さ12mm程度の円筒形のもので、主に動物の皮下に埋め込むことで、個体毎の番号を専用のリーダーで読み取ることができます。安全性が高く、飼い犬、飼い猫が迷子になってしまったときに、飼い主のもとへ戻るための手掛かりとして有効です。



問6 飼っている犬猫にマイクロチップを装着していますか。

1. はい 23.3 → 問7へ 2. いいえ 74.4 → 問6-1へ 無回答 2.3

問6-1（問6で「2. いいえ」と回答された方のみお答え下さい。）飼っている犬猫にマイクロチップを装着していない理由として、あてはまるものをいくつでも選んで下さい。（〇はいくつでも）

1. 知らなかったから 16.4 4. 皮下に埋め込むのがかわいそうだから 35.2
2. 迷子札をつけているので必要ないから 10.2 5. その他 44.5
3. お金がかかるから 18.0 無回答 0.8

問7 地震や風水害などで避難が必要となった場合、飼っている犬猫をどうしますか。（〇は1つだけ）

1. 避難先に一緒に連れて行く 82.0
2. 家に置いていく 5.2
3. その他 9.9 無回答 2.9

問8 災害により避難する場合、飼っている犬猫と一緒に避難する同行避難が原則となっていることを知っていましたか。（〇は1つだけ）

1. 知っていた 32.6 2. 知らなかった 65.1 無回答 2.3

※同行避難とは（解説）

災害発生時に飼い主がペットを連れて一緒に避難することで、避難所内の同じスペースで一緒に避難生活を送ることを意味するものではありません。

問9 災害が起きた場合に備え、飼っている犬猫のための防災対策をしていますか。あてはまるものをいくつでも選んで下さい。（〇はいくつでも）

1. エサやペットシートなどの備蓄 58.7 5. 避難場所や避難経路の確認 15.7
2. ケージやキャリーバッグの準備 59.9 6. 預け先を決めている 13.4
3. 人に迷惑をかけないようしつけ 20.9 7. 何もしていない 17.4
4. 迷子札やマイクロチップの装着 23.3 8. その他 2.9 無回答 2.9

問 10 飼っている犬猫を連れて避難所に避難したことがありますか。(○は1つだけ)

1. ある — → 問 10-1、問 10-2 へ

2. ない 97.7 → 問 11 へ

無回答 2.3

問 10-1 (問 10 で「1. ある」と回答された方のみお答え下さい。) 避難している間、飼っている犬猫はどこにいましたか。(○は1つだけ)

1. 屋内で飼い主と同じ部屋 —

4. 車の中 —

2. 屋内で飼い主とは違う部屋 —

5. その他 —

3. 屋外 —

問 10-2 (問 10 で「1. ある」と回答された方のみお答え下さい。) 避難している間、飼っている犬猫のことで困ったことはありますか。あてはまるものをいくつでも選んで下さい。(○はいくつでも)

1. 鳴き声や臭いで他の人に迷惑をかけた —

2. 飼っている犬猫の体調が悪くなった —

3. 同じ部屋で避難生活を送れなかった —

4. その他 —

犬を飼っている方（問4で「1. 」～「2. 」と回答された方）にお聞きします。 ※犬を飼っていない方は問 19（8 ページ）へお進みください。

問 11 犬はどこで飼育していますか。（〇は1つだけ）

1. 屋外 3.6 2. 屋内 87.4 3. 屋外と屋内の両方 5.4 無回答 3.6

問 12 犬を2頭以上飼育していますか。（〇は1つだけ）

1. はい 15.3 → 問 12-1へ 2. いいえ 78.4 → 問 13へ 無回答 6.3

問 12-1（問 12 で「1. はい」と回答された方のみお答え下さい。）犬を2頭以上飼育する理由として、あてはまるものをいくつでも選んで下さい。（〇はいくつでも）

1. 1頭だけだと犬がかわいそうだから	76.5
2. 里親になろうと思ったから	—
3. 2頭以上いた方が楽しそうだから	47.1
4. 子犬を産ませたいから	—
5. その他	29.4

問 13 犬が年に1、2回出産できて、1回の出産で2～8頭の子を産むことを知っていましたか。（〇は1つだけ）

1. 知っていた 72.1 2. 知らなかった 21.6 無回答 6.3

問 14 去勢や不妊手術を受けていますか。（〇は1つだけ）

1. 受けた 69.4 2. 受ける予定がある 6.3 3. 受ける予定はない 20.7 無回答 3.6

問 15 かかりつけの動物病院はありますか。（〇は1つだけ）

1. 1つある 83.8 2. 複数ある 10.8 3. ない 0.9 無回答 4.5

問 16 飼い犬を福岡市へ登録していますか。（〇は1つだけ）

1. 登録している	84.7	→ 問 16-3へ
2. 登録していない犬もいる	—	→ 問 16-1～問 16-3へ
3. 登録していない	11.7	→ 問 16-1、問 16-2へ
		無回答 3.6

問 16-1（問 16 で「2. 登録していない犬もいる」または「3. 登録していない」と回答された方のみお答え下さい。）犬を登録していない理由について、あてはまるものをいくつでもお答えください。（〇はいくつでも）

1. 登録することを知らなかったから	61.5
2. お金がかかるから	—
3. その他	30.8
無回答 7.7	

問 16-2 (問 16 で「2. 登録していない犬もいる」または「3. 登録していない」と回答された方のみお答え下さい。)飼育犬の登録が法律で義務づけられていることを知っていましたか。(○は1つだけ)

1. 知っていた 15.4	2. 知らなかった 84.6
---------------	----------------

問 16-3 (福岡市へ犬を登録している方(問 16 で「1. 登録している」または「2. 登録していない犬もいる」と回答された方)のみお答え下さい。)犬を登録した時に交付される鑑札(右写真)を装着していますか。(○は1つだけ)

1. 装着している	29.8 → 問 17 へ
2. 装着していない、装着していない犬がいる	69.1 → 問 16-4、問 16-5 へ
	無回答 1.1

犬の鑑札
(福岡市)



問 16-4 (問 16-3 で「2. 装着していない、装着していない犬がいる」と回答された方のみお答え下さい。)装着しない理由として、あてはまるものをいくつでも選んで下さい。(○はいくつでも)

1. 首輪をしない	52.3	5. 逃亡のおそれがない	38.5
2. 鑑札が大きすぎる	12.3	6. 紛失すると困る	12.3
3. 鑑札の格好が悪い	3.1	7. その他	18.5
4. ほかに迷子札等を着けている	12.3		

問 16-5 (問 16-3 で「2. 装着していない、装着していない犬がいる」と回答された方のみお答え下さい。)鑑札の装着が法律で義務づけられていることを知っていましたか。(○は1つだけ)

1. 知っていた 21.5	2. 知らなかった 72.3	無回答 6.2
---------------	----------------	---------

問 17 狂犬病の予防注射を受けていますか。(○は1つだけ)

1. 毎年受けている	76.6 → 問 17-1、問 17-2、問 17-5 へ
2. 受けないことがある	9.9 → 問 17-1～問 17-5 へ
3. 受けていない	9.9 → 問 17-3、問 17-4 へ
	無回答 3.6

問 17-1 (問 17 で「1. 毎年受けている」または「2. 受けないことがある」と回答された方のみお答え下さい。)最後に受けた狂犬病の予防注射はどこで受けていますか。(○は1つだけ)

1. 集合注射会場 (公園や公民館など)	4.2	3. 動物愛護管理センター	1.0
2. 動物病院	94.8	4. その他	—

問 17-2 (問 17 で「1. 毎年受けている」または「2. 受けないことがある」と回答された方のみお答え下さい。)狂犬病の予防注射を受ける場所を選ぶ理由について、あてはまるものをいくつでもお答えください。(○はいくつでも)

1. 自宅から近いから	51.0
2. 犬が安心しているから	38.5
3. 料金が安いから	1.0
4. 毎年届く案内のはがきに書いてあるから	31.3
5. その他	16.7
	無回答 2.1

問 17-3 (問 17 で「2. 受けないことがある」または「3. 受けていない」と回答された方のみお答え下さい。) 狂犬病の予防注射をしていない理由について、あてはまるものをいくつでもお答えください。(〇はいくつでも)

1. 予防注射のことを知らなかったから	4.5	
2. お金がかかるから	13.6	
3. その他	72.7	無回答 9.1

問 17-4 (問 17 で「2. 受けないことがある」または「3. 受けていない」と回答された方のみお答え下さい。) 狂犬病の予防注射が法律で義務づけられていることを知っていましたか。(〇は1つだけ)

1. 知っていた	63.6	2. 知らなかった	36.4
----------	------	-----------	------

問 17-5 (問 17 で「1. 毎年受けている」または「2. 受けないことがある」と回答された方のみお答え下さい。) 狂犬病予防注射済票(右写真。以下「注射済票」とします)を装着していますか。(〇は1つだけ)

1. 装着している	14.6	→ 問 18 へ
2. 装着していない	83.3	→ 問 17-6、問 17-7 へ 無回答 2.1

注射済票(福岡市)



問 17-6 (注射済票を装着していない方(問 17-5 で「2. 装着していない」と回答された方)のみお答え下さい。) 装着しない理由として、あてはまるものをいくつでも選んで下さい。(〇はいくつでも)

1. 首輪をしない	48.8	5. 逃亡のおそれがない	38.8
2. 注射済票が大きい	10.0	6. 紛失すると困る	18.8
3. 注射済票の格好が悪い	2.5	7. その他	20.0
4. ほかに迷子札等を着けている	10.0		無回答 3.8

問 17-7 (注射済票を装着していない方(問 17-5 で「2. 装着していない」と回答された方)のみお答え下さい。) 注射済票の装着が法律で義務づけられていることを知っていましたか。(〇は1つだけ)

1. 知っていた	18.8	2. 知らなかった	78.8	無回答	2.5
----------	------	-----------	------	-----	-----

問 18 犬を最期まで飼うために、不安に思っていることはありますか。あてはまるものをいくつでも選んで下さい。(〇はいくつでも)

1. 万が一飼えなくなった際に代わりに飼育できる人がみつからない	14.4	5. 犬の頭数が多い	0.9
2. 自分の体調や年齢に不安がある	7.2	6. 飼育できない住宅への転居	6.3
3. 犬の体調や年齢に不安がある	31.5	7. お金がかかる	19.8
4. 犬の気性(ほえる、かむなど)	10.8	8. その他	19.8
			無回答 27.9

4

猫を飼っている方（問4で「3.」～「4.」と回答された方）にお聞きします。 ※猫を飼っていない方は問 26（10 ページ）へお進みください。

問 19 猫を2頭以上飼育していますか。（○は1つだけ）

1. はい 48.6 → 問 19-1 へ 2. いいえ 47.2 → 問 20 へ 無回答 4.2

問 19-1（問 19 で「1. はい」と回答された方のみお答え下さい。）猫を2頭以上飼育する理由として、あてはまるものをいくつでも選んで下さい。

（○はいくつでも）

1. 1 頭だけだと猫がかわいそうだから	22.9	
2. 里親になろうと思ったから	40.0	
3. 2 頭以上いた方が楽しそうだから	31.4	
4. 子猫を産ませたいから	—	
5. その他	40.0	無回答 2.9

問 20 1 頭の猫の出産によって、1 年で猫が20 頭以上になることを知っていましたか。

（○は1つだけ）

1. 知っていた 59.7 2. 知らなかった 34.7 無回答 5.6

問 21 猫の去勢や不妊去勢手術を受けていますか。（○は1つだけ）

1. 受けた 91.7 2. 受ける予定がある 1.4 3. 受ける予定はない 4.2 無回答 2.8

問 22 かかりつけの動物病院はありますか。（○は1つだけ）

1. 1 つある 77.8 2. 複数ある 13.9 3. ない 5.6 無回答 2.8

問 23 迷子札など猫につけていますか。あてはまるものを1つだけ選んで下さい。（○は1つだけ）

1. 首輪と迷子札をつけている	8.3	
2. 首輪に名前や連絡先を書いている	4.2	→ 問 24 へ
3. 首輪だけつけている	26.4	
4. マイクロチップを装着している	13.9	
5. 何もつけていない	44.4	→ 問 23-1 へ 無回答 2.8

問 23-1（問 23 で「5. 何もつけていない」と回答された方のみお答え下さい。）迷子札などをつけない理由について、あてはまるものをいくつでも選んで下さい。（○はいくつでも）

1. 屋内で飼っているから	81.3	4. 面倒だから	—
2. 猫が嫌がるから	25.0	5. お金がかかるから	—
3. 引っかかるなどして、猫があぶないから	28.1	6. その他	12.5

問 24 あなたは、どのように猫を飼っていますか。あてはまるものを1つだけ選んで下さい。

(○は1つだけ)

1. 屋外には一切出さず、屋内でのみ飼っている	75.0	
2. 時々外に出すことがある	13.9	
3. 猫が自由に屋内外を出入りできるようにしている	8.3	
4. 屋内には一切入れず、屋外のみで飼っている	—	無回答 2.8

問 25 猫を最期まで飼うために、不安に思っていることはありますか。あてはまるものをいくつでも選んで下さい。

(○はいくつでも)

1. 万が一飼えなくなった際に代わりに飼育できる人がみつからない	11.1	5. 猫の頭数が多い	2.8
2. 自分の体調や年齢に不安がある	18.1	6. 飼育できない住宅への転居	6.9
3. 猫の体調や年齢に不安がある	25.0	7. お金がかかる	15.3
4. 猫の気性（ひっかく、かむなど）	4.2	8. その他	20.8
			無回答 20.8

5

再び全員にお聞きします。

問 26 他人が飼っている犬で困ったことはありますか。(○は1つだけ)

1. ある 37.9 → 問 26-1～問 26-3へ 2. ない 59.8 → 問 27へ 無回答 2.2

問 26-1 (問 26 で「1. ある」と回答された方のみお答え下さい。) 困ったことの原因として、あてはまるものをいくつか選んで下さい。(○はいくつでも)

1. 糞(ふん)・尿 75.9 3. 毛の飛散 8.5 5. かまれた 10.5
2. 鳴き声 44.6 4. 放し飼い 17.4 6. その他 7.7 無回答 0.5

問 26-2 (問 26 で「1. ある」と回答された方のみお答え下さい。) 他人の犬や野良犬に困った時にどう対処したか、あてはまるものをいくつか選んで下さい。(○はいくつでも)

1. 飼い主に注意した 15.1 3. 町内会・管理組合などに相談した 11.8
2. 行政窓口相談した 2.1 4. その他 56.2 無回答 17.7

問 26-3 (問 26 で「1. ある」と回答された方のみお答え下さい。) 犬で困ることが起こる原因は何だと思えますか。あてはまるものをいくつか選んで下さい。(○はいくつでも)

1. 飼い主が正しい飼い方をしていないから 66.4
2. 犬で困っている人がいることを飼い主が気付かないから 44.1
3. 飼い主に適正な飼養をするよう、行政からの啓発が足りないから 17.7
4. その他 14.4 無回答 5.9

問 27 野良猫や近所の猫で困ったことはありますか。(○は1つだけ)

1. ある 47.5 → 問 27-1～問 27-3へ 2. ない 50.0 → 問 28へ 無回答 2.5

問 27-1 (問 27 で「1. ある」と回答された方のみお答え下さい。) 困ったことがある理由として、あてはまるものをいくつか選んで下さい。(○はいくつでも)

1. 糞(ふん)・尿 77.5 6. ノミ 2.5
2. ゴミを荒らす 40.0 7. 財産(家の壁、自動車等)を汚したり
3. 毛の飛散 5.9 キズつけたりされた 10.0
4. 敷地内に子猫を生んでしまった 18.0 8. その他 10.7
5. 鳴き声 40.2 無回答 0.6

問 27ー2 (問 27 で「1. ある」と回答された方のみお答え下さい。)野良猫や近所の猫で困ったときにどう対処したか、あてはまるものをいくつでも選んで下さい。(○はいくつでも)

1. 自分で猫よけ対策をした	42.2	4. 飼い主に注意した	2.5
2. 行政窓口相談した	1.6	5. 町内会・管理組合などに相談した	8.2
3. 動物病院に相談した	0.4	6. 我慢した	65.6
			無回答 2.7

問 27ー3 (問 27 で「1. ある」と回答された方のみお答え下さい。)猫で困ったことがなくなる原因は何だと思いますか。あてはまるものをいくつでも選んで下さい。(○はいくつでも)

1. 屋内で飼育しないから	34.4
2. 猫で困っている人がいることを飼い主が気付かないから	34.8
3. 飼い主に適正な飼養をするよう、行政からの啓発が足りないから	13.9
4. 野良猫が増えているから	44.9
5. 野良猫にエサだけをあたえたりするから	50.0
6. 犬の登録制のような法的規制がないから	26.8
7. その他	7.8
	無回答 4.3

問 28 まちの中に野良猫がいることをどう思いますか。(○は1つだけ)

1. いいことだと思う	2.3	3. あまりよく思わない	40.3
2. いてもよい	35.1	4. いなくなったほうがよい	19.3
			無回答 3.0

問 29 野良猫などによる問題をなくしていくために、市が行う施策として何が有効だと思いますか。あてはまるものを選んでください。(○は3つまで)

1. 地域猫活動※の推進	43.7
2. 野良猫の不妊去勢手術への支援	45.4
3. 野良猫への給餌行為に対する規制	31.5
4. 野良猫の引き取り	21.8
5. 飼い猫の屋内飼育(屋外に出さず屋内だけで飼育)の義務化	18.6
6. 飼い猫の登録制(飼い猫の所有者や所在地などを市に登録する制度)	26.7
7. 飼い猫の不妊去勢手術の義務化	15.5
8. その他	2.8
9. わからない	7.9
	無回答 2.3

※地域猫活動とは(解説)

野良猫による問題を地域の課題としてとらえ、地域住民が共通の理解をしたうえで行う活動です。これ以上子猫が産まれないように野良猫に不妊去勢手術を行い、トイレ清掃や場所、時間を決めたエサやりなど、地域で一定のルールを決めて野良猫を管理していきます。今いる猫たちの一代限りの生を全うさせながら、数年かけて地域から野良猫を減らし、野良猫による問題を改善することを目指します。

～ここからは地域猫活動についてのご意見をおたずねします。～

問 30 あなたは、地域猫活動を知っていましたか。(〇は1つだけ)

1. 知っており、内容も理解していた	14.7	
2. 聞いたことはあったが、内容は知らなかった	20.8	
3. 知らなかった	61.5	無回答 3.0

問 31 あなたは地域猫活動に参加したいと思いますか。(〇は1つだけ)

1. 参加したい	4.6	3. できれば参加したくない	24.1	
2. 地域で取り組むなら参加したい	21.5	4. 参加したくない	45.8	無回答 4.0

問 32 あなたは、自分の住む地域において、野良猫の問題が起こったときの対策として、地域猫活動を行うことをどう思いますか。(〇は1つだけ)

1. 賛成 80.4	→ 問 32-1 へ	2. 反対 14.0	→ 問 32-2 へ	無回答 5.5
------------	------------	------------	------------	---------

問 32-1 (問 32 で「1. 賛成」と回答された方のみお答え下さい。)地域猫活動に賛成の理由について、あてはまるものをいくつでもお答えください。(〇はいくつでも)

1. 野良猫が減るから	51.1	
2. 糞尿やゴミ袋をあさるなどの猫問題が減るから	57.3	
3. 猫と共生しながら問題解決できるから	49.8	
4. 地域の問題は地域で解決すべきだから	14.8	
5. 地域コミュニティの活性化につながるから	14.3	
6. その他	2.5	無回答 0.2

問 32-2 (問 32 で「2. 反対」と回答された方のみお答え下さい。)地域猫活動に反対の理由について、あてはまるものをいくつでもお答えください。(〇はいくつでも)

1. 野良猫が減らないから	31.3	5. 時間や労力がかかるから	29.2
2. 捨て猫が増えるから	38.2	6. 地域住民の対立が生じるから	29.2
3. 野良猫を不妊去勢するのはかわいそうだから	8.3	7. その他	14.6
4. 地域で取り組むべき問題ではないから	27.1		無回答 1.4

～最後に、十分に世話できないほどの数の犬猫を飼育することで、
動物の状態や周辺の生活環境が悪化する「多頭飼育問題」
についてのご意見をおたずねします。～

問 33 近隣での犬や猫の多頭飼育問題が原因で困った経験はありますか。(○は1つだけ)

1. はい	5.0	2. いいえ	90.1	無回答	5.0
-------	-----	--------	------	-----	-----

問 34 多頭飼育問題を解決するための市の支援として何が有効だと思いますか。(○はいくつでも)

1. 飼い主への不妊去勢手術の啓発	39.4	5. その他	5.2	
2. 飼い主への不妊去勢手術の助成	35.2	6. わからない	10.8	
3. 増えすぎた犬猫の引取り	25.5			無回答 5.4
4. 多頭飼育の飼い主への指導	66.0			

問 35 福岡市では犬猫の多頭飼育(犬5頭以上、猫10頭以上)の届出制度を定めていることを知っていましたか。(○は1つだけ)

1. 知っていた	1.6	2. 知らなかった	95.0	無回答	3.4
----------	-----	-----------	------	-----	-----

これで全ての質問が終わりました。お忙しいところ調査にご協力いただきありがとうございました。

いま一度記入もれや、記入まちがいがいないかお確かめのうえ、同封の返信用封筒に入れて5月31日(月)までにご返送下さい。(切手不要)

ペットに関する市民意識調査
報告書

令和３年７月

発行 福岡市保健福祉局生活衛生部生活衛生課
〒810-8620 福岡市中央区天神１丁目８番１号
TEL：０９２－７１１－４２７３
FAX：０９２－７３３－５５８８